

- 一、(一) 此祭田ハ一族ヨリ集メタル土地ナルニ付キ一族ノ共有ニシテ、承領セル長支ハ只之ヲ管理セルノミ(一ノ一及三ノ四及三ノ十二)
- (二) 此祭田ハ各自ノ持分ヨリ持出シテ長子ニ業主權ヲ與ヘタルモノナリ(二ノ一及二ノ五)
- 二、(一) 典ハ先ツ品物ヲ差出シテ後ニ典價ヲ受取ルニ反シ租ノ定首錢ハ先ツ金ヲ差出シテ後品物ヲ受取ルモノナリ(一ノ四)
- (二) 定首金トテ小作料中ヨリ一部ヲ地主ニ引去リ置キ翌年ノ小作料ニ當ツルコトアリ(三ノ八)
- 三、(一) 祭田ノ收入ハ先人ヲ祭ル爲メノ費用ニ充ツ(三ノ三)
- (二) 同族後人ノ邊外ノ墳墓ハ長支之ヲ祭ル義務ナシ(三ノ十五)
- (三) 事實上祭田ノ收入ノ幾分ヲ生活費ニ充ツルコトナシトセス(三ノ十六)
- 四、分家單甲第一號證、乙第二號證寫(旅、地、大、三、(民)二六〇、土地所有權確認及租地契約無効確認請求事件)

一、證人郭有海訊問調書

- 一、證人ハ光緒十年六月頃原被告分家當時其中見人ト爲リタリ分家ノ際長支カ祭田二十一日三畝ヲ承領スルコト、ナレリ承領トハ長支カ受取りタリト云フコトナリ其祭田原被告等ヨリ集メタル土地ナルニ付キ原被告等ノ共有ニシテ原告ハ只之ヲ管理セルノミナリ
- 二、今御示シノ甲第一號證中重責トアルハ長支ニ於テ年々祖先ノ祭ヲ爲スヘキ筈ナルニ之ヲ怠ルトキハ他ノ者ニ於テ不服ヲ申立ルナラン其際然ルヘク處置スル意味ナランモ其邊ノ事ハ證人ニ於テ明白ニ申上ケルコト能ハス(此時甲第一

號證ヲ示シタリ)

- 三、外租ニハ定首錢ヲ付スルモノト否ラサルモノトアルモ甲第一號證ノ外租云々ハ定首錢ヲ付スル筈ナリシヤ否ヤ證人ハ承知セス
- 四、典ハ先ツ品物ヲ差出シテ後典價ヲ受取り定首錢ハ先ツ金ヲ差出シテ後品物ヲ受取ルモノユヘ典ト定首錢ノ場合トハ自ラ異レリ甲第一號證ノ分單ニヨレハ先ニ金ヲ受取ルコト即チ定首錢ヲ受取ルコトハ出來サルモノト考フ
- 五、原告カ祭田管理中ニヨリ定首錢ヲ得タル如キ場合ニ他ノ三支等カ之ヲ知り祭田ノ管理權ヲ長支ヨリ奪フハ分單ニ所謂重責ニ相當スルヤ否ヤ證人ハ存セス
- 六、乙號證ニ「夥出祭田二十一日三畝長支分書已註明白」トアルハ原被告四家一般ノ有即チ共有ナルノ意ナリ(此時乙第一號證ヲ示ス)
- 七、祭田二十一日三畝ハ總財産中ヨリ取除キ其餘ヲ原被告四家ニ均分シタルモノナリ
- 八、外租ハ定首錢アルト否トヲ問ハス小作料ヲ受取り得ル故祭祀ヲ爲スニ差支ナキニヨリ分單作成ノ時外租ヲ許シタルモノニテ典賣ハ之ヲ許サ、リシ趣旨ナルヤトノ御尋ネナルモ證人ハ分單ノ時外租ヲ許スニ定首錢ヲ付スルヤ否ヤヲ問カサリシニ付其御答ハ出來難シ
- 九、分單ノ際家屋ヲ長子二十八人ニ二十七間、二支三十二人ニ五十間、三支七人ニ二十間四支十人ニ二十間ヲ分配セシ

ハ如何ナル故ナリシカ存セス從ツテ長子ニハ家屋ノ分配少キ爲メ祭田ヲ與ヘタルモノナルカ證人ハ一向承知セス

二、證人周文海訊問調書

一、此分單(甲第一號證ヲ指ス)ハ原告家ノ分家當時作成セシモノナリ同號證中長支分祭田二十一日三畝ハ各自ノ持分ヨリ持出シテ世々長支ニ分給シ長子ニ業主權ヲ承領セシメタル意ナリ長子二三四支ノ夥産即チ共同ノ財産トシテ只長子ニノミ之ヲ保管セシムルノ意思ニハアラス最早三十年ヲ經過セルヲ以テ詳細申立難キモ要スルニ其當時ノ約束ハ甲第一號證記載ノ通りナリ

二、甲第一號證中毎年大節云々ハ七月十五日香ヲ供ヘ靈ヲ祭ルコト恰モ分家前ノ家例ニ從ヒテ之ヲ爲シ若シ之ヲ祭ラサルトキハ重責スル意ナリ重責トハ如何ナル方法ニテ責ムリカハ其場合ニヨルヘキコトニテ證人ニ於テ明言スルヲ得ス然レトモ契約當時ノ意思ハ嚴重ニ責メテ永遠ニ之ヲ實行セシムル意思ナリシナリ

三、又甲第一號證ニ爲添補房間トアル文字ハ上段ニ繼續シテ讀ムヘキモノナリ不分榷貨生理ノ一句ハ其意味ヲ解シ難キ

モ原告家ニ永成和、永昌棧ノ資産及營業ヲ分配セサル代リニ祭田ヲ與ヘタリトノ意味ニハアラサルヘシ

四、祭田ヲ長子ノミニ與ヘタルハ長子ハ祖先ノ祭ヲ爲スヘキモノニ付與ヘタルマテニテ他ニ特別ノ事情アリト思ハス

五、此三通(乙第一、二、三號證ヲ指ス)共其當時ノ分單ニ相違ナシ夥出祭田云々ノ文意ハ各自ニ分配セラレタル地所内各自ヨリ若干ヲ出シ合セタリトノ意ニアラスシテ祭田ヲ長支ニ分給スル爲メ總財産ヨリ之ヲ除外シ其餘ヲ各自ニ分配シタル意ナリ

六、二支以下ハ學資ヲ要シタルニヨリ之ニ對スル分配額ヲ少クシ長支ニ比較的多クヲ分配シタル様ノ話ニアリシ様記憶セリ

七、祭田ヲ除キタル外地所ハ四均分シ籤ヲ以テ分配シ家屋ハ其家族ノ多少ニ從ヒ分配シタルモノナリ

八、祭田カ全然長子ニ歸スル以上ハ他ノ三支ハ祭田ニ關係ナキカ如キモ乙第一號證ニ祭田二十一日分計明云々ト記載シタリトテ毫モ差支ナカルヘシ

三、鑑定人文候訊問調書

一、此證書(甲第一號證)中ノ長支分祭田地二十一日三畝トアル長支トハ李家ノ財産分配當時ノ長支ヲ云フ之ニ祭田二十一日三畝ヲ分ケルノ意、合除トハ全部ノ持分ヲ集メルノ意外庄地即チ居村外ノ地所ヲ集メテ二十一日三畝ヲ長子長孫ニ歸セシム承領トハ保管ヲ理スルコトニテ同族ハ之ニ付キ争フコトヲ許サス又此祭田ハ租ヲ許スモ質又ハ賣却スルコトヲ許サス大節ハ大祭ノ謂ニシテ朔望大節ニハ香華供物ヲ爲シ祭祀ス違フ場合ハ重責ス此重責スト云フコトハ一言ニシテ盡ス能ハサルモ要スルニ承知セストノ意ナリ例ヘハ爾後祭田ノ管理ヲモ爲サシメスト云フ類ナリ餘積云々トハ祭祀ヲ爲シ尙經費ノ餘リアラハ墳墓等ヲ修覆シ祭具ヲ求ム家廟ハ先祖ヲ祭ル爲メ自己ノ地内ニ廟ヲ建ツルノ意ナリ添補房間並不分榷貨生理ノ文意ハ解釋シ難シ

二、分祭田地トアル「分」トハ彼等ニ承領セシムト解スヘシ

三、支那ノ慣習ニテハ祭田地ノ收入ハ先人ヲ祭ル爲メノ費用ニ充ツルノミナラス分家後各家ニ於テ死亡シタル者ノ靈ヲ

祭ル爲メニモ使用スヘキモノナリ

四、祭田ハ管理ノ爲メ長支ニ與ヘ置クモノニテ此祭田ハ各兄弟等ヨリ取集メタルモノナレハ各人ノ共有ニ屬スヘキモノナルモ各人ニ於テ管理スルハ煩ニ堪ヘサルヲ以テ長支ニ管理セシムルナリ夫レハ支那人一般ノ慣習ナレトモ各家ノ慣習ニヨリテハ同族甲乙丙順次ニ管理ヲ爲ス者モアルナリ

五、此乙第一號證中ノ末尾夥出祭田二十一日三畝長支分書已註明白ハ甲第一號證ノ長支分祭田云々ニ該當ス數人ノ兄弟仲間ヲ夥ト云フ即チ兄弟仲間ノ出シタル田地二十一日三畝アルトノコトナリ長支分書已註明白ハ甲第一號證分單ニヨリテ明カナリトノ意ナリ數人ノ兄弟カ分得スヘキ地所ノ中一部ヲ出シ殘リノ地所ヲ數人ノ兄弟カ分得スルユヘ此長支ノ祭田地ハ他ノ同族トノ共有ナルコトヲ知ルニ足ル

六、祭田ハ各人ノ共有ナリト雖モ其管理ハ長支ニ屬シ老契ハ管理人タル長支ニ交付スヘキモノナリ

七、合除ト夥出トハ同シ意味ナリ長支カ管理ノ義務ヲ盡サ、ルトキ他ノ同族ハ直チニ其他所ヲ取リ上ケ自己ニ管理スルヲ得スト雖モ場合ニヨリ協議ノ上之ヲ管理スルコトヲ得ルモノナリ

八、小作者ハ定首金トテ小作料ノ内ヨリ或一部分ノ小作料ヲ地主ニ於テ引去リ置キ翌年ノ小作料ニ充ツルコトアリ併ナカラ小作ニハ定首金ナキテ普通トナセリ

九、甲第一號證ノ準外租トハ全體ノ文意上ヨリシテ普通ノ出租即定首金ナキ出租ト認ム其外八年々ノ小作高ニテ祭祀ヲ爲スモノナレハ其小作ニハ定首金ナキモノト謂ハサルヲ得サルナリ

十、支那ノ慣習ニテハ例ヘハ百日地ニ對シ長支八十日地ヲ他ノ二三ノ同族ハ其他ノ九十日地ヲ分得スルトキハ長支ノ取得少キ故其九十日地ノ内ニ於テ祭田地ヲ長支ニ與ヘ其餘ヲ他ノ同族ニ分與スル如キ契約ヲ爲スコトナシ何トナレハ祭田ハ其者ノ所有ニ歸スルコトヲ得サルモノニテ長支ノ分得セシ地所ハ他ノモノヨリ僅少ナル十日地ヲ與フル如キコトハ爲サ、レハナリ

十一、甲第一號證ノ世々歸長子承領トアル歸スノ字ハ承領ニ歸ストノ意ニシテ一人ノ保管ニ歸スルヲ云フ經營ヨリハ意味重クシテ受ケ收メ持チ居ルトノ意ナリ

十二、乙第二號證ニ夥出祭田ノ文字アルニヨリ夥出ノ二字ニテ祭田ヲ共有ナリトノ意ニ解決スル譯ナリ

十三、單二分家單ニ歸長子長孫トアルノミニテハ他ノ同族ノ管理ニ歸セシムルコトヲ得サルモ本件分單ニハ種々ノ條項ヲ書加ヘアリテ長子孫カ義務ヲ盡サ、ルトキハ同族人等ノ管理ニ歸セシムルコトヲ得ト云ヒシ譯ナリ

十四、如何ナル事實アレハ重責ニ値ヒスルカハ條理ニ悖ル場合ノ事實如何ニヨル譯ナレハ豫メ明言シ難シ

十五、同族後人カ邊外ニ行キ死亡シタル墳墓アルモ長支ハ之レヲモ祭ルニ及ハス

十六、祭田ノ收入ヲ普通ノ生活費ニ使用スルヲ得サルハ勿論ナルモ事實上ハ其幾部ヲ生活費ニ充ツルコトナシトセス

分家單

甲第一號證
立分券人李啓珍同侄子 佐 昌 孫榮官等因家口紛繁礙難合居情願各立烟爨「長支分祭田地貳拾壹日參畝此係合除外庄地世

世歸於長子長孫承領合族人等不許爭競此地只準外租不準典賣每月朔望每年大節香楮供獻按家禮遵行如違重責倘有餘積修墳塋整碑礪修家廟置祭器諸凡費用皆從此出為添補房間並不分獲貨生理」共分外庄地壹佰拾叁日內有買旗地貳拾日共均錢糧四拾畝分本庄地叁拾貳日叁畝半分北街路東房園貳處閣王鼻子裡溝北坡蠶場四分一劉才溝東松嵐堂處西山坡北面場園壹處所有房間地畝有分家賬為準外有銀錢牲畜傢器等項按分均分統歸嗣下為定至於永昌炳賑目貨物四分均分不開炳者出兌開炳者承領自今而後生理仍舊字號各自得利外庄地畝各收地租各兌錢糧塋盤有合地合樹合夥經營樹嵐蠶場有各地各房有賬可查恐後無憑立此為證

中見人

張	劉	韓	韓	韓	王	周	胡	韓	郭	王
振	丕	興	興	興	延	文	殿	興	有	世
功	盛	鐸	純	桂	詰	海	海	志	海	慶
于	孫	董								
宗	國	志								
美	豐	沼								

代字人

孫	劉	李	由	陳	韓
殿	文	同	成	士	恆
玉	昌	萬	俊	環	

光緒十年六月二十八日 吉立

分家單

乙第二號證

立分券人李啓珍同侄子^{不貴}鴻昌侄孫榮官等因家口紛繁礙難合居情願各立烟爨三支分永昌棧一半生理外庄地四拾四日四畝半內有買契八日半均錢糧拾六畝本庄地叁拾六日半閻王鼻子外溝北坡蠶場四分一沙崗子東樹嵐一處西場下場園一處中街東房園一處所有房間地畝有分家賬為準外有銀錢牲畜傢器等項按分均分統歸嗣下為定至於永昌炳賑同貨物四分均分不開炳者出兌開炳者承領自今而後生理仍舊字號各自得利外地畝各收地租各兌錢糧塋盤有合地合樹合夥經營樹嵐蠶場有各地各房有分家賬可查夥出祭田二十一日半長支分書註明恐後無憑立字存證

中見人

張	劉	韓
振	丕	興
功	盛	鐸

光緒十年六月二十八日 吉立

代字人

韓董李由陳劉孫孫王于郭韓胡周王韓韓

恆志同成志文國國世宗有興文文延興興

環沼昌萬俊玉應殿慶美海志海海詰桂純

11104

鑑定事項

- 一、「立分契人」ノ意義
- 二、祭田ノ管理者
- 三、祭田ノ所有權
- 四、祭田ノ處分、變更、及利用
- 五、祭田收益ノ處分
- 六、祭田管理者ノ義務
- 七、定首錢ノ意義
- 八、「並不分襍貨生理」ノ意義

鑑定要旨

一、立分契人トハ分家證ノ作成名義人ノ義ナリ(一ノ二)

11105

- 二、祭田ノ管理ニ長子經營ト合族輪番ノ經營トノ二種アリ其何レナリヤハ祭田設立者間ノ契約ニヨリテ定マル(一ノ一、三ノ五、四ノ二及四ノ八)
- 三、(一) 祭田ハ一人ニ從屬セシムヘキモノニアラスシテ同族ノ共有トナスヘキモノナリ(一ノ三)
- (二) 當地方ニテハ祭田ハ同族共有ノ場合ト長子長孫ニ歸屬セシムル場合トアリ此祭田ハ後者ニ屬ス(二ノ一、二ノ二、二ノ三、二ノ十、三ノ一、三ノ五、四ノ二、四ノ六及四ノ八)
- (三) 祭田管理者ハ業主權ヲ取得ス(四ノ三)
- 四、(一) 祭田ハ典賣シ得サルモ租出ハ差支ナシ(一ノ四及二ノ六)
- (二) 祭田ヲ宅地ニ變更シ家屋ヲ建築スルハ一族ノ同意アレハ差支ナシ(一ノ六、二ノ九及三ノ七)
- (三) 管理者カ困窮シタルトキ又ハ重大ナル事情アルトキハ祭田ヲ賣却又ハ典出スルコトヲ得(四ノ三)
- 五、(一) 祭田設定後ニ死亡シタル者ノ祭祀費用ハ祭田ノ收益ヨリハ支出スルコトヲ得ス(一ノ五及二ノ七)
- (二) 祭田ノ收益ハ祭田設定者ノ祖先及子々孫々迄ノ祭祀費用ニ使用ス(四ノ一)
- (三) 祭田ノ收益ハ承領者ノ生活費ニ充ツルモ差支ナシ(二ノ八)
- 六、(一) 甲第一號證ノ「重責」中ニハ管理者カ重大ナル義務違背アリタルトキハ其祭田承領者ヨリ祭田ヲ取上ケルコトモ亦含マル(二ノ五)
- (二) 甲第一號證中「重責」ハ單ニ叱責ニ止リ祭田ヲ管理音ヨリ取上ケ得ルモノニ非ス(三ノ四及四ノ七)

- 七、(一) 租料不拂ノ場合ヲ保證スル爲メ租料定首錢トシテ租出地ニ付キ受取ルモノナリ長期ノ租料ヲ定首錢トシテ受取リタルトキハ典同一トナル(二ノ六)
- (二) 定首錢ヲ受取リタルトキハ租料ヲ減額スルコトアリ(二ノ十二及四ノ九)
- (三) 定首錢ニハ敷金ノ如キ性質ノモノト典同一性質ノモノトアリ其何レナリヤハ當事者ノ意思ニ依リテ定マル(三ノ二及四ノ四)

八、(一) 長子カ祭田ヲ得タルヲ以テ雜貨營業ニ關セサルノ義ナリ(四ノ五)

(二) 意義不明ナリ(一ノ一)(旅、高、大、四、(控)二、土地所有權確認及租地契約無効確認請求控訴事件)

一、鑑定人喬徳本訊問調書

- 一、御示ノ證書ニテハ祭田二十一日三畝ノ管理ハ長子長孫ニ委任シタルモノナリ而シテ同證中ノ雜貨生理云々ノ文詞ハ祭田ト何等交渉ナキニヨリ鑑定人ニハ如何ナル意ナルヤ不明ナリ
- 二、右甲一號證ノ立分契トハ分家證ノ作成名義人トノ意ナリ又同證中ノ重責トハ祭田管理者カ管理者タル義務ニ違背シタルトキハ譴責ストノ意ナルモ同文詞ニ祭田管理者カ義務ニ違背シタルトキ同族カ祭田管理者ヨリ祭田ヲ取上ケルコトヲ含ムヤ否ヤ鑑定人ニハ不明ナリ而シテ祭田管理者カ義務ニ違背シタルトキ祭田ヲ其管理者ヨリ取上ケルヤ否ヤハ祭田設定當時ニ於テ一定スヘキモノナリ
- 三、祭田ハ一人ニ從屬セシムルトキハ祭田ノ性質ヲ没却スルニヨリ一人ニ從屬セシムヘキモノニアラスシテ同族共有ト

ナスヘキモノナリ

二二〇八

- 四、祭田ハ絶對ニ典賣シ得サルモ租出スルハ差支ナシ而シテ租出ノ場合租料ノ一年分位ヲ定首錢トシテ受取ルハ差支ヘナキモ永キ期間ノ租料ヲ定首錢トシテ受取ルハ租ヲ暗ニ典ト同一ノ性質ニ變スルニヨリ如此永キ期間ノ租料ヲ定首錢トシテ受取ルコトハ租トシテハ許サ、ルトコロナリ
- 五、祭田設定後ニ死亡シタルモノ、祭祀費用ハ祭田ノ收益ヨリハ支出シ得ス又祭田收益ヲ祭田承領者ノ世話費用ニ支出スルコトハ甲第一號證ニヨリテハ爲シ得サルトコロナリ
- 六、祭田ヲ宅地ニ變更シ家屋ヲ建築スルハ一族ノ同意アルトキハ差支ヘナシ

二、鑑定人曹庚西訊問調書

- 一、當地方ニテハ祭田地ハ祭田設定當時ノ契約ニヨリ同族共有ノ場合ト長子長孫ニ祭田ヲ歸屬セシムル場合トアリ一定セサルモ同族共有ノ場合ハ祭田ハ同族カ輪番シテ管理ヲ爲スナリ
- 二、御示ノ證書ニヨレハ祭田地ハ長子長孫ニ歸屬シタルモノト認メラルナリ
- 三、御示ノ證書中夥出祭田二十一日三畝云々トアルハ祭田設定當時同族カ各自若干ノ土地ヲ出シ合ヒ二十一日三畝ノ祭田ヲ設定シタリトノ意味ニシテ甲第一號證ト相俟テ祭田カ長子長孫ニ歸屬シタルコト愈々明白ナリ
- 四、御示ノ甲第一號證中合除外庄地云々トアルハ前後ノ文詞ヨリ觀テ祭田地ハ居村外ニアル土地ニシテ同族カ分家ノ際分得スヘキ土地ヨリ取除キタリトノ意ニ解釋セラル、モノニシテ乙第一號證ノ「夥出」ト其意ヲ同フスルモノナリ

五、御示ノ甲第一號證中重責トハ祭田管理者カ管理者タル義務ニ違背シタルトキ重ク譴責スルトノ意ニシテ尙祭田管理者カ祭田ヲ出典シ又ハ祭祀ヲ爲サ、ル等ノ重大ナル義務違背アリタルトキハ其祭田ヲ承領者ヨリ取上クルコトモ重責中ニ含マレ居レリ

六、祭田承領者カ飢餓ニ瀕スル等非常ナル窮迫ナルトキ又ハ重大ナル事情アル場合ト雖モ祭田ノ典賣ハ許サ、ルモノナルモ租出スルハ差支ナキモノナリ而シテ租料不拂ノ場合ヲ保證スルニ適當ナル租料一年分ヲ定首錢トシテ租出地ニ付受取ルハ典トハ異ナルニ付差支ナキモ三年分又ハ五年十年分ノ租料ヲ定首錢トシテ受取リタルトキハ定首錢付租ニアラスシテ典ト同一トナルモノナリ

七、祭田設定後死亡シタル者ノ祭祀費用ハ祭田ノ收益ヨリ支出セサルモノナルモ死亡者カ極貧ナル如キ特別ノ場合ハ該收益ヨリ死者ノ祭祀費用ヲ支出スルコトアリ

八、祭田ノ收益ハ祭田承領者ノ生活費ニ充當スルモ差支ナシ

九、祭田ハ墳墓ニ支障ナキ限り宅地ニ變更シ家屋ヲ建築スルモ差支ナシ

十、甲第一號證ノ承領ノ文詞ノ意義ト永遠爲業トノ文詞ノ意義トハ同一ニアラサルモ承領云々ノ文詞ノ前後ノ關係ヨリシテ祭田承領者ハ或制限ヲ爲シタル業主權ヲ得タルモノト解セラル、ナリ

十一、乙第一號證ノ取極メハ不當ノ取極メナルモ無効ノ取極ニアラス

十二、定首錢ヲ受取リタルトキハ租料ヲ減額スルコトアルモ此場合ニテモ普通ノ租ト異ナルコトナシ

二二〇九

十三、甲第一號證ニ祭田收益ヨリ支出ヲ爲シタル上剩餘金アルトキハ廟ヲ造リ又ハ修繕ストアルハ承領者カ世話費ヲ支出シ尙剩餘金アルトキヲ指シタルモノト鑑定人ハ思料ス

三、鑑定人對通告訊問調書

- 一、普通祭田ヲ設定シタルトキハ祭田ノ處分法等ハ詳細明記シアルモ御示甲第一號證ニ此等ノ記載ナク普通ノ祭田設定ト異ナレルモ祭田カ長子長孫ニ歸屬シタルコトハ判明ス
- 二、定首錢ニハ數金ノ如キ性質ノモノト典ト同一ノ性質ノモノトアリ其區別ハ標準ナク當事者ノ合意ニヨリ定マルモノナリ

三、一年中ノ大節ハ正月ト春清明ト七月十五日ト十月一日ニシテ此大節ノ祭祀費用ハ身分關係アリテ一定セサルモ大低一期二十圓位ナルカ故一年間百二十圓位ニシテ毎月一日及十五日ノ祭祀費用ハ極僅少ノ額ナリ

四、御示ノ甲第一號證中「重責」ハ昔時ニ於テハ民間ニテ責罰ヲ爲シタルモ現今ニテハ然ルコトハ爲シ得ス只吐責スルノミニシテ祭田ヲ管理者ヨリ取上ケ得ルモノニハアラス

五、祭田ハ普通合族ノ輪番經營ナルモ祭田設定當時ノ契約ニヨリテハ一人ニ歸屬セシムルコトアリ而シテ一人ニ歸屬シタルトキハ老契ノ交付ニテ業主權ヲ取得スルモノナリ

六、祭田管理者カ自己ノ責任タル祭祀ヲ爲ス限リハ其居村ヨリ他ニ移住スルモ差支ナシ

七、祭田管理者カ祭田ノ宅地ニ變更シ家屋ヲ建築スルハ差支ナキモ合族ノ者ニハ相談ヲ爲スヲ經常トス

八、御示ノ甲第一號證ノ前文ニヨレハ長子ニ於テ業主權ヲ得タル如キモ後文ニテハ合族ニ束縛セラル、如シ而シテ乙第一、二、三號證ニテハ祭田カ何人ニ歸屬シタルヤ鑑定人ニハ判明セス

四、鑑定人對心田訊問調書

一、兄弟數人ノ分家ノ際設定サレタル祭田ノ收益ハ祭田設定者ノ祖先及子々孫々迄ノ祭祀費用ニ使用スルモノナリ而シテ祭田設定者ノ一人カ分家後別ニ塋盤ヲ設ケタルトキ其塋盤カ以前ノ塋盤ノ附近ナルトキハ祭田管理者ノ意見ニヨリテ其祭祀費用モ祭田ノ收益ヨリ支出スルコトヲ得ルモ後ニ設ケラレシ塋盤カ前ノ塋盤ヨリ遠隔ノ箇所ニ設ケラレシトキ祭田管理者ハ其祭祀費用ヲ祭田收益ヨリ支出スルコトヲ拒絕シ得ルモノナリ

二、祭田ノ管理ニ長子經營ト合族ノ輪番經營ノ二種アリテ其中何レニヨルカハ祭田設定者間ノ契約ニヨリ定ムルモノナリ而シテ祭田ノ收益ヨリ祭祀其他ノ費用ヲ支出シ剩餘金アルトキ長子經營ナルニ於テハ其剩餘金ハ管理者タル長子ノ所得トナリ合族ノ輪番經營ナルトキハ合族一同ニテ分配スルモノニシテ合族ノ輪番經營ノトキハ書面ニテ收支計算ヲ明カニシテ之ヲ合族ニ報告スルヲ要スルモ長子經營ノトキハ何等ノ方法ヲ以テスルモ收支計算ヲ合族ニ報告スルノ要ナシ

三、祭田管理者ハ老契ノ交付ヲ受ケテ業主權ヲ取得スルモノナリ而シテ規則ヨリ云ハ此場合業主權ヲ得タル上ナリトテ賣却又ハ典出シ得サルモ事實飢餓ニ瀕スル等管理者カ困窮シタルトキ又ハ重大ノ事情アルトキハ賣却又ハ典出シ得ルモノナリ

四、定首錢ニ二種アリ一ハ租出期間ニ照シ其租料支拂ノ場合ヲ保證スル數金ノ如キ性質ノモノニシテ之ヲ照借定首錢ト稱ス一ハ典ト同一ノ性質ニシテ租出期間ニ對スル租料ニ相當ナル過分ノ金額ヲ受取りタルモノナリ而シテ祭田承領者カ照借定首錢又ハ典ト同一ナル定首錢ヲ受取りタルトキ合族ハ該祭田ヲ承領者ヨリ取上ケ他人ニ經營セシムルヤ否ヤハ祭田設定當時ノ契約如何ニヨリ定マルモノナリ

五、御示ノ甲第一號證中「並不分據貸生理」トアルハ祭田承領者タル長子カ他ノ者ヨリ餘分ナル祭田ノ分得ヲ爲シタルヲ以テ雜貨營業ニ關係セストノ意味ナリ而シテ同證全文ニヨレハ祭祀費用ハ勿論廟ノ修繕費等ハ祭田ノ收益ヨリ支出スルコトハ判明スルモ此等ノ支出ヲ爲シタル上尙剩餘金アルトキ其剩餘金ノ處分方ニ付テハ明記シアラス又同證ニヨレハ長子ハ他ノ分得者ヨリ家屋ノ分得ノ少ナカリシコト判明ス

六、御示ノ甲第一號證及乙第一號證ヲ對照スルトキハ祭田二十一日三畝ハ長子ニ歸屬シタルコト明白ナリ

七、甲第一號證中「重責」トハ經營者カ責任ヲ盡ササルトキハ吐責ヲ爲ス意ニシテ祭田ヲ經營者ヨリ取上クル意ニハアラサルナリ

八、甲第一號證中「長子承領」トアルハ長子ニ於テ業主權及管理權ヲ取得シタルモノナリ

九、數金ト同一ノ性質ナル定首錢ヲ受取りタルトキハ租料ハ減額セサルモ場合ニヨリテハ減額スルコトアリ又典ト同一性質ナル定首錢ヲ得タルトキモ租料ヲ減額スルコトアリ

十、祭田承領者カ墳墓ノ祭祀等ノ責任ヲ盡ス限リハ祭田承領者タル長子ハ他ニ移住スルモ差支ナシ

判 示 事 項

土地占有ノ效力

判 決 要 旨

三十五六年間係争地ニ對シ共有權ヲ事實上行使シ居リテ其間何等被告ノ故障ナカリシ事實ニ徴スルトキハ原告主張ノ如ク原告ニモ共有權アルモノト推定スルニ足ルヘキモノトス(旅、地、明、四一、(民)二三、山林共有權確認請求事件)

判 決

原 告 劉 金 實
 被 告 劉 治 經

主 文

被告ハ旅順管内岔溝會中劉家屯下溝河東岸南坡所在東至石南至山頂一段八日地ノ持分ニ對シ原告ノ共有權ヲ確認スヘシ

訴訟費用ハ被告ノ負擔トス

事 實

原告ハ一定ノ申立トシテ主文掲記ノ如ク判決アリタシト申立事實トシテ咸豐五年十月六日原被告ノ祖先劉文秉ハ實兄劉

文基ナルモノト共ニ本訴ノ土地及其他ノ土地ヲ楊姓ヨリ買受ケ同治二年六月九日劉文基ノ子劉志芳及劉文秉ノ子劉志漢（原告ノ父）劉志超（被告ノ祖父）分家ノ際其他ノ土地ヲ分配シタルモ本訴ノ土地ハ荒山ナリシヲ以テ依然共有トナシ置キ其後同十一年十一月一日劉志漢、劉志超分家ノ際モ前同様分配ヲナサシテ共有トナシ置キタリ然ルニ今ヲ距ル略十八九年以前該土地ニ松樹生植シタルヲ以テ今日ニ至ルマテ既ニ三回ノ伐枝ヲナシ最初ノ二回ハ原告モ其協議又ハ分配ヲ受ケタルモ昨三十四年秋伐採ノ際ニハ之カ分配ヲナサ、ルノミナラス被告ハ原告ノ共有權ヲモ否認スルヲ以テ本訴ニ及ヒタル所以ナリト陳述シ證據トシテ甲第一號證ヲ提出シ乙第一號證乃至第三號證及鑑定人文後候ノ供述並ニ劉金章ノ證言ヲ其利益ニ援用シタリ

被告ハ原告ノ請求ハ之ヲ棄却セラレタシト申立テ其事實トシテ原被告ノ祖先劉文秉ハ劉文基ト共ニ本訴ノ土地ヲ楊姓ヨリ買受ケ其後劉文基ノ子劉志芳、劉文秉ノ子劉志漢（原告ノ父）劉志超（被告ノ祖父）分家ノ際本訴ノ土地ヲ分配セス依然共有トナシ置キタル事ハ原告主張ノ如キモ同治十一年十一月一日劉志漢、劉志超分家ノ際本訴ノ土地ハ劉志超ニ歸屬シタルモノナルヲ以テ從ツテ劉志漢ノ子タル原告ニハ全然共有權ヲ有セサルモノナリ而シテ該土地ニ松樹生植シ既ニ本年ニ至ル迄三回ノ伐枝ヲナシタル事ハ事實ナルモ最初二回伐採ノ際ニハ被告ハ不在ナリシヲ以テ原告等カ如何ナル協議ヲナシテ分配ヲナシタルヤ知ラス依ツテ原告ノ請求ハ不當ナリ又係爭地ノ四至中南北ハ原告陳述ノ通りナルモ東ハ水溝ニシテ西ハ山界ナリト陳述シ證據トシテ乙第一號證乃至第三號證ヲ提出セリ

當署ハ職權ヲ以テ證人劉金章、劉金英、劉治更ヲ訊問シ且ツ檢査ヲナシタリ

理由

依テ案スルニ乙第二號證ニ依レハ同治二年六月九日劉志漢、劉志超等分家ノ際（劉志漢カ上兄ナルノ故ヲ以テ分契ニ同人ノ氏名ノミヲ記載セルモノナルコトハ當事者間ニ爭ナシ）東崖荒山（本訴ノ土地）ヲ共有ニナシ置キタルコトハ明白ニシテ又當事者間ニ爭ナキ處ナリ然ルニ被告ハ其後同十一年十一月一日劉志漢、劉志超分家ノ際作成セル乙第三號證中ノ下溝東崖河東地二段ハ乙第二號證中ノ東崖上河東崖道南道北地及東崖荒山ヲ指スモノニシテ該證中單ニ二段トアリテ、四至記載ナキハ老契（乙第一號證）ニ依リ其四至分明ナルニ付之ヲ省略セルモノナリ即本訴ノ土地ハ乙第一號證ノ四至内ニアルモノニシテ全然被告家ニ歸シタルモノナリト云フモ乙第二號證ニハ該東崖道南地中ノ荒山（本訴ノ土地）ヲ特ニ除外シテ劉志漢、劉志超等ノ共有トナス旨記載アリ而シテ其後ニ作成セラレタル乙第三號證ニハ單ニ下溝東崖河東地二段トアリテ該荒山ニ付テハ何等記載ナキヲ以テ右二段地ハ乙第二號證前段記載ノ東崖上河東崖道南道北地二段ヲ指スモノニシテ同號證後段記載ノ東崖荒山ヲ包含セサルモノト解釋セサルヲ得ス且ツ鑑定人文後候モ前同一趣旨ノ供述ヲナスノミナラス第一、二回伐採ノ際ニハ原告及被告ニモ相談ヲナシタリ又第一回伐採ノ際ハ少量ナリシヲ以テ全部自分カ費ヒ第二回伐採ノ際ハ原告ニモ分配セリ此爭ハ光緒三十四年ニ起リタルモノナリトハ參考ノ爲メ訊問シタル劉金章ノ供述スル所ニシテ劉志漢、劉志超分家以來原告家ニ於テ殆ント三十五年間係爭地ニ對シ共有權ヲ行使シ居リテ其間何等被告ノ故障ナカリシ事實ニ徵スルトキハ原告主張ノ如ク原告ニモ共有權アルモノト推定スルニ足ルヘキモノトス而シテ被告ハ係爭地ノ四至中東ハ水溝ニシテ西ハ山界ナリト云フモ當署ハ檢證ノ結果原告陳述ノ通り相違ナキヲ認メタリ依テ

鑑定事項

- 一、賣契ニ四至ノ記載アリテ其後ノ分契ニ四至ノ境界ヲ記載セサルモノノ效力
- 二、「在夥」ノ意義
- 三、「不與別分相干」ノ意義
- 四、「分書分約」ノ意義
- 五、共同相續地ノ分割
- 六、分家單寫
- 七、退契寫

鑑定要旨

一、(一) 賣契ニ耕地及荒山ヲ含メル土地ノ四至ノ記載アリテ其後ノ分契ニ場所及耕地ノ面積ノミヲ記載シ四至ノ境界ヲ記載セサルトキト雖モ該荒山ハ當然之ニ含マルモノトス(一ノ一)

(二) 乙第二號證ノ如ク「東崖道南道北地二段二日」ト「東崖荒山」トヲ各別ニ記載シ且「東崖荒山」ヲ共有トナス旨ノ記載アル場合ニハ右「東崖荒山」ハ東崖道南道北地二段中ヨリ除外サレタルモノト看做ササルヲ得ス(一ノ二)

二、「在夥」トハ共有ノ義ナリ(一ノ四)

三、乙第四號證中「不與別分相干」トハ分得者ニ於テ他ノ土地ニ關係ナキコトヲ云ヘルナリ(二ノ一)

四、「分書分約」トハ一ノ分家單ヲ指シタルモノト見ルヲ得(二ノ四)

五、共同相續地ハ一半ハ之ヲ分割シ一半ハ其儘共有ト爲シ置ク例少シ(二ノ九)

六、分家單乙第二、第三及第四號證寫

七、退契乙第一號證寫(旅、地、明、四一、(民)二三、山林共有權確認請求事件)

一、鑑定人文後候訊問調書

一、清國ノ慣例トシテ例ヘハ賣契ニ耕地及荒山ヲ含メル一段ノ土地ノ四至ヲ記載シアリテ其後ノ分契ニ某所地一段何日(耕地ノ面積ノミヲ記載ス)ト記載シ其四至ノ境界ヲ記載セサルトキハ假令耕地ノミノ面積ヲ記載セル場合ナリト雖トモ該荒山ハ當然之ニ含メルモノトス

二、依テ乙第一號證(退契)中河東道南地及同道北地ト乙第二號證(同治二年分單)中「東崖上河東崖道南道北地二段二日」及「東崖荒山」ト同一ノ土地ナリトセハ乙第一號證以後作成ニ係ル分契ニ「東崖道南道北地二段二日」ト記載セハ右「東崖荒山」ハ該二段二日中ニ包含スル事ニナルモ乙第二號證ノ如ク「東崖道南道北地二段二日」ト「東崖荒山」トヲ各別ニ記載シ且ツ特ニ右「東崖荒山」ヲ共有トナス旨記載アルニ於テハ右「東崖荒山」ハ「東崖道南道北地二段」中ヨリ除外サレタルモノト看做サルヲ得ス依テ其後ニ作成セラレタル乙第三號證(同治十年分單)ニ「下溝東崖河東地二段」トアル土地ハ乙第二號證中「東崖荒山」ヲ含マサル「東崖道南道北地二段二日」ノミヲ指スモノニシテ從テ「東崖荒山」ハ依然共有ニ屬スルモノト解釋セサルヲ得ス

三、右ノ場合ニ於テ該「東崖荒山」カ或一人ニ專屬スル場合ニハ其事由ヲ證書ニ記載セサルヘカラス

四、在夥トハ共有ノ意ナリ

以上鑑定人ハ乙第一、二、三號證ヲ指シ傳述セリ

退契

乙第一號

立退地文約人楊清泰同子培^基同孫茂林因手内困乏將自己餘地大小肆段官糧貳畝央人說允情願退與劉文基名下耕種永遠爲業同衆言明退價紋銀陸拾兩整筆下交清分毫欠此係兩願並無私債準折通勸等情當儘讓鄰族各無異言凡四至以內土上土下石塊樹株毫無存留自退之後任憑領主更名呈領土木相連道路通行恐後無憑立退地文約永遠爲證

計開坐落在

海防分府旅安社前六甲洪軍鎮黃旗界豬圈子溝原業主道主埃子下地一段^{東至河}南^{西至井道}北^{南至河水流中心}又南山根地一段^{東至河}南^{西至水溝}北

至山根 又河東道南地一段^{東至水溝}南^{西至山頂}北^{又大道}又道北地一段^{東至界石}南^{西至河道}北^{至河道中心}四至分明

說合人	劉	言	彰
劉	文	明	彰
劉	殿	發	
劉	殿	英	
劉	國	財	
梁		有	
曲		萬	
劉	志	魂	
張	殿	鄉	
桑	魂	選	
立定人	楊	凌	同孫茂林
文約人	揚	凌	同孫茂林

大清咸豐五年十月初六日 立退地 乙第二號

立分單人劉志漢括圍爲定分到頭分正房三間東至本嵐西至夥山墻南至界石計一丈二尺五墻在內北至本嵐東至角門子外有夥道一條金家登四方地一段一日半偏石橋子南臺子小道南地四段二日半東崖上河東崖道南道北地二段二日曲萬春房東頭長隴

子地一段一日半東至水溝西至河南至山根北至小道又上溝南臺子地一段一日東至地格西至道南至界石北至地格劉家塋地半日偏石橋子東崖荒山兩處在夥新塋監小臺山子塋監二處在夥至在先老分四分折居分到房地山場有老分書為據再所有應用器物等件俱二分均分錢糧山稅按地兌納嗣後度日各由天命永無爭差恐後無憑立分單存證

中見人

劉	劉	劉	劉	劉	劉	劉	劉	劉	劉	曲	曲	梁	胡
金	金	志	志	志	文	殿	孔	孔	孔	孔	萬	天	明
忠	江	玉	成	元	清	富	渭	達	固	相	壽	有	有

立字人

劉	劉
文	殿
茲	英

同治二年六月初九日立分書存證

乙第三號

主分書人劉志超因家繁雜不能同居奉母命今分到西分正房四間東廂二間門房一間又東園正房參間又土溝西臺子地壹段又北溝裏落歌子地壹段又古塋前地一段又寺溝口地壹段又下溝東涯河東地貳段又房後下阡壹段東至地格界石南至地頭北至水流又北溝東岔地三段又河南崖小園壹段又南場旗地外墘地壹段東至格南界石又東廟子上仟地壹段東至地頭南界石又東園西分營園壹分東至界石大道又放蠶溝口壹段又照山西壹分蠶場壹處又老程家門下地壹段又篇橋子南臺子地壹分又金家塋河南崖四方子地壹段又程義新房東頭地壹段又房後蠶場一處東至上截界石下截本山根水流南至山根北至界石又寺溝西坡裏栽蠶場壹處東至界石又北溝西岔北坡東分蠶場壹分東至界石南山根又上溝橫山大座蠶場壹處所有四至有分書文約為證道路通行大凡所有家器牲口等二分均分恐後無憑立分書為證寺溝地在夥旗民錢糧二分均兌

中見人

劉	于	劉	劉	劉
志	志	志	志	金
元	敏	成	本	平

立字人	劉	劉	劉
	金	金	金
			湯 陵 璜 秀

同治十一年十一月初一日立分書

光緒二年四月初二日 寺溝地分明各領各業以蠶場四至爲證

二、鑑定人劉心田調書

- 一、乙四號證中不與別分相干トノ意味ハ此土地ノ他ノ土地ハ分得者ニ於テ關係カナイト云フ事ニテ此文字ハ左程必要ノモノニアラス只文章ノ綾タルニ過キス
- 二、右文詞ハ蠶場ノミヲ受ケタルモノニアラス又下溝東河崖地二段ト蠶場トヲ受ケタルニモアラス前ニ記載シタル澤山ノ總テノ土地ヲ受ケタル文詞ナリ
- 三、他人トノ共有物ヲ自分ノ專有物トシテ數人ニ分割スル事ハ出來スハ勿論ニシテ此場合ニハ自己ノ持分ノミヲ分割スヘキモノナリ而シテ乙四號證ニ依テ見ル時ハ分割者以外ニ共有者アリト見難シ從テ不與別分相干ト云フ事ハ分割者以外ノ共有者ハ除外シ居ルヤ否ヤノ疑問ヲ生セス
- 四、乙三號證中分書分約トハ必シモ分書ト分約ト區別シタル二箇ノモノカ存スルニアラス一ツノ分家單ヲ指シタルモノト見ルヲ得ルナリ

- 五、乙二號證中兩處在夥トハ劉家塋地半日ト偏石橋子東崖荒山ノ二箇所ヲ指シタルモノナリ
- 六、乙二號證ノ在夥ハ乙三號證ニ依テ見ル時ハ偏石橋子ノ南臺子ニシテ甲一號證ニ依テ見ル時ハ偏石橋子ノ北臺子ナリ
- 七、乙二號證ノ分書分約ハ前ニ記載シタル地所ノ全體ニ係ルモノナリ
- 八、乙二號證ニ在夥トアリシ荒山カ甲一號證ニモ乙三號證ニモナキハ荒山カ他ノ畑地カ何カニ變遷シタルモノト思フ若シ此變遷ナクシテ其儘トナリ居レハ依然共有ナリ併シ證書全體ヨリ見ル時ハ變遷シテ分割サレタル様思ハル
- 九、相續財產ノ共有地所ノ一半ハ之ヲ分割シテ一半ハ尙ホ其儘共有トシテ置ク例少シ但荒山若クハ牧場ハ其ノ例アリ分家單

乙第四號

立分書人劉志超因家務繁雜不能同居今邀到親友族中人等議定所有家產牲畜作三分均分自分之後各守各業富貴各由天命永無返悔各無爭差恐後無憑立分書爲證

開列於左閣下爲定

劉治經頭分分到草正房五間東至夥水道西至夥山夥牆北至房後界石南至二門東廂房二間東至夥水道西至夥牆北至正房南至夥山牆二門外門房一間東西至夥山牆北至本二門南至夥街南河又河西崖草園壹處東至水道西至界石北至河南至界石照山壹處東西至界石北至水溝南至南臺地地北崖俱以四至分明又東院草正房三間東至本牆西至夥山牆南至界石北至界石又房東頭場壹處東西至界石南至河心北至水溝東廟子後道西蠶場壹處東至道下截至界石西至界石南至山根北至界石劉家塋蠶場壹處

東至上截至界石下截至水流西至界石下截至水流南至山根北至山頂界石又劉家塋地三段內有二段東至界石西至水流南至河
北至山頂又小道邊地壹段東至河西至水流北至河南至大道又南場旗地西截地壹段東至界石西至水流南至東截至界石西截
至山根北至界石又南園菜地壹段東至界石西至界北至大道南至道又下溝東河崖地二段四至有原契爲憑蠶場在地以內不與別
分相干又畢家村活契地柒日梁士悅租半參拾參個此

親友人

孫

永

翰

族中人

孫

永

林

金

山

山

金

慶

慶

金

志

瑛

劉

治

源

劉

治

高

劉

金

鐘

劉

文

廣

治

文

九

治

文

允

治

文

尤

立字人

劉 治 治 治 治 治 治 治

文

吉 申 福 惠 敏 金 玉 品 海

光緒二十九年新正月初十日 立分書 大吉

判 示 事 項

債 務 者 タ ル 店 員 ノ 逃 走 ト 店 主 ノ 責 任

判 決 要 旨

假ニ原告主張ノ財東及家財保管ノ事實ニ依リ慣習上被告ニ其履行ノ責アリトスルモ原告ニ於テハ該事實ニ付キ被告ノ否
認スルニ拘ラス何等ノ立證ヲ爲ササルヲ以テ原告ノ本訴請求ハ之ヲ認容スルニ由ナキモノトス(大、地、大、一、二、

判決

原告 林 舜 郷
被告 趙 德 三

主 文

原告ノ請求ハ之ヲ棄却ス
訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

事 實

原告ハ被告ハ原告ニ對シ金五十圓並ニ此金額ニ對スル大正十一年舊八月十一日ヨリ辨濟ニ至ル迄ノ月二分ノ利息ヲ支拂フヘシ訴訟費用ハ被告ノ負擔トストノ判決ヲ求ムト申立テ其請求ノ原因事實トシテ原告ハ大正十一年舊八月十一日利息ヲ月二分辨濟期限ヲ大正十一年舊十月十一日ト定メテ訴外人王煥新ニ金五十圓ヲ貸與シタリ而シテ王煥新ハ當時大連市北泰公街十一番地ニ於テ煙草商ヲ營ミ居リシモノニシテ被告ハ王煥新ノ財東即チ出資者ナリ然ルニ王煥新ハ右債務ヲ履行セシメテ逃亡シ其家財ハ被告ニ於テ之ヲ保管セリ仍テ原告ハ支那ノ慣習ニ基キ被告ニ對シ其辨濟ヲ求ムル次第ナリ尤モ原告ノ王煥新ニ貸與シタル金員ハ王煥新ニ於テ如何ナル用途ニ使用シタルヤ不明ナル旨供述シタリ
被告ハ主文第一項ノ如キ判決ヲ求ムト申立テ其答辯事實トシテ訴外人王煥新カ大正十一年舊八月十一日原告ヨリ金五十

圓ヲ借用シタルコトハ王煥新ノ逃亡後之ヲ聞知シタルモ王煥新ハ其商店ノ店員ニ過キス從ツテ被告ハ固ヨリ王煥新ノ財東ニアラス又被告ハ王煥新ノ逃走後其家財ヲ保管セル事實ナキ旨供述セリ

理 由

本訴ニ於テ原告ハ被告カ訴外人王煥新ノ財東ニシテ王煥新ノ逃走後其家財ヲ保管セルヲ以テ王煥新ノ債務ニ付キ支那ノ慣習上履行ノ責アル旨ヲ主張セリ假ニ原告主張ノ該財東及家財保管ノ事實ニ依リ慣習上被告ニ其履行ノ責アリトスルモ原告ニ於テハ該事實ニ付キ被告ノ否認スルニ拘ラス何等ノ立證ヲ爲ササルヲ以テ原告ノ本訴請求ハ之ヲ認容スルニ由ナキモノトス仍テ原告ノ請求ヲ棄却シ訴訟費用ニ付キテハ民事訴訟法第七十二條第一項ニ則リ主文ノ如ク判決ス

判 示 事 項

一、官有地ノ貸下ヲ受ケタル者ト貸下地ノ小作人

二、租 帖 寫

判 決 要 旨

一、官有地ノ貸下ヲ受ケタル者カ納稅ヲ滯リシニヨリ其小作人ニ於テ代納シタルヲ以テ會長カ貸下名義人ヲ小作人ニ書換ヘ官ニ申告シタル場合ニモ小作人ハ畢竟小作人ナリ

二、租帖寫(大、地、大、一、(民)六七五、小作料請求事件)

判決

原告	鄭文然
被告	劉洪明
原告	鄭文然
被告	劉洪明
原告	鄭文然
被告	劉洪明

被告兩名ハ原告鄭文然ニ對シ高粱、包米谷子各四石五斗ヲ原告鄭文然、鄭有才ニ對シ高粱、包米、谷子各八石ヲ給付スヘシ

若シ其給付ヲ爲スコト能ハサルトキハ高粱ニ付キテハ一石小洋銀十三圓包米谷子ニ付キテハ各一石小洋銀十四圓五十錢ノ割合ニ依ル金錢ヲ支拂フヘシ
訴訟費用ハ被告兩名ノ負擔トス

事實

原告三名ノ代理人ハ主文ノ如キ判決ヲ求ムト申立テ其請求ノ原因事實トシテ原告三名ハ民國二年十月一日ヨリ被告兩名ニ對シ金州管内城南小毛家營子所在ノ土地各六天地(合計十八天地)ヲ一箇年ノ小作料ヲ孰レモ高粱、包米、谷子各二石(合計六石)ト定メテ小作セシメ居リシニ右小作料ニ付キ民國七、八兩年度分ノ小作料高粱、包米、谷子各四石(合

計十二石、原告三名分、總計三十六石)ノ給付ヲ受ケス而シテ民國九年ニ至リ右小作地ニ付キ原告鄭文然、鄭有才ハ其各六天地及原告鄭文然ハ四天地半ノ返還ヲ被告兩名ヨリ受ケタリ、仍テ大正九年度分ニ付テハ原告鄭文然ハ高粱、包米谷子各五斗(合計一石五斗)ノ給付ヲ受ケサルモノナリ然リ而シテ高粱一石ノ時價ハ小洋銀十三圓包米谷子一石ノ時價ハ孰レモ小洋銀十四圓五十錢ナリト供述シ證據ニ關シ申第一乃至第三號證ヲ提出シ檢證ノ申立ヲ爲シ證人趙永正、劉心田、邱玉階ノ喚問ヲ求メタリ

被告兩名ハ原告三名ノ請求ハ之ヲ棄却ストノ判決ヲ求メ其容辯事實トシテ被告兩名カ金州管内城南小毛家營子地内ニ於テ官有地ヲ借受ケ耕作シ居レル事實ハ認ムルモ原告三名主張ノ如キ小作事實ナシ但高粱一石ノ時價カ小洋銀十三圓、包米谷子各一石ノ時價カ孰レモ小洋銀十四圓五十錢ナルコトハ之ヲ爭ハスト供述シ證據ニ關シ被告劉洪明ハ甲號各證ヲ否認シ被告劉洪升ハ甲號各證ニ付キ不知ノ陳述ヲ爲シ當院ハ職權ヲ以テ證人李文同、柳田勇ヲ喚問セリ

理由

本訴ニ於テ原告三名カ被告兩名ヲシテ小作セシメタリト主張スル地所ト被告兩名カ官ヨリ借受ケ耕作セリト主張スル地所トカ同一地所ニ係ルモノナルコトハ檢證ノ結果明白ナル所ナルヲ以テ爭點トシテ審判スヘキハ當事者間ニ於テ原告三名主張ノ如キ小作契約アリタルヤ否ヤニ在リトス仍テ按スルニ證人趙永正ノ證言ハ明治三十八年以來引續キ金州管内南山會長ヲ勤務シ居レルカ本訴土地ハ民國二年迄鄭有才名義ヲ以テ鄭家ニ貸付ケアリシモノナルトコト納稅ヲ滯ラセシヲ以テ徵稅ノ任ニ當レル證人ニ於テ困惑シ居レル折柄其小作人タル劉德富ヨリ代納シタルヲ以テ證人ハ徵稅ノ都合上證人

一個ノ意志ニテ其貸下名義人ヲ劉德富ニ書替ヘ其旨官ニ申告シタリ然ルニ其後ニ至リテハ劉德富ニ於テ納稅セス當初ノ如ク鄭家ヨリ七八年間納稅シタルモノナリ原來右土地ハ鄭家ニ貸下ケタルモノナリシヲ以テ證人ニ於テハ民國二年後モ鄭家ノ貸下ヲ受ケタルモノトシテ取扱ヒ劉德富ハ其小作人ト認メ居レリ從ツテ鄭家ヨリ納稅スルニ至リタル後ハ官簿ノ貸下名義人ヲ從前ノ如ク鄭家ト改ムヘキヲ今日迄其手續ヲ失念シ居リシ次第ナリ而シテ右土地ハ清朝時代ハ官ヨリ鄭家ニ貸下アリシヲ日露戰爭後日本統治時代ニ至リ官有トナリ引續キ鄭家ニ貸下ケラレタルモノナリ尙右土地ノ小作料ハ一天地ニ付キ高粱包米谷子各一石ヲ相當トスル旨ノ供述、證人劉心田ノ本訴土地ハ清朝時代ノ官有地ニシテ日露戰爭後日本政府ノ所有トナリシモノナルカ該土地ハ清朝時代ヨリ引續キ日本統治時代ニ至ルモ鄭家ニ於テ貸下ヲ受ケ更ニ鄭家ヨリ劉德富ニ小作セシメタルモノナリ元來證人ハ日本統治時代ニ至リ官憲ヨリ官有地貸下方ノ采配ヲ依囑セラレ貸下人貸下地ヲ定メタルモノニシテ尙本訴ノ小作料ニ關シテハ三四年前被告及同郷ノ夏姓等ヨリ其爭議ノ調停ヲ依頼セラレ其調停ヲ試ミタルコトアリシモ不調ニ終リタリトノ供述、證人柳田勇ノ、證人ハ金州民政署官有財產係ヲ勤務シ居レルカ官有地ノ貸下ニ關スル記帳ハ士人ノ申告ヲ會長ニ於テ取纏メ官ニ申告シタルモノヲ基礎トセリトノ供述並ニ被告兩名ノ父ハ劉德富ト稱シタルカ四年前ニ死亡セリトノ當事者間ニ爭ヒナキ事實ヲ綜合考覈スルトキハ本訴土地ハ原告三名主張ノ如ク原告三名ヨリ被告兩名ニ小作セシメタルモノト認定シ得ヘシ然リ而シテ右小作料タル高粱包米谷子ノ時價ニ付キテハ當事者間ニ爭ナキトコロナルヲ以テ原告三名ノ本訴請求ヲ認容シ訴訟費用ニ付キテハ民事訴訟法第七十二條第一項ニ則リ主文ノ如ク判決ス

租帖寫

立租帖人劉洪明今租到鄭文然名下旗地六日言明每年兌納租糧陸石正按包高谷三色均兌秋後自車送城內有頂手錢壹百吊如租糧不到由頂手錢按市價作控如徹地不租時將頂手如數付清恐後無憑立此租帖存證

計開

坐著城南小毛墜子

中華民國二年陰曆十月初一日立	立字人	邱宜銑
	租帖人	劉洪明

判示事項

- 一、典地ノ租借
- 二、出典者ノ回贖義務ヲ定ムル契約ノ效力
- 三、典契寫
- 四、租帖寫

判決要旨

- 一、出典者カ土地ヲ出典シタル上更ニ之ヲ租借シ、回贖アルトキハ別段ノ意思表示ヲ要セスシテ租ノ消滅スヘキ旨ヲ約スルコトヲ得
- 二、典得者ノ請求アリ次第出典者カ典價ヲ支拂ヒテ其回贖ヲ爲スヘキヲ約シタルトキハ出典者ハ典得者ノ請求アリ次第其典價ヲ支拂ヒ典地ヲ引取ルヘキ義務アルモノトス
- 三、典契甲第一號證寫
- 四、租帖甲第二號證寫(大、地、大、一三、(民)三〇八、土地回贖並小作料請求事件)

判決

原告 巴 玉 聲
 被告 于 連 成

主文

被告ハ原告ニ對シ小洋銀六百圓ヲ支拂ヒ原告ヨリ小于家屯庄南溝南北地一段東至溝 南至水溝 西至溝 北至水溝又庄西南南北地一段東至格 南至水溝 西至界石 北至水溝又庄房後東西地一段東至道 西至溝 南至界石 北至界石又庄東北南北地一段東至水溝 西至界石 南至界石 北至界石石四至分明ノ五段八天地ノ地所ヲ引取リ且ツ原告ニ對シ大正九年度分ヨリ右地所引取リニ至ル迄ノ一箇年包米十二石ノ割合ニ依ル年貢米ヲ支拂フヘシ

訴訟費用ハ被告ノ負擔トス

事實

原告ハ主文ノ如キ判決ヲ求ムト申立テ其請求ノ原因事實トシテ原告ハ民國八年陰曆十二月二十九日訴外人于連奎、于連澗、于連科等ノ中説ヲ以テ被告ヨリ其所有ニ係ル主文第一項中掲記ノ地所ヲ期限ヲ定メスシテ小洋銀六百圓ヲ以テ典得シタル上更ニ原告ハ右地所ヲ被告ニ對シ一箇年ノ小作料包米十二石ノ定メニテ租賃セリ而シテ右典得並ニ租賃ニ付キテハ原告ノ請求次第何時ニテモ被告ハ原告ニ對シ小洋銀六百圓ヲ支拂ヒテ其回贖ヲ爲スヘキ租賃ハ該回贖ニ依リ別段ノ意志表示ヲ要セスシテ消滅スヘキ旨ヲ約セリ然ルニ被告ニ於テハ右租借以來一回タリトモ其小作料ノ支拂ヲ爲ササルヲ以テ原告ハ被告ニ對シ其回贖並ニ小作料ノ支拂ヲ請求スル次第ナル旨ヲ供述シ立證トシテ甲第一乃至第三號證ヲ提出セリ被告ハ原告ノ請求ハ之ヲ棄却ストノ判決ヲ求メ其ノ答辯事實トシテ原告ノ主張事實中原告主張ノ如キ出典ノ事實ハ之ヲ認ムルモ租借ハ被告ノ實弟于連永ニ於テ之ヲ爲セルモノニシテ被告ノ關知セサルモノナル旨ヲ供述シ證據ニ關シ甲號各證ノ成立ヲ認メタリ

理由

本訴ニ於テ先ツ原告カ原告主張ノ如キ約款ノ下ニ本訴地所ヲ被告ヨリ典得シタル事實ハ當事者間ニ爭ナキ所ナルヲ以テ被告ハ原告ニ其典價ノ支拂ヲ爲シ本訴地所ヲ引取ルヘキ義務アルモノトス次ニ被告ハ本訴地所ノ租借ヲ爲シタルコトナキ旨ヲ抗辯スレトモ成立ニ爭ナキ甲第二號證ノ記載ト本訴地所ノ典契タル成立ニ爭ナキ甲第一號證記載トヲ綜合スルトキハ原告主張ノ如キ租借契約アリタルコトヲ認定スルニ十分ナルヲ以テ被告ハ原告ニ對シ原告主張ノ如キ小作料ヲ支拂

フヘキ義務アルモノトス仍テ原告ノ本訴請求ヲ認容シ訴訟費用ニ付キテハ民事訴訟法第七十二條第一項ヲ適用シ主文ノ如ク判決ス

典契甲第一號證寫

立典契人于連成因正用不足今將自己分到祖遺地五段捌日仰人說允情願出典與巴玉聲名下耕種爲主同衆言明典價隨市小洋銀陸佰圓整當月筆下交清不欠分文每年國課隨地完納自典之後錢到取贖並無私債準折逼勒等敝恐後無憑立典契爲證

計開

坐落小于家屯庄南溝南北地壹段東至溝 南至格 西至界石 北至河又庄東南南北地壹段東至水溝 南至水溝 西至界石 北至溝又庄西南南北地壹段東至格 南至水溝 西至界石 北至

中說人

于連奎○

于連湖○

于連科○

典契人

于連成○

立字人

于連泰押

中華民國八年十二月二十九日 立

租帖第二號證寫

立租帖人巴玉聲有于家屯地壹分因寫違耕種不便邀同友隣人等說允情願租與于連成名下耕種爲主同衆言明每年兌納租糧拾

貳石正並無雜項恐後無憑立租帖爲證

計開

坐落小于家屯存原契壹支地單

四全照存契所作爲證

中說人

于連奎○

于連湖○

于連科○

立字人

于連泰押

中華民國八年十二月二十九日 立

判示事項

侮辱虐待ノ事實ヲ原因トスル離婚ノ請求

判決要旨

既ニ侮辱虐待ノ事實ナシト認定スル以上其事實カ離婚ノ請求原因ト爲リ得ヘキ慣習ノ有無ハ之ヲ審判スルノ要ナク原告ノ本訴請求ノ失當ナルコト明白ナリトス(大、地、大、一〇、(人)七、離婚請求事件)

判決

主 文

原 告 董 成 氏
被 告 徐 成 家

原告ノ請求ハ之ヲ棄却ス
訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

事 實

原告ハ一定ノ申立トシテ被告ハ原告ヨリ小洋銀四十四元ヲ受取り原告ト離婚スヘシ訴訟費用ハ被告ノ負擔トストノ判決ヲ求ムト申立其請求ノ原因事實トシテ原告ト被告トハ雙方尊屬親ノ爲シタル婚約ニ基キ宣統三年陰曆十二月初四日婚姻シ爾來夫婦關係ヲ持續シ來レル處原告生家ハ右婚約ニ際シ被告ヨリ定禮錢トシテ小洋銀二元ヲ受領シ復婚姻ニ當リ彩禮錢トシテ小洋銀並ニ價格銀三十二元ニ相當スル衣類ヲ收受セリ元來原告生家ト被告生家トハ數十支里ヲ隔テ居レルヲ以テ右婚約ハ只媒介者ノ言ヲ信賴シテ之ヲ取結ヒタルモノナル處婚姻後被告ノ低能者ナルコトヲ發見シタリ然レトモ之原告自身ノ不運ナリト斷念シ同棲シ來レルニ被告ノ實父徐長德ハ被告ノ低能ナルニ乘シ屢々原告ニ對シ不倫ノ情交ヲ迫リ民國九年陰曆七月十一日ノ夜ノ如キハ裸體ノ儘原告ノ寢室ニ侵入シ暴力ヲ以テ挑ミタルニヨリ原告ハ極力之ニ抵抗スルト共ニ傍ニ熟睡セル被告ニ救ヲ求メタルニ被告ハ其實父ノ醜態ヲ目撃シナカラ我ニ關焉ノ態度ヲ執リ其非行ヲ認容セリ而シテ被告ノ實父徐長德ハ原告ヲシテ其意ニ從ハシメ得サルヲ知ルヤ爾來原告ヲ或ハ惡罵シ或ハ毆打シ日夜虐待スル

モ被告ハ寧ロ徐長德ノ非行ニ共鳴シ何等ノ方法ヲモ講セス依テ原告ハ到底其同居ニ堪ヘサルヲ以テ大正十年陰曆三月中原告生家ニ歸來セリ元來支那ノ慣習ニ依レハ配偶者及其尊屬親ニ依リ重大ナル侮辱又ハ同居ニ堪ヘサル虐待ヲ受タルトキハ離婚ヲ請求シ得ヘキモノナルヲ以テ曩キニ被告家ヨリ收受シタル定禮彩禮ノ金品ヲ返還スルト共ニ離婚ヲ請求スル次第ナル旨供述セリ

被告ハ大正十年十月二十九日午前十時大正十一年二月十日午前十時及大正十一年八月十八日午前十時ノ各本件口頭辯論期日ニ孰レモ出頭セス

職權ヲ以テ當院ハ證人王選俊、王臨豐、李容祿、曲當富並ニ被告ヲ訊問セリ

理 由

本訴ニ於テ原告ハ其夫ナル被告ノ實父徐長德ヨリ不倫ノ情交ヲ迫ララルノミナラス日夜惡罵毆打セララル等重大ナル侮辱且同居ニ堪ヘサル虐待ヲ受クルヲ以テ支那ノ慣習ニ基キ被告ニ對シ婚約及婚姻ノ際受取りシ定禮及彩禮ノ金品ヲ返還スルト共ニ離婚ヲ請求スル旨申立ツルモ職權ヲ以テ訊問シタル被告ノ供述スル所ニ依レハ被告ハ原告ト離婚ノ意志ナク且ツ原告ヲ毆打シタルカ如キ事實ナキノミナラス證人王選俊、王臨豐、李容祿、曲當富ノ各供述中ニモ亦毫モ原告主張ノ如キ侮辱虐待ノ事實ヲ認容シ得ヘキ資料ナシ故ニ該侮辱虐待ノ事實ナキモノトス然リ而シテ既ニ該侮辱虐待ノ事實ナシト認定スル以上其事實カ離婚ノ請求原因ト爲リ得ヘキ慣習ノ有無ハ之ヲ審判スルノ要ナク原告ノ本訴請求ノ失當ナルコト明日ナリトス仍テ之ヲ排斥シ訴訟費用ニ付キテハ民事訴訟法第七十二條第一項ニ則リ主文ノ如ク判決ス

フコト、ナリ其金ニ對シ一時借用證ヲ取置キシカ本年正月ニ至リ支拂ヲ受ケ此分ハ已ニ共有者間ニテ分割シタリ賣契ニ
 地所ノ四至等ヲ記載シタルハ出典當時控訴人被告控訴人カ實地取調ヘノ上作成シタル典契ニ依リタルモノニシテ其賣契ハ
 乙一號證ニ相違ナシト云フニアリテ其陳述ハ信用スヘキモノト認ム即チ乙一號證ハ控訴人カ他ノ共有者ト共ニ作成シ本
 訴不動産ヲ被告控訴人ニ賣渡シタルモノナルカ故ニ今更控訴人ニ於テ之ヲ回收セントスルハ其理由ナキモノトス控訴人ハ
 乙一號證ハ假リニ真正ニ成立シタルモノトスルモ本訴不動産ハ普蘭店管内ニ存在スルモノニシテ之ヲ邊外ニ於テ賣渡シ
 タルハ清國ノ成規ニ反シ賣買ハ無効ニ歸着スト論スルモ鑑定人劉心田、金榮貴ノ陳述ニ依レハ此ノ如キ賣買ヲ絕對ニ無
 効トスル成規ノ存在シタル事ヲ認ムルヲ得サルヲ以テ控訴人ノ此主張モ亦採用セス之ヲ要スルニ原判決ニ於テ控訴人ノ
 所有權ヲ否認シ其請求ヲ排斥シタルハ相當ニシテ控訴ハ理由ナキヲ以テ訴訟費用ニ付テハ關東州裁判事務取扱令第一條
 民事訴訟法第七十七條ヲ適用シ主文ノ如ク判決ス

判 示 事 項

清國ニ於ケル債權消滅時效ノ制度

判 決 要 旨

當地方ニ於テ時ノ經過ニ因リ債權關係ニ影響ヲ及スカ如キ何等ノ法規慣例アルヲ聞カサルヲ以テ九十有餘年ヲ經過シタ
 ル今日ニ至ルマテ其儘ニ放擲シアリタル狀況ニ徴スレハ清國ノ慣例ニ從ヒ其請求權ノ喪失ヲ來シタルモノナラサルヘカ

ラストノ抗辯ハ理由ナシ(旅、高明、四二、(控)八、小作料請求事件)

判 決

控 訴 人	趙 玉 珍
被 控 訴 人	趙 連 俊

主 文

本件控訴ハ之ヲ棄却ス

控訴費用ハ控訴人ノ負擔トス

事 實

控訴代理人ハ原判決ヲ廢棄シ更ニ被告控訴人ノ請求ヲ棄却シ訴訟費用ハ第一、二審共被告控訴人ノ負擔トストノ判決ヲ求メ
 被告控訴人ハ本件控訴棄却相成度ト申立テタリ双方事實上演述ノ要旨ハ控訴代理人ニ於テ明山ナルモノハ被告控訴人ト何等
 ノ關係ナク又控訴人ノ祖父ニ窩興額ナルモノアリシモ倭興額ナルモノナシ蓋シ窩ト倭トハ發音全然別異ニシテ甲一號證
 ニ倭興額トアルハ控訴人ノ祖父趙君輔別名窩興額ノ謂ニアラス假ニ倭興額ト窩興額ト同一人ナリトスルモ甲一號證ハ窩
 興額ノ筆跡ニアラサレハ同人ノ差入レタルモノニアラス更ニ數步ヲ譲リ甲一號證ニシテ真正ニ成立シタルモノトスルモ
 同證ノ日付以來九十有餘年ヲ經過シタル今日ニ至ル迄其儘ニ放擲シアリタル狀況ニ徴スレハ該債務ハステニ辨濟ニヨリ
 消滅シタルカ或ハ少ナクトモ清國ノ慣例ニ從ヒ其請求權ノ喪失ヲ來タシタルモノナラサルヘカラスト附演シタル外何レ

モ原判決摘示ト同一ナルヲ以テ茲ニ之ヲ引用ス
立證方法トシテハ控訴代理人ニ於テ乙一、二號證被控訴人ニ於テ甲一號證ヲ提出シ右書證ニ付テハ雙方互ニ不知ヲ以テ
答ヘ且ツ被控訴人ハ原審ニ於ケル麻步青ノ證言並鑑定ノ結果ヲ援用シタリ

理由

控訴代理人カ趙君輔別名窩興額ノ自筆トシテ提出セル乙一、二號證ト甲一號證トノ筆跡ヲ對照スルニ其字體筆勢等ニ於
テ著シク相似シ全然同一人ノ手ニ成レルモノト認メ得ラル、ノミナラス倭ト窩トハ滿洲方面ニ於ケル發音上共ニ同一ニ
シテ俗間ニ於テハ往々混用セラルルノ例少ナカラサレハ甲一號證ハ控訴人ノ祖父窩興額ノ作成ニ係ルモノト認メサル不
可ス而シテ明山ナル者ト被控訴人トノ關係ニ付テハ現ニ明山宛ノ證書ノ被控訴人手中ニ存スルノ事實ト原審ノ證人麻步
青ノ昨年清曆十一月中同證ニ關シ本件當事者間ニ紛爭アリタル際仲裁ヲ試ミ其局控訴人ヨリ被控訴人ニ對シ銀三十圓ヲ
支拂フコトニ約定纏リタルモ控訴人ハ同證ニ記載シアル債務者ノ名義ニ相異ノ廉アリトノ理由ノ下ニ右約定ヲ履
行スルニ至ラサリシモノトノ信憑スヘキ供述ニヨリステニ控訴人ハ被控訴人カ甲一號證ノ權利者タル明山ノ承繼者ナル
コトヲ承認シ居リタルモノト認メ得ヘキトヲ綜合シ被控訴人ハ明山ノ繼承人トシテ甲一號證貸借ニ關スル正當ノ權利者
ナリト推斷セサル不可ス故ニ前論定ノ如ク同證ニシテ控訴人ノ祖父ノ差入レタルモノト認ムル以上ハ其一般承繼者タル
控訴人ハ被控訴人ニ對シ同證ノ趣旨ニ從ヒ其義務ヲ履行セサルヘカラスルコト亦タ論ヲ俟タサルコトス控訴代理人
ハ甲第一號證債權ハ既ニ辨濟ニヨリ若シクハ時ノ經過ニヨリ既ニ消滅ニ歸シタルモノナリト抗辯スレトモ辨濟ニ付テハ

之ニ關スル何等立證ノ見ルヘキモノナキノミナラス反テ甲第一號證ノ被控訴人ノ手裡ニ存スル事實ヨリ又ハ時ノ經過ニ
付テハ當地方ニ於テ本件ノ如キ法律關係ニ影響ヲ及スカ如キ何等ノ法規慣例アルヲ聞カサレハ右抗辯ハ何レモ理由ナシ
ト云ハサルヘカラス

叙上ノ理由ニヨリ控訴人ハ被控訴人ニ對シ甲一號證ノ債務ヲ履行セサルヘカラスル義務アリトス然ルニ同證ノ債務履行
ニ付テハ既ニ前説述セル如ク麻步青等ノ仲介ニヨリ控訴人ヨリ被控訴人ニ對シ銀三十圓ヲ支拂フコト協定ナリタリト認
ムルヲ以テ控訴人ハ甲一號證債務履行ニ代ヘ銀三十圓ノ支拂ヲ諾約シ以テ甲一號證ノ債務ヲ更改シタルモノト認ムヘク
從テ該金額ヲ被控訴人ニ支拂フ義務アリト謂ハサルヘカラス故ニ原判決ニ於テ被控訴人ノ本訴請求ヲ是認シタルハ相當
ニシテ控訴ハ理由ナシコレ主文ノ如ク判決シタル所以ナリ

判示事項

眞意ニ符合セサル供述ノ效力

判決要旨

原審口頭辯論調書ニ於ケル本件ノ土地ハ元控訴人家ノ所有ナリシコトハ相違ナシトノ被控訴人ノ供述記載ニシテ被控訴
人ノ眞意ニ符合セルモノト認メ難キ場合ニハ之ヲ以テ被控訴人カ係争地ハ元控訴人家ノ所有ナリシコトヲ認メタルモノ
ト爲スコトヲ得ス(旅、高、明、四四、(民)三一、典地受戻事件)

控訴人	劉國祥
被控訴人	趙德振

主文

本件控訴ハ之ヲ棄却ス

控訴裁費用ハ控訴人ノ負擔トス

事實

控訴代理人ハ原判決ヲ廢棄ス被控訴人ハ控訴人ヨリ典價百六十八圓ヲ領收シ坐落紅梭子屯家庄東南地一段七日東西至格南至道北至格ノ土地ヲ返還スヘシ訴訟費用ハ第一、二審ヲ通シ被控訴人ノ負擔トストノ判決アリタシト一定ノ申立ヲ爲シ被控訴代理人ハ主文第一項同旨ノ判決ヲ求メ當事者雙方ノ事實上ノ供述ハ控訴代理人ニ於テ控訴人家ハ同治十一年中控訴人ノ伯父劉德官、劉德新、叔父劉德順等ノ名義ヲ以テ本件係争ノ一段七日地及其翌十二年其地ノ三日地ヲ被控訴人ノ父趙國生及伯父趙國有、趙國頭等ニ出典シ右二口ノ典價トシテ市錢千四百四十吊文ヲ借受ケタルニ依リ控訴人ハ明治四十三年七月中右七日地ニ該當スル典價千八百文ヲ提供シテ右係争地ノ贖回ヲ被控訴人ニ申込ミタルモ被控訴人ハ之ニ應セサルニ依リ本訴ニ及ヒタリ尙被控訴人ノ控訴人ハ旗人ニシテ被控訴人カ旗人ナルコトヲ認メタル點ヲ利益ニ援用スト陳述シ被控訴代理人ニ於テ本件係争地ハ外三日地ト共ニ被控訴人家ノ祖先カ今ヨリ百餘年前控訴人家ト關係ナキ劉德

喜、劉德志、劉德安ノ三名ヨリ買受ケタルモノニシテ典得シタルモノニ非ス勿論控訴人家ハ旗人ニシテ被控訴人家ハ旗人ナルコトハ之ヲ認ムルモ旗民不交產律ハ嚴格ニ適用セラレシコトナク本件係争地ハ被控訴人ノ祖先カ買受ケタルモノニシテ其買受當時ノ模様ハ之ヲ知ラス今又假リニ本件係争地カ出典地ナリトスルモ控訴人ハ右劉德喜以下三名ノ者トノ間柄ハ直系ノ親族關係ヲ有スルモノニ非サルニ依リ控訴人ニ於テ之ヲ贖回スル權利ナシト供述シタル外原審判決事實摘示ト同一ナルヲ以テ茲ニ之ヲ引用ス立證トシテ控訴代理人ハ被控訴人カ原審ニ於テ係争地ハ元控訴人家ノ所有ナルコトヲ認メタル點及原審證人劉國榮、劉國玉ノ證言ヲ利益ニ援用シ證人傅吉永ノ喚問ヲ申請シ鑑定ノ申請ヲ爲シ乙第一號證乃至四號證ハ不知ト申立テタリ被控訴代理人ハ乙第一號證乃至第四號證ヲ提出シ證人劉元慶、張清明、畢善三ノ喚問ヲ申請シタリ

理由

控訴人ハ原審ニ於ケル被控訴人ノ本件土地ハ元控訴人家ノ所有ナリシカ被控訴人家ニ於テ之ヲ買受ケタリトノ供述ヲ援用シテ本件土地ハ被控訴人ノ認メタルカ如ク元控訴人家ノ所有ナリシカ之ヲ被控訴人家ニ出典シタル結果被控訴人家ニ於テ之ヲ占有シ居レルヲ以テ控訴人ハ之ヲ贖回スル權利アリト主張スレトモ被控訴人ハ當審ニ於テ明カニ本件土地ハ被控訴人家ニ於テ控訴人家ト全ク關係ナキ他ノ者ヨリ買受ケタルモノニシテ原審ニ於テモ係争地カ元控訴人家ノ所有ナリシコトヲ認ムル旨ノ陳述ヲ爲シタルコトナシト抗爭スルコトヨリ見レハ被控訴人カ本審ニ於テ陳述スルカ如ク劉德喜、劉德志、劉德安ヨリ買受シコトヲ原審ニ於テ主張スルノ意思ナリシモ是等ノモノハ同シク劉氏ニシテ控訴人ト一門ノ間

柄ナルヨリ一齊ニ劉家ヨリ買受ケタリト述ヘ又ハ原告家ヨリ買受ケタリト述ヘタルニアラスヤト疑アリ從テ原審口頭辯論調書ニ於ケル本件ノ土地ハ元控訴人家ノ所有ナリシコトハ相違ナシトノ被控訴人ノ供述記載ハ被控訴人ノ真意ニ符合セルモノト認メ難キカ故ニ之ヲ以テハ被控訴人カ係争地ハ元控訴人家ノ所有ナリシコトヲ認メタルモノト爲スコトヲ得ス而シテ係争地カ控訴人ノ所有ナルコトニ付證人傳吉永ハ控訴人ニ利益ノ證言ヲ爲シ又同證人及原審證人劉國榮、劉國玉ハ係争地ハ控訴人家ヨリ被控訴人家ニ出典シタルモノト證言スルモ右證言ハ何レモ措信スルニ足ラサルヲ以テ之ヲ採用セス其他控訴人ノ主張事實ヲ認ムヘキ證據ナキニ依リ本件ノ土地カ元控訴人家ノ所有ナリシ事實ハ到底之ヲ認容スルコトヲ得ス從テ控訴人家ヨリ本訴ノ土地ヲ被控訴人家ニ出典シタル事實モ亦之ヲ認ムルニ由ナシ然ラハ控訴人ノ請求ハ此點ニ於テ失當ナルカ故ニ他ノ争點ニ付テハ判斷ヲ與ヘス控訴ヲ理由ナシトシ關東州裁判事務取扱令第一條第十七條民事訴訟法第四百二十四條第七十七條ヲ適用シ主文ノ如ク判決ス

判 示 事 項

土地出典者ノ同族ト回贖權

判 決 要 旨

關東州ニ於テ土地出典者ノ同族ハ出典者ニ代リ其出典地ヲ回贖シ得ヘキ慣習ノ存在スルコトハ夙ニ本院ニ於ケル顯著ナル事實ナリトス(旅、高、大、八、(控)三〇、土地返還請求事件)

判 決

控 訴 人 王 成 義
被 控 訴 人 徐 傳 善

主 文

原判決ヲ左ノ如ク變更ス

被控訴人ハ控訴人ヨリ市錢壹千參百二十吊ヲ受取り座落普蘭店管内粉皮墻會小王家屯庄西南北地一段一日半東西本地西至界石南至界石北至小道此地東南北地一段半日東至道西至本地南至大溝北至界石此地東西地一段半日二至道南至水溝北至界石此地東南北地一段一日東至小道西至本地南至本地北至水溝此地北東西地一段半日東至水溝西至道南至水溝北至本地此地北南北地一段一日半三至本地北至道此地北荒地一段一日三至王姓地北至河此地西南南北地一段一日半東至水溝西至水溝南至水溝北至水溝ヲ控訴人ニ返還スヘシ訴訟費用ハ第一第二審共被控訴人ノ負擔トス

事 實

控訴人ハ主文ト同趣旨ノ判決ヲ求ムト申立テ被控訴人ハ控訴棄却ノ判決ヲ求ムト申立テリ
當事者双方ノ事實上ノ供述ハ控訴人ニ於テ本件係争土地ノ王英雲名義ノ典契ハ民國五年十一月訴外人劉賢生宅ニ於テ控訴人名義ノ新典契ヲ作成シ之ヲ被控訴人ニ交付シタル際被控訴人ヨリ返還ヲ受ケタルモ其後保存ノ必要ナシト思惟シ廢棄シタル旨被控訴人ニ於テ民國五年十一月訴外人劉賢生宅ニ於テ本件係争地ノ王英雲名義ノ典契ヲ控訴人ニ返還シ其際

控訴人ヨリ控訴人名義ノ典契ヲ受領シタルコトハ相違ナシ然レトモ右ハ被控訴人ノ本意ニアラスシテ當時警察官吏ノ干渉ヲ受ケタルカ爲メナリ而シテ控訴人名義ノ右典契ハ其後官憲ヨリ効力ナキモノナリト申聞ケラレタルヲ以テ之ヲ廢棄シタル旨供述シタル外孰レモ原判決摘示事實ト同一ナルニ付茲ニ之ヲ引用ス

證據ニ關シ控訴人ハ甲第一號證ヲ提出シ證人劉汝舟ノ喚問ヲ求メ被控訴人ハ原審證人宋金聲、徐殿管ノ證言ヲ援用シ甲第一號證ニ付キ不知ノ陳述ヲ爲セリ

理由

本件ニ於テ王英雲カ本件係争地ヲ典價市錢壹千三百二十吊ニテ被控訴人ノ曾祖父徐瑣吉ニ出典シタルコトハ當事者間ニ争ナキ所ナルヲ以テ争點トシテ審判スヘキハ控訴人ハ該典地回贖ノ權利ヲ有スルヤ否ヤニ在リトス仍テ之ヲ按スルニ信憑スヘキ當審證人劉汝舟ニ於テ王英雲ハ控訴人ノ祖父王彩雲ノ兄弟ナル旨供述スルノミナラス年所ノ經過ト記載自體トニ徴シ控訴人家ノ系譜ナリト認メ得ヘキ甲第一號證中ニ王英雲ノ氏名ハ王彩雲ト同列ニ記載シアルヲ以テ控訴人ハ王英雲ノ同族ナリト認定ス而シテ關東州ニ於テ土地出典者ノ同族ハ出典者ニ代リ其出典地ヲ回贖シ得ヘキ慣習ノ存在スルコトハ夙ニ本院ニ於ケル顯著ナル事實ナリトス故ニ控訴人ハ本件係争地ノ回贖權ヲ有スルモノナリト斷定セサルヘカラス然リ而シテ被控訴人ノ立證方法ニ依リテハ前示認定ヲ覈スニ足ラサルノミナラス被控訴人カ民國五年十一月本件係争地ノ王英雲名義ノ典契ヲ控訴人ニ返還シ改メテ控訴人ヨリ控訴人名義ノ典契ヲ受領シタリトノ當廷ニ於ケル被控訴人ノ供述ニ徴スルモ被控訴人ハ控訴人カ王英雲ノ一族ニシテ本件係争地ニ付キ其回贖權アルコトヲ承認シタル事實ヲ推知スル

ニ難カラス故ニ益々前示認定ノ適切ナルヲ知ルニ足ルヘク被控訴人ハ右典契ノ授受ハ警察官吏ノ干渉ニ因リ強制セラレタル旨主張スレトモ此點ニ關シ何等ノ立證ヲ爲ササルヲ以テ右典契ノ授受ハ被控訴人ノ自由意思ニ基キ之ヲ爲シタルモノト認ムルヲ相當ナリトス然ルニ原判決ハ控訴人ニ回贖權ナシトシテ其ノ請求ヲ排斥シタルモノナルヲ以テ民事訴訟法第四百二十條第七十二條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

判示事項

- 一、土地ノ回贖ト典契ノ所持
- 二、質入ニ當リ老契ヲ交付スヘキモノナリヤ
- 三、「祖遺冊地」ノ意義
- 四、民地戸管證寫
- 五、論告寫

判決要旨

一、出典者カ典價ヲ支拂ヒテ土地ヲ受戻シタリトセハ之ニ關スル典契ハ出典者ノ手ニ所持シアルヘキ筋合ナリ

- 二、土地ヲ質入シタルモノトセハ老契ヲ質權者ニ交付スヘキ謂ナシ
- 三、「祖遺冊地」ノ文字ハ「祖先傳來」ノ意味ニシテ他ヨリ典取シタル場合ニ使用スヘキモノニアラス
- 四、民地戸管證成第一號證寫
- 五、諭告成第二號證寫(旅、地、明、四〇、(民)二七二、土地返還請求事件)

判決

原告 鄭廷漢
 被告 鄭喜福

外三名

主文

明治四拾年八月十九日金州出張所ノ言渡シタル關席判決ヲ廢棄ス
 原告ノ請求ヲ棄却ス

訴訟費用中被告關席ニ依リ生シタル分ハ被告ニ於テ其他ハ總テ原告ニ於テ負擔スヘシ

事實

原告訴訟代理人ハ一定ノ申立トシテ被告鄭廷樹、鄭喜庚、同鄭廷富ノ三名ハ典價七百二十吊ヲ受取り同鄭廷樹ハ前菲菜園子所在地東至道南至本姓二天地及西至本姓南至道一天地及西至本姓北至道一草地東至本姓南至本姓西至本姓北至道一草地二天地ヲ同鄭喜庚ハ東至本姓南至道一草地西至本姓北至道一草地

地ヲ同鄭廷富ハ東至本姓南至本姓地一天地ヲ申立人ニ返還シ被告鄭喜福ハ之ヲ承認スヘシトノ判決ヲ求ムト云ヒ其事實トシテ演述シタル要旨ハ原告ノ祖先鄭佩ハ嘉慶年間自己所有ニ係ル本件係爭土地九天地ヲ被告鄭喜福ノ先代鄭志廣ニ出典シ錢七百二十吊ヲ借受ケ老契ヲ交付シ置キタル處被告鄭喜福ハ光緒十一年中邊外ニ赴クノ際該土地ノ内六天地ヲ一千五百吊ニテ王廣增ニ、残り三天地ヲ一千七百吊ニテ王士庚ニ轉典シタルヲ以テ原告ハ光緒二十年中右三天地ヲ王士庚ヨリ同二十九年中爾餘ノ六天地ヲ王廣增ヨリ夫々受戻ヲ爲シタリ然ルニ光緒三十二年二月ニ至リ被告鄭喜福ハ祖先ニ於テ之ヲ買得シタリト稱シ増價三千二百吊ヲ提供シタルヲ以テ原告ハ之ヲ受領シタル處被告鄭喜福ハ該土地ハ自己ノ所有ナリト主張シ擅ニ之ヲ霸占シ被告鄭廷樹、鄭喜庚、鄭廷富ノ三名ニ轉典シタルヲ以テ本訴ニ及ヒタル次第ナリト云フニアリテ立證トシテ甲一、二、三號證ヲ提出シ證人王廣志ノ證言、鑑定人劉心田ノ鑑定ヲ援用シ乙一、二號、丙一號、丁一號、戊一、二號證ニ付テハ不知ノ陳述ヲ爲シ戊三號證ノ成立並ニ同證記載ノ土地ハ原告請求ノ土地ニ該當スルコトヲ認メタリ

被告訴訟代理人ハ前關席判決ヲ廢棄シ原告ノ請求相立タス訴訟費用ハ原告ノ負擔トストノ判決ヲ求ムル旨申立テ而シテ被告鄭喜福ニ關スル答辯ノ要旨ハ本件係爭地所五段九天地ハ原告主張ノ如ク被告ノ祖先鄭志廣カ原告ノ祖先鄭佩ナルモノヨリ典得シタルモノニアラスシテ乾隆五十一年中被告五代ノ祖鄭珩ニ於テ原告ノ祖先鄭得明ヨリ價錢九百八十吊ヲ以テ買受ケ同時ニ賣契ヲ受取置キタルモノナリ而シテ被告ハ光緒十一年頃ヨリ邊外ニ移住シ居リタル處偶々光緒三十二年九月中戊第二號證ノ如ク奉天財政總局ヨリ舊來ノ老契ハ總テ之ヲ提出スヘキ旨ノ諭告文出テタルヲ以テ被告ハ早速其手

續ヲ爲シタルニ右賣契ハ其儘財政總局ニ留メ置カレ之ニ代ヘ戊第一號證ノ如ク民地戸管證ヲ下附セラレタルモノニテ先
 是前記係爭九天地ハ被告方ニ於テ之ヲ三口ニ分チ其一即チ^東至^{本姓地}南^{本姓地}一段二日計二
 段三日ハ戊第三號證ノ如ク被告所有ノ他ノ土地ト共ニ道光三十年十月十五日被告ノ祖父鄭士財及其兄鄭士法ニ於テ王永
 令ナルモノニ典價二千〇五十吊ヲ以テ入典シ置キタルモ光緒二十四年十一月初四日被告ノ族中鄭喜孝、鄭喜財ノ兩名カ
 王永令ノ後裔王廣惠ニ對シ右典價ノ外更ニ幾分ノ借リ増シテ爲シタキ旨申込ミタルモ同人ハ之ニ應スル實力ナカリシ折
 柄右兩名ハ原告ト協議ノ末右三天地ニ關シ曩ニ王永令ニ差入レ置キタル典契即チ戊第三號證ハ原告ニ於テ二千〇五十吊
 ノ典價ヲ代償シ以テ王廣惠ヨリ受戻シ且ツ被告方ニ對シテハ原告自身質取主ノ地位ニ立ツコト、爲シ同時ニ鄭喜孝、鄭
 喜財ノ兩名ハ原告ヨリ借増金三百八十三吊一百二十文ヲ受取りタリ尙其翌光緒二十五年十一月十四日ニ至リ被告ハ邊外
 ヨリ立歸リ更ニ借増ヲ申入レ錢二百吊ヲ受取りタルヲ以テ戊第三號證全體ノ典價ハ合計二千六百三十三吊一百二十文ニ
 増加シタル次第ナリ

又他ノ一口即^東至^{本姓地}南^{本姓地}一段二日同^西至^水溝^{北本姓地}一段三日計二段五日ハ久敷以前ヨリ被告ノ族中鄭喜明、鄭
 喜元ニ於テ他ノ所有土地ト共ニ姓王ナル者ニ典價六千七百二十吊ヲ以テ入典シ置キタルモノニシテ光緒二十八年十一月
 二十八日王家當時ノ家長王廣增ト典契ノ切換ヲ爲シ戊第四號證ノ如ク新典契ヲ差入置キタルモノナリ而シテ残り一口即
^東至^{本姓地}南^{本姓地}一段二日同^西至^水溝^{北本姓地}一段三日計二段五日ハ久敷以前ヨリ被告ノ族中鄭喜明、鄭
 喜元ニ於テ他ノ所有土地ト共ニ姓王ナル者ニ典價六千七百二十吊ヲ以テ入典シ置キタルモノニシテ光緒二十八年十一月
 二十八日王家當時ノ家長王廣增ト典契ノ切換ヲ爲シ戊第四號證ノ如ク新典契ヲ差入置キタルモノナリ而シテ残り一口即
 于在溪ナル者ニ錢拾吊包米十石ヲ以テ入典シ其後該土地ハ轉讓シテ原告ノ兄鄭廷照方ヘ轉典セリ右ノ如ク係爭九天地ハ

全部被告方ヨリ他ニ出典シ置キタルヲ以テ被告ハ光緒三十二年二月中邊外ヨリ立歸リ之ヲ受戻サント爲シタル處原告ハ
 自己ノ所有地ナリト稱シ被告方ヨリ出典シ置キタル三天地ノ受戻ヲ拒ムノミナラス他ノ六天地ニ關シテモ被告ノ受戻ヲ
 妨害スルヲ以テ已ムヲ得ス出訴セントシタルニ仲裁者アリテ被告ヨリ原告ニ支拂フヘキ二千六百三十三吊一百二十文ニ
 對シ被告ヨリ錢三千二百吊ヲ支拂ヒ以テ戊第三號證ヲ原告ヨリ受戻シ且殘六天地ニ付テモ將來原告ヨリ何等ノ苦情ヲモ
 申出テサルコトニ取極メタリ而シテ此殘六天地ハ被告ニ於テ各相當典價ヲ支拂ヒ其受戻ヲ終リタルヲ以テ是等係爭ノ土
 地ハ總テ被告ノ族中及近支ナル鄭喜亮、鄭喜清、鄭喜元、鄭廣惠、鄭喜財及被告ニ於テ之ヲ分割シタリ右ノ次第ナルヲ
 以テ原告ノ不當ノ請求ニ應スル能ハスト云フニアリテ立證トシテ戊一乃至五號證ヲ提出シ被告鄭廷樹ニ關スル答辯ノ要
 旨ハ原告ノ請求スル^東至^{本姓地}南^{本姓地}一段二天地ハ乙第一號證ノ如ク訴外鄭喜亮、鄭喜元、鄭喜清、鄭廣惠ノ四名ヨリ
 千四百吊ニテ又^東至^{本姓地}南^{本姓地}一段二天地ハ乙第二號證ノ如ク光緒三十二年其
 所有者タル被告鄭喜福及訴外鄭喜財ノ兩名ヨリ二千三百吊ニテ正當ノ手續ヲ以テ典得シタルモノナルカ故ニ原告ノ請求
 ニ應スル能ハスト云フニアリテ立證トシテ乙一、二號證ヲ提出シ被告鄭廷富ニ關スル答辯ノ要旨ハ原告ノ請求スル^東至^{本姓地}南^{本姓地}
 一段二天地ハ丙第一號ノ如ク昨光緒三十二年中相被告鄭喜福ヨリ典價三百五十吊ニテ典得シタルニ相
 違ナキモ這ハ正當ノ手續ヲ以テ且ツ出典者ノ所有地ヲ典得シタルモノニ外ナラサルヲ以テ原告ノ請求ニ應スル能ハスト
 云フニアリテ立證トシテ丙一號證ヲ提出シ被告鄭喜庚ニ關スル答辯ノ要旨ハ原告請求ニ係ル^東至^{本姓地}南^{本姓地}一段
 三天地ハ光緒三十二年中其所有者タル訴外鄭喜亮、鄭喜清、鄭喜元ノ三名ヨリ典價四百吊ヲ以テ正當ノ手續ニ因リ典得

シタルモノナルヲ以テ原告請求ニ應スル能ハスト云フニアリテ立證トシテ丁一號證ヲ提出シタリ

被告代理人ハ甲號證ニ付テハ何レモ不知ノ陳述ヲ爲シ證人王士元、王永聚、鄭喜成ノ各證言ヲ採用シタリ

理由

本件係争地所カ嘗テ原告祖先ノ所有タリシコトハ當事者間ニ争ナキトコロナレハ本件ニ於テハ該地所ハ原告主張ノ如ク其祖先鄭佩ニ於テ被告鄭喜福ノ祖先鄭志廣ニ出典シタルモノナリヤ將タ被告鄭喜福ノ答辯ノ如ク其祖先カ原告祖先鄭得明ヨリ買得シタルモノナリヤカ根本的争點ニシテ該争點ハ實ニ本件請求ノ當否ノ繫ル所ナリトス仍テ案スルニ(一)成立ニ争ナキ戊第三號證ニ中見人トシテ署名シアル證人王永聚ノ被告鄭喜福カ原告ヨリ二百圓ノ借増ヲ爲シタル際戊第三號證ノ一部ハ作成セラレタルモノニテ三千二百吊ヲ同人ヨリ原告ニ支拂ヒ土地ノ受戻ヲ爲シタルコトヲ知ル旨ノ證言同王士元ノ被告鄭喜福ヨリ原告ニ對シ土地ノ受戻ヲ請求セシモ原告ハ植付ヲ爲シ居リタルヲ以テ收穫迄待ツコトナリタリ云々ノ證言同鄭喜成ノ被告鄭喜福カ光緒三十二年蕪菜園子所在ノ土地九日ヲ原告ヨリ受戻シタルコトヲ知レリ該土地ハ元原告ノ祖先鄭得明ノ所有ナリシモ鄭喜福家ニ於テ買得シタルモノニシテ同家ヨリ更ニ王家ニ質入シ置キタルヲ原告ト被告鄭喜福家ト協議ノ上原告ヨリ拔價ヲ爲シ其後被告鄭喜福ニ於テ原告ニ三千餘吊ヲ支拂ヒ該土地ヲ取戻シタリトノ證言トニ徴シ本件係争地所ノ一部カ一旦原告ノ占有ニ歸シ居リタルヲ被告鄭喜福方ニ於テ受戻シタリトノ被告鄭喜福ノ答辯事實ヲ認メ得ルト(二)果シテ原告主張ノ如ク係争地所ヲ被告鄭喜福ヨリ訴外王士元、王廣增ニ三千二百吊ニテ入典シ置キタルヲ更ニ原告ニ於テ該典價ヲ同人等ニ支拂ヒ受戻シタリトセハ之ニ關スル典契ハ原告ノ手ニ所持シアルヘキ

筋合ナルニ之ニ關シ何等見ルヘキモノナキト(三)原告カ被告鄭喜福ヨリ三千二百吊ヲ受取りタルコトハ原告ノ争ナキ所ナレハ若シ眞ニ原告主張ノ如ク其祖先ニ於テ七百二十吊ニテ被告鄭喜福ノ祖先ニ入典シタルモノナリトセハ原告カ訴外王廣增、王士元ヨリ受戻シタリト稱スル典價三千二百吊全部ヲ被告鄭喜福ヨリ原告ニ提供シ原告ニ於テモ異議ナク之ヲ受領シ該土地ヲ被告鄭喜福ノ占有ニ委スヘキ謂ナキト(四)原告主張ノ如ク當初係争地所ヲ質入シタルモノトセハ老契ヲ質取主ニ交付スヘキ謂ナキト(五)成立ニ争ナキ戊第三號證ニ係争地所中三日ニ關シ立典契人鄭士法、鄭士財兩名ノ自己祖遺冊地トシテ記載シアリ該文字ハ祖先傳來ノ意味ニテ他ヨリ典所シタル場合ニ使用スヘキモノミアラサルト眞正ナリト認ムヘキ同戊第一號證ニ係争地所(同證記載ノ地所カ係争地所ニ該當スルコトハ原告ノ認ムルコト)カ鄭珥ノ買得シタルモノナルコトヲ認メ得ヘキト以上ノ各徵憑ヲ綜合シ本件係争地所ハ原告主張ノ如ク其祖先ヨリ被告鄭喜福ノ祖先ニ入典シタルモノニアラスシテ被告鄭喜福抗辯ノ如ク賣買ニ依リ所有權ヲ移轉シタルモノト認定ス甲號各證ハ被告ノ否認スルコトコロ假ニ眞正ニ成立シタルモノトスルモ其一、二號證ハ嘗テ原告祖先カ他ノ地所ト共ニ係争地所ヲ所有シ居リタルコトヲ認メ得ルニ止マリ其三號證モ果シテ係争地所ノ租稅領收證ナリヤ判明セス

其他原告ノ採用スル證人鑑定人ノ陳述ハ何レモ右認定ヲ覆スニ足ラサルモノト認ム

以上説明ノ如ク係争地所ニ關シ原告ニ所有權ナシト認ムルヲ以テ被告鄭喜福以外ノ三名カ如何ナル原因ニヨリ係争地所ヲ占有シ居ルトスルモ原告請求ノ原因失當ナレハ一々其抗辯ノ當否ニ論及スルヲ須キス原告請求ヲ排斥スヘキモノトス故ニ茲ニ爲スヘキ判決カ前關席判決ニ符合セサルヲ以テ民事訴訟法第二百六十一條ノ規定ヲ參酌シ主文ノ如ク判決シタ

民地戶管證
戊第一號證

管 戶 地 民

全地字第五拾參號

欽命鎮守盛京等處將軍 兵部尚書都察院右都御史 趙 爲給發民地戶管事照得民間買賣糧地向應完納稅銀粘給契尾現經本軍督部堂

奏定章程凡有持契抗稅者均換給戶管收執並將原契及原業主老契粘存戶管存根備查通行遵照並出示曉諭在案今據金州滿洲正白旗裕佐領下人 鄭德用 價銀玖百捌拾吊置買同佐領下人 鄭德明 在 金州項下納糧地陸段共計

肆拾陸畝伍分呈驗契據遵章每價銀壹兩完納參分正稅銀肆兩玖錢零貳厘貳分經費參兩貳錢陸分捌厘參厘火耗解費銀肆錢玖分零貳毫除將原契壹紙同老契契紙粘存根根外合行換給戶管收執須至戶管者王

計 開

坐落金州滿正黃旗界前菲菜園子處

壹段庄南路西地東西至道南至鄭瑞地北至荒格一段庄南路東地東至荒格西至道南至鄭瑞地北至鄭祿地 一段庄西路南地東至鄭瑞地西至鄭德賢地南北至道 一段庄西路南地東至鄭瑞地西至水溝南至八五子地北至水溝 一段庄西路北地東至地格西至水溝南至道北至河涯 一段庄西路北地東至本地西至荒格南北俱全水溝

鄭志起	鄭德喜	鄭志明
鄭德開	馬世彥	鄭志寬
鄭榮大成	鄭德真	王士桐
鄭德開	鄭德真	王士桐
鄭德開	鄭德真	王士桐

此地向在 旗地紅冊 項下 名下納糧每畝額徵 共完 現在過割 名下照數完納

右給業戶 鄭日牧執

光緒三十二年九月十八日給

專辦委員
覆核相符

正稅經費之外隨收戶管公費銀壹兩並無別 此地處另請延過 項浮費如官吏人等額外需案分文准予控究

奉天財政總局諭告

戊第二號證

奏辦奉天財政總局

爲

出曉諭事照得奉省旗民各地及三國稅契前經本局籌議章程呈蒙 軍督憲
 奏咨立案並由局擬就告示照錄章程飭發各屬張貼曉諭一體遵辦 在案惟查原奏章程凡民間買賣田產房園未經投稅之契在定
 章以前者限四個月內一律投稅換給戶管倘逾限不稅概照漏稅例治罪並追半價充公計自開辦以來民間持契投稅雖形踴躍而僻
 遠之處傳聞較遲一時未及投稅現在期限屆滿風聞民間舊契欲稅者尙多因恐逾限受罰以致觀望不前轉多隱匿自應量予變通以
 示體恤茲經本局議定准予展限至本年終爲止如有舊契未稅者准其陸續投稅免予罰辦除呈明並通飭遵辦外合行出示曉諭爲
 此仰合省旗民人等一體知悉爾等如有定章以前買賣旗民各地及三國舊契現尙未稅者務於年內一律投稅自經此次展緩以後倘
 再逾限不稅一經察出定即照章罰辦決不寬貸其各凜遵毋違切切特示

光緒三十二年九月十一日

印

告 示

判 示 事 項

保 證 人 ノ 責 任

判 決 要 旨

他人ノ債務ヲ保證シ且一定ノ期限內ニ履行ナキトキハ保證人ニ於テ履行スヘキヲ約シタル場合ニハ其保證人ハ他人ノ債
 務ヲ保證スルト共ニ其期限內ニ履行ナキトキハ之ニ代リテ履行スヘキ債務ヲ負擔シ居ルモノト云ハサルヘカラス(旅、
 地、明四一、(民)五一、賃銀請求事件)

判 決

原 告 林 尙 梅
 被 告 張 景 仁

主 文

被告ハ

原告林尙梅ニ銀百貳拾八圓五拾錢ヲ
 原告林吉祥ニ銀百貳拾七圓六拾錢ヲ

原告郭士志ニ銀百四拾壹圓三拾錢ヲ

原告陳秉恩ニ銀百四拾七圓八拾八錢ヲ

原告張本實ニ銀百參拾七圓五拾錢ヲ

支拂フヘシ

訴訟費用ハ被告ノ負擔トス

事實

原告代理人ハ主文ノ通り判決アリタシト一定ノ申立ヲ爲シ其請求原因タル事實トシテ原告五名ハ營口漁業公司ノ苦力募集ノ請負人ナル被告ノ勸誘ニ從ヒ各二十名ノ苦力ヲ被告ニ供給シ光緒三十三年二月五日ヨリ四月五日ニ至ル二箇月間勞働ニ從事セシメシカ其賃金ノ中各原告ノ受取未済ノ分ハ一定ノ申立ニ述ヘタル金額ニシテ被告ハ右金額ヲ同年六月十五日ヲ期限トシ各原告ニ支拂フヘキ事ヲ約シナカラ期限ノ過クルモ支拂ハサルニ付本訴ニ及ヒタリト陳述シ甲第一號證トシテ憑帖五枚ヲ提出シタリ

被告ハ原告ノ請求棄却ヲ求メ其抗辯事實トシテ各原告カ苦力ヲ供給シタル事ハ原告代理人陳述ノ通りナルモ其供給ヲ受ケタルモノハ被告ニアラスシテ營口漁業公司ナリ從テ原告等カ請求スル所ノ金額ハ同公司ノ支拂フヘキモノニシテ只被告ハ同公司カ被告五名ニ對シテ負フ所ノ債務ニ付保證ヲ爲シタルニ過キス依テ原告ノ請求ニ應スル能スト陳述シ甲第一號證ノ各憑帖ノ成立ヲ認メタリ

理由

案スルニ甲第一號證ノ各憑帖ハ被告ヨリ各原告ニ一通ツツ差入レタル證書ニシテ其文書ハ各原告ニ對スル未拂金額(一定ノ申立ノ金額)ハ營口漁業公司ヨリ光緒三十三年六月十五日ヲ期限トシテ各原告ニ支拂フ事ヲ被告ニ於テ保證ス若シ其期限ニ支拂ヲ爲サ、ルトキハ保證人タル被告ニ於テ支拂ヲ爲スヘシト云フニアルヲ以テ被告カ漁業公司カ各原告ニ對シテ負フ所ノ債務ヲ保證シタル點ハ被告抗辯ノ通りナリト雖モ期限タル同年六月十五日迄ニ同公司ニ於テ支拂ヒテ爲サ、ルトキハ被告ハ同公司ニ代リ各原告ニ支拂ヲ爲スヘキ義務ヲ負擔シ居ルモノト云ハサルヘカラス、而シテ甲第一號證ノ金額ハ期限後ノ今日ニ至ルモ支拂ヒアラサルコトハ被告ノ認ムル所ナルカ故ニ本件原告五名ノ請求ハ結局理由アリトス又訴訟費用ハ敗訴者ヲシテ負擔セシムヘキモノトス依テ主文ノ如ク判決ス

判示事項

證人トシテ其成立ヲ認メ原告トシテ之ヲ否認シタル證書ノ眞偽

判決要旨

原告カ證人トシテ他ノ訟訴事件ニ關シ訊問ヲ受ケ一定ノ證書ノ成立ヲ認メタル旨其證人訊問調書ニ記載アル以上其原告タル事件ニ於テ該證書ヲ否認スルハ謂ナキコトト云ハサルヘカラス(旅、地、明、四(民)三四、質地返還請求事件)

判決

原告 桑 景 香
被告 畢 永 元

主 文

原告ノ請求ヲ棄却ス
訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

事 實

原告代理人ハ一定ノ申立テトシテ被告ハ原告ヨリ錢千吊ヲ受領シ王家屯腰嶺地ノ畑三段三日ヲ原告ニ引渡スヘシトノ判決アリタシト云ヒ其請求ノ原因タル事實トシテ原告ノ先代桑朝選ハ本件請求ノ土地ヲ道光十五年ニ於テ千吊ヲ以テ王景太ナル者ニ出典シタリシカ同二十五年ニ至リ王景太ハ其土地ヲ同價ヲ以テ張秀ナルモノニ轉典シ其後張秀ノ子張太齡ハ光緒二十五年同價ヲ以テ更ニ其土地ヲ被告ニ轉典シタリ而シテ原告ハ今回ノ贖回セントシ被告ニ交渉スルモ被告ハ之ニ應セサルニ付本訴ニ及ヒタリト陳述シ甲第一號證トシテ典契ヲ提出シ乙第一號證及同第三號證ノ一、二ニ付不知ノ陳述ヲ爲シ同第二號證ノ成立ヲ否認シ本院明治四十年(民)第二三四號張太齡、畢永元間ノ畑地返還請求事件記録ノ取寄ヲ申請シ其記録中ノ利益ナル部分ヲ引用スト陳述シタリ

被告代理人ハ原告ノ請求棄却ヲ求メ抗辯事實トシテ本件請求ノ土地ハ元原告家ノ所有ナリシカ原告ノ先代ナル桑朝選ノ子桑雲就ノ妻即原告ノ祖母ナル桑鄭氏ニ於テ道光二十九年中訴外張太齡ノ父張秀ニ賣渡シタルモノニシテ被告ハ光緒二

十五年中張太齡ヨリ之ヲ買受ケタルモノナリ從テ原告ノ請求ニ應スル能スト陳述シ甲第一號證ニ付不知ノ陳述ヲ爲シ乙第一號乃至同第三號證トシテ賣契二通契典二通ヲ提出シ取寄ヲ爲シタル前記張太齡、畢永元ノ畑地返還請求事件記録中ノ利益ナル部分ヲ引用スト陳述シタリ

理 由

本件ノ爭點ハ本件原告請求ノ土地ハ被告ノ所有ナリヤ或ハ原告ノ所有ニシテ被告ハ其典得者ナリヤノ點ニアリトス依テ先ツ乙第一號證ヲ案スルニ該證ハ光緒二十五年十一月十九日附ノ張太齡ヨリ畢永元ニ宛テタル本件係爭畑地ノ賣契ナリトス此乙第一號證ニ付原告代理人ハ不知ノ陳述ヲ爲スト雖モ前記取寄記録中ノ王翰、魏玉盛、魏永泉ニ對スル證人訊問調書ニハ何レモ本件係爭土地ハ光緒二十五年十一月十九日ニ於テ家人立會ノ上張太齡ヨリ被告ニ賣渡シタルモノニシテ乙第一號證ハ其時作製シタルモノナル旨記載アリ且同記録中ノ奉天領事ノ回答書ニ添付セル度支司ノ回答寫ニ本件ノ乙第一號證ハ清國ノ規則ニ從ヒ作製シタル完全ナル賣契ナル旨ノ記載アルニ依リ乙第一號證ノ成立ハ真正ナルモノト認定ス全記録中ノ張太忠、桑景高、桑長潤ニ對スル各證人訊問調書ニ本件係爭土地ハ張太齡ヨリ被告ニ出典シタルモノナル旨記載アリト雖モ本院ハ之ヲ採用セス次ニ乙第二號證ヲ案スルニ該證ハ道光二十九年四月二十九日附ニテ桑鄭氏ヨリ張秀ニ宛テタル本件係爭土地ノ賣契ナリトス原告代理人ハ此乙第二號證ヲ否認スト雖モ前記取寄記録中ノ本件原告ニ對スル證人訊問調書ニハ本件原告ハ張太齡畢永元間ノ事件ニ於テ證人トシテ訊問ヲ受クルニ當リ此乙第二號證ノ成立ヲ認め居リタル旨記載シアリ故ニ本件ニ於テ原告代理人カ乙第二號證ヲ否認スルハ誠ニ謂ナキ事ト云ハサル可ラス右ノ如ク乙

第一號證乙第二號證共ニ真正ニ成立シタルモノト認ムル以上ハ本件係争土地ハ桑郷氏ヨリ張秀ニ賣渡シ其子張太齡ハ之ヲ被告ニ賣渡シタルモノニシテ被告ハ賣買ニ依リ其所有權ヲ獲得シタルモノト認メサルヘカラス即本件原告ノ請求ハ理由ナキモノトシテ棄却スヘク訴訟費用ハ敗訴者ヲシテ負擔セシムヘキモノトシ主文ノ如ク判決ス

判 示 事 項

一、鹽田占有者ノ費用償還請求權

二、關東州鹽田規則ニヨル鹽田使用權ノ喪失ト私法上ノ權利

判 決 要 旨

一、鹽田占有者ノ鹽田築造ハ土地ノ狀況ヲ有利ニ變更シタルモノニ外ナラサルヲ以テ鹽田小作權者カ其引渡ヲ求ムルニ當リテハ必スヤ築造費用又ハ其場所ノ増價額ヲ占有者ニ支拂フコトヲ要ス

二、關東州鹽田規則第十四條ノ期限内ノ届出ヲ爲サ、リシコトハ鹽田トシテ使用スル權利ヲ拋棄シタルニ止リ要償並ニ留置權ノ如キ私法上ノ權利ヲモ喪失セシムル趣旨ニ非ス(旅、高、明、四五、(控)四二、損害賠償請求事件)

判 決

控 訴 人

張

雲

瑞

外 四 名

被 控 訴 人

新

井

宗

治

主 文

原判決ヲ左ノ如ク變更ス

被控訴人ノ請求ハ之ヲ却下ス

訴訟費用ハ第一、第二審ヲ通シ被控訴人ノ負擔トス

事 實

控訴代理人ハ原判決ヲ變更シ被控訴人ノ請求ハ之ヲ棄却ス訴訟費用ハ第一、第二審ヲ通シ被控訴人ノ負擔トストノ判決ヲ求ムト申立テ被控訴代理人ハ控訴棄却ノ判決ヲ求メタリ而シテ双方事實上ノ供述ハ控訴代理人ニ於テ訴外大日本鹽業會社カ鹽田トシテ使用ノ許可ヲ受ケタル場所カ本訴ノ鹽田ニ當ルコトハ争ハサルモ其場所ハ控訴人ノ所有地ナルカ故ニ官地タル鹽田ニ付キ定メタル關東州鹽田規則ノ適用ヲ受クヘキモノニアラサルヲ以テ本訴鹽田ヲ鹽業會社ヘ貸下ケ又ハ使用許可ヲ與ヘラレタルハ違法ナルノミナラス假令控訴人ノ所有地ニアラストスルモ同規則ニ依レハ既設鹽田ノ使用者ハ規則施行ノ日ヨリ一年ニ届出ツルトキハ使用ヲ許可セラレ同期間内ニ届出サルトキニ於テ始メテ鹽田ノ使用ヲ拋棄シタルモノト看做サルヘキモノナルニ拘ハラズ本訴鹽田ハ右一年ノ届出期間中ナル明治三十九年九月(關東州鹽田規則ハ同年三月ヨリ施行セラル)ニ鹽業會社ヘ貸下ノ許可ヲ與ヘラレタルモノニシテ則チ控訴人ニ使用權ノ存スル時期ニ於

テ貸下ケラレタル不法アリテ其許可ハ無効ナリ又本訴鹽田ノ場所ハ干瀉ニシテ控訴人ノ所有地内ニアラストスルモ控訴人ハ無主物タル干瀉地ニ鹽田ヲ築造シタルモノニシテ舊來ノ慣例ニヨリ業主權ヲ得タルヲ以テ此點ヨリスルモ右規則ノ適用ヲ受クヘキニアラス尙鹽田ヲ開設スルニハ普通一付ニ付キ三千圓内外ノ費用ヲ要スルモノニシテ其費用モ亦本訴ノ損害額ヲ計算スルニ付キ控除スヘキモノナリ元來本訴ノ鹽田ハ控訴人カ長日月ト多額ノ費用トヲ以テ築造シ永年何人ノ異議ヲモ受ケス使用シ來リタルモノニシテ何等ノ過失若クハ故意ヲ以テ被控訴人ノ權利ヲ侵害シタルモノナキカ故ニ不法行為ヲ原因トスル本訴ハ其根底ニ於テ失當ナリト附加シ江良辯護士ニ鹽田開設地貸下願ヲ依頼シタル云々ノ事實摘示ハ誤ニシテ控訴人ハ同辯護士ニ鹽田ニ關スル願出ニ付キ鑑定ヲ求メ委任狀入用ノ場合ニ於テ使用スヘク押印ヲ押シタル書面ヲ交付シタルマデニシテ印類ヲ渡シタルコトナク控訴人名義ノ印ヲ押シタル書面アリトセハ其印ハ控訴人不知ノ間ニ造ラレタルモノナリト述ヘ鹽田使用權ノ讓渡又ハ轉貸カ無効ナリトノ抗辯占有回復ノ訴トシテ不當ナリトノ抗辯ハ之ヲ提出セス被控訴代理人ニ於テ本訴鹽田ハ官有地ニシテ控訴人ノ所有地ニアラス又鹽田築造費ハ被控訴人ノ請求スヘキ損害額ヨリ控除スヘキモノニアラス假ニ控除スヘキモノトスルモ一付百五十圓乃至二百圓ニ過キス次ニ訴外鹽業會社ヘ貸下ヲ受ケタルハ控訴人主張ノ如ク鹽田規則施行後一年以内ナリシコトハ相違ナキモ其一年ノ期限内ニ於テ控訴人ハ届出ヲ爲サス權利ヲ喪失シタルモノニシテ結局鹽業會社ヘノ貸下ハ何等ノ違法ナカリシモノナリト附加シ訴外王澤彭ヨリ鹽田小作權ノ讓渡ヲ受ケシハ明治四十四年二月十五日ナリト訂正シ前記控訴人ノ撤回シタル抗辯ニ關スル主張ヲ爲サ、ル外原判決ニ摘ボスルトコロニ同シ立證トシテ被控訴代理人ハ甲第一乃至第三號證ヲ提出シ原審證人福島元太郎、片平

精一、萱場三郎、鶴田政吉、江良帷一、林鳳奎ノ供述及原審ニ於ケル鑑定當審ニ於ケル檢證ノ結果ヲ援用シ乙號各證ハ知ラスト述ヘ證人谷堂賢、谷堂新ノ訊問及鑑定ヲ求メ控訴代理人ハ原審證人福島元太郎、萱場三郎、林鳳奎、隋德振、何文田ノ證言甲第二號證當審證人谷堂賢、谷堂新ノ證言ヲ援用シ乙第一第二號證ヲ提出シ甲第一號證ノ成立ヲ認メ其餘ノ甲號證ハ知ラスト述ヘ檢證鑑定及證人楊龍山、孫玉林、憑日成、劉言愷、張志有、何永順ノ訊問ヲ求メタリ

理由

本訴ノ要旨ハ被控訴人カ使用ノ權利ヲ有スル鹽田ヲ控訴人ニ於テ不法ニ使用シ被控訴人ノ探鹽ヲ妨ケタル爲メ被控訴人ハ明治四十四年度ニ於テ鹽田ヨリ生スヘキ利益ヲ收得スルヲ得サリシモノトシ其損害ヲ賠償センコトヲ控訴人ニ要求スルモノナリ依テ先ツ控訴人ニ於テ損害賠償ノ責任ヲ負フヘキ不法行為アリタルヤ否ヤヲ案スルニ被控訴人カ訴外王澤彭ノ有スル鹽田小作權ヲ同人ヨリ讓受ケタル當時即チ明治四十四年三月ニアリテハ既ニ控訴人ハ鹽田トシテ本訴ノ地域ヲ使用シ居リタルモノニシテ其前年ニ於テ訴外大日本鹽業會社カ鹽田使用ノ許可ヲ得タルハ(甲第一號證參看)實ハ控訴人若クハ其先主カ築造ヲ完成シタル鹽田ノ存在セシニ基キ鹽田ノ開設アリタルモノトセラレタルニ因ルモノナルコトハ被控訴人ノ爭ハサル所トス而シテ被控訴代理人ハ自己ニ鹽田ヲ使用セントシ如何ニ說諭ヲ加フルモ控訴人等ハ鹽田ヨリ退去セス反テ暴力ヲ以テ被控訴人ノ作業ヲ妨ケタリト云フモ假リニ右鹽田ハ被控訴人主張ノ如ク控訴人ニ於テ所有シ又ハ使用スヘキ權利ナカリシモノニシテ且其權利ナキコトハ控訴人ニ於テ知り居タルモノトスルモ鹽田築造ハ土地ノ狀況ヲ有利ニ變更シタルモノニ外ナラスシテ被控訴人ニ於テモ引渡要求ノ當時尙其場所カ鹽田トシテ存在シタル事實ヲ爭ハ

サルカ故ニ被控訴人カ其引渡ヲ求ムルニ當リテハ必スヤ關東州裁判事務取扱令第一條民法第九十六條第二項ニ依リ築造費用又ハ其場所ノ増價額ヲ占有者タル控訴人等ニ支拂フコトヲ要スルモノトス而シテ控訴人等カ其場所ヲ鹽田トシテ遠ク清國政府若クハ露國政府統治ノ當時ヨリ占有シ來リタルコトハ當審證人何永順、劉言愷、惡日成等ノ證言並ニ乙第二號證ニ依リ明カニシテ其占有カ不法行爲ニ因リ始マリタル事實ノ見ルヘキナク且鹽田引取ノ爲メ右築造費又ハ増價額ヲ被控訴人ニ於テ負擔スヘキモノトセハ直ニ之ヲ辨濟スヘキモノナルコトハ勿論ナルヲ以テ被控訴人ニシテ其支拂ヲ爲サルニ於テハ控訴人等ハ同令第一條民法第二百九十五條ニ依リ鹽田ヲ自己ニ留置スルノ權アルモノナリ尤モ前記鹽田規則第十四條ニハ規則強行ノ日ヨリ一年內ニ屆出ヲ爲サルモノハ既設鹽田ノ使用權ヲ拋棄シタルモノト看做ストアリテ控訴人等カ期限內屆出ヲ爲サリシコトハ控訴人ノ爭ハサル所ナルモ右ハ鹽田トシテ使用スル權利ヲ拋棄シタルニ止マリ上記ノ要價權並ニ留置權ノ如キ私法上ノ權利ヲモ喪失セシムル趣旨ニアラス又被控訴人ニ於テモ鹽田使用ニ付キ官憲ノ許可ヲ得タルカ爲メ鹽田引渡ヲ求ムルニ當リ私權上ノ關係ニ於テ負擔スヘキ義務ヲモ免除セラレタルモノニアラサルハ勿論ナリトス然ルニ被控訴人ニ於テ今日ニ至ル迄控訴人等ニ對シ鹽田築造費用又ハ増價額ヲ提供シタル事實ノ見ルヘキモノナク從テ控訴人カ鹽田ヲ使用シ被控訴人ニ引渡ササリシトテ毫モ違法ノ廉ナク寧口法ノ認メタル權利ヲ行ヒタルモノト謂ハサルヘカラス故ニ控訴人ノ過失故意ノ以テ被控訴人ノ權利ヲ侵害シタルモノナシトノ控訴代理人ノ抗辯ハ其當ヲ得タルモノニシテ控訴人等ノ爲メ被控訴人ハ得ヘキ利益ヲ失ヒタリトスルモ民法第九九條ニ依リ其賠償ヲ控訴人等ニ求ムルコトヲ得サルモノトス已ニ然レハ被控訴人ノ本訴請求ハ此點ニ於テ排斥スヘキモノナルカ故ニ其餘ノ爭點ニ

付キテハ說明ヲ下サス關東州裁判事務取扱令第一條民事訴訟法第七十二條第七十八條ヲ適用シ主文ノ如ク判決ス

鑑定事項

- 一、于瀉地ノ所有權及鹽田開設者ノ權利
- 二、四至ノ一方カ「海崖ニ至ル」ノ意義
- 三、賣契中「房產一分」ノ意義
- 四、「原糧壹佰貳拾肆畝陸分」ノ意義
- 五、契尾ヲ附スヘキ賣契
- 六、滿潮時ニ海水ノ浸スヘキ場所ニ鹽田ヲ開設シタル者ト業主權
- 七、賣契寫

鑑定要旨

一、(一) 正當ノ手續ヲ經テ于瀉地ニ漁場又ハ鹽田ヲ開設シタル者ハ該場所ニ對シテ所有權ヲ取得ス(一ノ一及一ノ五)

- (二) 土地ノ四至中其一方カ海崖ニ至ルトキハ其海岸ニ鹽田ヲ開クハ隨意ナリ人民カ海岸ニ鹽田ヲ開設スルハ自由ニシテ從テ鹽田ハ開設シタル者ニ業主權アリトセラレ居タリ (二ノ五)
- (三) 官ノ許可ナクシテ鹽田ヲ開設シタルトキハ官ニ沒收スヘキモノナリ (一ノ二)
- (四) 清國時代ハ民有ニ非サル地ハ即官有ナリト云フヘカラス荒地、山林、又ハ干潟地ノ如キハ直ニ官有ナリト云フヲ得ス (一ノ二)
- (五) 官ノ許可ヲ得テ鹽田ヲ開設シ其所有權ヲ得タル以上鹽田カ其形狀ヲ存セサル迄ニ破壊セラレ且長期間其儘ニ放擲シ置クモ其所有權ヲ失フコトナシ (一ノ三)
- 二、四至ノ一方カ海崖ニ至ルトハ境界線ハ水際迄ヲ指シタルモノナルニヨリ最モ高キ滿潮時ニ海水ノ來ル所ヲ境ト見ルヘキモノナリ (一ノ四及二ノ六)
- 三、「房產一分」トハ家屋ノミヲ指シタルニアラス家屋ニ附帶シタル土地及凡テノ財產ヲ包含ス (二ノ一)
- 四、「原糧壹佰貳拾肆畝陸分」トハ從來租稅ヲ納付シ居ル百貳拾四畝六分ノ義ナリ (二ノ一)
- 五、契尾ハ有租地ニ限ラス無租地又ハ家屋ノミノ賣買ノ時ニモ附セラル (二ノ四)
- 六、滿潮時ニ海水ノ侵スヘキ場所ニ鹽田ヲ開設シタル者ハ其鹽田ノ業主權ヲ有セサルヘシ (二ノ七)
- 七、賣契乙第一號證寫(旅、高、明、四、五、(控) 四二、損害賠償請求事件)

一、鑑定人劉心田訊問調書

- 一、清國政治時代海岸ニシテ干潮ノ時水ナキモ滿潮ノ時ニハ海水ノ浸スヘキ場所即干潟地ハ其場所カ網ヲ入レ漁業ヲ爲スコトヲ得ヘキモノナル時ハ人民ヨリ地方官衙ニ願出テ許可ヲ得テ漁場ト爲シ居レル例ハ往々アリ又干潟地ニ鹽田ヲ開設スルニモ漁場ト同様官衙ニ願出テ許可ヲ受クヘキモノナリ以上ノ如ク正當ノ手續ヲ經テ漁場又ハ鹽田ヲ開設シタル者ハ該場所ニ對シ所有權ヲ得ルナリ一旦人民ノ所有ト爲リタル以上ハ政府ハ強制シテ其地ヲ引揚ケ官有ト爲スカ如キコトハアラサルナリ鹽田ニ付テハ清國時代ハ別ニ地租ノ徵收ハ爲シ居ラサリシモ採鹽ヲ爲シテ輸出ヲ爲ス時其輸出高ニ應シテ相當ノ稅金ヲ徵シ居リタリ
- 二、清國政治當時ニ於テ民有ニアラサル地ハ官有ナリト云フコトヲ得ス即民有ニアラサル荒地、山林又ハ干潟地ノ如キ直ニ之ヲ官有ト言フヲ得ス官カ其地ニ對シ管理權ヲ行ヒ處分スルニ當リ始メテ官有ト認メテ諸般ノ處理ヲ爲スヘキモノニテ其以外ハ凡テ無主物同様ノ狀態ト爲リ居リタリ若シ右無主物狀態ニ在ル場所ニ人民カ植林又ハ耕作地ヲ拓キ或期間納稅スルトキハ開拓者ハ直ニ土地ノ業主權ヲ得ルモノナリ又許可ノ手續ヲ經スシテ勝手ニ鹽田ヲ開設スルハ違例ニ屬スルモノナルカ故ニ官ニ於テ其事ヲ知りタル時ハ爾後採鹽ヲ差止メ鹽田ハ官ニ沒收シ更ニ官ヨリ特別ノ條件ヲ付シテ開設者又ハ其他ノ者ニ採鹽ヲ爲サシムヘキモノナリ
- 三、干潟地ニ鹽田ヲ開設スルニハ其海岸ニ近接シタル土地ノ所有者ニ限ラス何人ニテモ官ノ許可ヲ受クル時ハ開設シ得ヘキナリ許可ヲ得テ正當ニ開設シ所有權ヲ得タル以上若シ天災等ノ爲メ鹽田カ其形狀ヲ存セサル迄ニ破壊セラレ而モ幾年又ハ幾十年等無限ニ其儘投擲シ置クモ夫レカ爲メニ所有權ヲ失フカ如キ事ハ決シテアラス然レトモ餘リ永ク打

捨テ置ク時ハ鹽稅官吏杯ヨリ注意シ修理セシムルヲ以テ無限ニ打捨テ置クカ如キコトハ實際ニ於テ其例ヲ見サル所ナリ

四、民有地ノ四至ノ一方カ海崖ニ至ルトアル時ハ其境界線ハ水際マテヲ指シタルモノニ付即最高キ滿潮時ニ海水ノ來ル所ヲ境ト見ルヘキモノナリ尤モ久敷年月ヲ經過スル時ハ自然地形ニ變狀ヲ生シ從前ノ水際ナリシ所マテハ海水ノ來ラサルコト、爲ル場合アリ此時ハ土地ノ境界ハ自然現時ノ水際迄延長セシモノトスルコトモ慣例上行ハレ居レリ

五、漁場ニ付テモ政府ハ網口稅ヲ賦課シ居ルヲ以テ官ノ許可ヲ得テ漁場ヲ開設シ納稅ヲ爲サハ即其區域内ハ納稅者ノ所有ニ歸シ自ラ經營スルモ又他人ニ賣却スルモ并ハ勝手ナリ故ニ其後ニ至リ漁場トシテ使用ヲ爲ササルモ尙引續キ網口稅ヲ徵收セラレ居リタル例ハ數多アリタリ又漁場モ鹽田ト同様開設スルニハ隣接地ノ所有者ニ限ラス何人ニテモ許可ヲ得テ開設スルハ隨意ナリ

六、隣接者外ノモノカ營ム漁業場又ハ鹽田ハ許可ヲ受クル當時網曳キ足場又ハ貯鹽所ハ夫々干瀉地内ニ見込ミアルヲ以テ漁業又ハ採鹽上他人ノ陸地ヲ侵害スルカ如キコトハ實際ニ於テアラサルナリ

七、右無主ノ狀態ニ在ル場所カ若シ鹽田等ヲ開設スルニ最モ適當ナリトスルモ人民ヨリ開設許可ノ願出ヲ爲ササル限りハ官ハ其場所ニ付何等ノ關係ナク管理行爲ヲ施スモノニアラス故ニ無主ノ狀態ハ鹽田開設ノ適否ニ左右セラルルモノニアラス

八、以上陳述ノ事項ハ清國ノ法規ヲ以テ規定セラレ居ルニハアラス從來ノ慣例トシテ獨リ當關東州ノミナラス支那各省ニ汎ク行ハレ居ルモノナリ

二、鑑定人文候訊問調書

一、御示シノ乙壹號證ノ「房產一分」トハ家屋ノミヲ指シタルモノニアラス家屋ニ附帶シタル土地及凡テノ財產ヲ包含セシメタルモノナリ分家ニ依リ家屋及土地ヲ分得シタル者カ其家屋並ニ土地ヲ賣却スル時ニ能ク此文詞ヲ用ユルコトアリ若シ家屋ノミヲ賣買スルトキハ特ニ其家屋ノミヲ表スヘキモノニシテ例ヘハ平房何間或ハ瓦房何間ト記載スルカ如シ又土地ノミヲ賣却スルトキハ特ニ其土地ノミヲ表スヘキモノニテ此場合ニハ決シテ房產ト記載セス又同證中ノ「原糧壹佰貳拾肆畝陸分」ハ有租地ヲ指シタルモノナリ字義ノ上ヨリセハ原ハ元來トノ意味ニテ糧トハ支那ニ於テ政府ニ租稅ヲ納ムルコトヲ錢糧ト言ヒ其錢糧ヲ約シテ單ニ糧ト記シタルモノニテ之ヲ要スルニ從來租稅ヲ納付シ居ル百二十四畝六分ト解スヘキモノナリ

二、支那ニ於テハ房身地並ニ家屋ニハ租稅等ヲ賦課シ居ラス房身地ハ一地上ニ或ル部分ニ家屋ヲ建設シアレハ其地カ如何ニ廣キモ皆房身地ト爲ル譯ニハアラスシテ房身地ノ部分ハ局限セラレ居ルモノナリ又鹽田ニハ相當ノ稅ヲ賦課セラレ居ルモノナラムトハ思料スルモ自分ハ鹽田ノ事ニ付テハ更ニ知ラス

三、同證書中四至ノ境界ハ房身地ニ對シ記載シタルモノナリ本文中ニアル原糧百二十四畝六分ニ對スル四至ハ文書上自然不明ニ屬シ居レリ尤モ其百二十四畝六分ハ右房身地中ニ包含シ居ルヤモ知レサルモ文書ニ付テハ之ヲ知ルコト能ハス要スルニ同文書ノ記載ハ甚タ不完全ノモノト認ム

四、乙一號證ノ文書ハ紅契ナルヲ以テ偽造ノ出來サルモノト思料ス契尾ハ有租地ニ限ラス無租地又ハ家屋ノミノ賣買ノ時ニモ付セラルヘシ而シテ乙一號證ノ契尾ニ高玉財ノ下ニ「地百二十四畝六分」トアルハ全ク有租地ヲ指シタルモノナリ地何程ト記シアル場合ハ必ス有租地ニ限ルモノニテ無租地ナレハ地トハ書カスシテ地目ヲ掲クル例ト爲リ居レリ假令ハ房身地、蠶場或ハ荒地ト記スルノ類ナリ又鹽田ヲ賣買スルニハ畝數ヲ用ヒス何付トスヘキモノニ付右百二十四畝六分ハ又鹽田ニモアラサルコト明カナリ

五、土地ノ四至中其一方カ海崖ニ至ルトキハ其海岸ニ鹽田ヲ開クコトハ隨意ナリ支那政府時代海岸ニ付テハ何等ノ規則ナカリシモノニテ官有トモ民有トモ一定シ居ラサリシニ付キ人民カ海岸ニ鹽田ヲ開設スルモ政府ハ決シテ之ヲ答メス隨テ鹽田ハ開設シタルモノニ於テ業主權アリトシ勝手ニ賣買セラレ居リタルモノナリ海岸ニ開設シタル鹽田ヲ政府ヨリ返納ヲ命セラレタル實例ハ知ラサルモ若シ政府カ之ヲ引揚クルトセハ其開設者ニ對シ相當ノ金額ヲ交付セサルヲ得サルモノト思料ス

六、海崖トハ如何ナル場所ヲ指シヤニ付テハ判然ト之ヲ述フルコト能ハサルモ文字上ヨリ見レハ水陸ノ境ヲ指スモノナルヘシ尤モ滿潮ノ度ハ時刻ニ依リテ高低アルヲ以テ最高キ滿潮ノ時ニ海水ノ來ルヘキ區域ヲ指スノ外ナキモノトス

七、干潮ノ時ニハ水ナキモ滿潮ノ時ニハ海水ノ侵スヘキ場所ニ鹽田ヲ開キタル場合ノ實例ハ知ラサルモ此場合ハ前述海崖ニ鹽田ヲ開設シタル場合トハ異ナリテ開設者ハ其鹽田ニ對シ業主權ナキモノト思料ス

賣契 寫

乙第一號証

立賣契人高玉財同侄高鑑因官無湊有買到房產一分坐落棗兒房身同原產主許開弘情恩賣與復永社五甲民張色永遠爲□□內原糧壹百貳拾肆畝陸分同衆說允彼此情恩作價較銀壹佰貳拾兩正當面交足無缺四至條段以內樹柱瓦塊俱無存留並無項負準拆情亦無畫字銀兩定賣後本支族人爭奪等情有賣主一面承當若原產主爭奪畫字銀不如賣主相□□後不許返悔如有先悔者干罰銀硃百斤入官公用恐後無憑立賣契永遠存照

計 開

道東西房身兩處草房二十三間四至
 東至大墳子東嶺 西至道
 南至海崖□ 北至大道
 道北南北地一段東西地參段地四至以內之□□□□存留

借字生	孫	徐	王	高	宋
		蘇	仁	國	秉
		太	盛	明	增
	欽	+	+	+	+

乾隆拾八年十一月拾玖日立

二二七六

奉天府復州

契

高玉財 地百貳拾四畝陸分
房二十三間

壹百貳拾兩
參兩隆錢
張色

字號

乾隆十九年三月

判 示 事 項

- 一、土地調查部ニ對スル恩賜單ノ提出ト査定ノ關係
- 二、支那人間ニ於ケル不法行爲ニ因ル損害賠償請求權ノ消滅時效

判 決 要 旨

一、關東廳臨時土地調查部ニ對シ土地カ自己ノ所有ナル旨ノ申告ヲ爲シ且恩賜單ナル文書ヲ提出シタル場合ニモ査定カ

該恩賜單ノ提出アリシコトノミニ據ルモノナリヤ否ヤ轍ク之ヲ認メ難シ

二、大正十一年十月一日勅令第七十八號施行以來支那人間ニ於テモ民事ニ關シテハ日本民法及民法施行法等ニ依ルヘキヲ以テソレヨリ以前ニ不法行爲ニ關シ被害者カ損害及加害者ヲ知覺シタルトキハ不法行爲ニ因ル損害賠償請求權ノ消滅時效ハ大正十一年十月一日ヨリ起算スヘキモノナリ(旅、高、昭、二、(控)七六、損害賠償請求事件)

判 決

控 訴 人 王 仁 本
外 一 名
被 控 訴 人 王 清 年

主 文

本件控訴ハ之ヲ棄却ス
控訴費用ハ控訴人ノ負擔トス

事 實

控訴代理人ハ原判決ヲ廢棄ス被控訴人ハ控訴人兩名ニ對シ金一千圓ヲ支拂フ可シ訴訟費用ハ第一、二審共被控訴人ノ負擔トストノ判決ヲ被控訴代理人ハ控訴棄却ノ判決ヲ求ムル各一定ノ申立ヲ爲シタリ而シテ當事者雙方ノ事實上ノ演述ハ控訴代理人ニ於テ控訴人ハ本件土地ニ關シ土地調査ノ當時土地調査部及會事務所ニ就キ調査セシトコロ控訴人等ノ共有

二二七七

ニ査定セララルコトト爲リ居レリトノコトナリシニヨリ控訴人等ハ安心シ居リタルトコロ被控訴人カ文書ヲ偽造シテ同人ノ所有ナル旨申告セシ結果被控訴人ノ所有ニ査定セラル、ニ至リタルモノナルカ故本訴ハ不法行爲ヲ原因トス尙被控訴人ノ時効援用ノ抗辯ニ對シ乙第一號證成立當時ニ於テハ支那人ノ外ニ關係者ナキ民事ニ關スル事項ハ從前ノ慣例ニ依ルヘキ時代ニシテ而モ支那ニハ時効ニ關スル慣例ナキヲ以テ時効ノ問題ハ民法施行法ノ規定ニ依リ決スヘク民法施行法ニ依レハ未タ時効ハ完成セス假ニ時効ノ問題アリトスルモ乙第一號證ニ署名シタルハ王仁本一人ナルカ故控訴人王殿榮ニ對シテハ被控訴人主張ノ如キ時効ノ關係ナキ旨被控訴代理人ニ於テ假ニ控訴人ニ本訴請求權アリトスルモ民法第七百二十四條ノ規定ニ依リ本訴債權ハ三年ノ時効ニ依リ既ニ消滅シタル旨述ヘタル外當事者双方ノ事實上ノ演述ハ原審判決摘示事實ト同一ナルヲ以テ茲ニ之ヲ引用ス

證據トシテ控訴代理人ハ甲第一號證同第三號證ノ一、二、三、同第三號證乃至第五號證ヲ提出シ原審證人王玉年、王殿有ノ證言ヲ援用シ證人王道一、姜信年、王榮年、于長春、于長禮ノ訊問ヲ求メ乙第一號證ノ成立ヲ認メ且之ヲ援用シ被控訴代理人ニ於テ乙第一號證ヲ提出シ甲第五號證ノ成立ヲ認メタル外其餘ノ甲號各證ハ不知ヲ以テ答ヘタリ

理由

本件土地カ關東廳臨時土地調查部ニ於テ被控訴人ノ所有名義ニ査定セラレ該査定カ既ニ確定シタルコトハ當事者間爭ナキトコロニシテ控訴人ハ本件土地ハ元來控訴人等兩名ノ共有ナルニ拘ラス被控訴人ハ不法ニモ關東廳臨時土地調查部ニ對シ自己ノ所有ナルカ如ク申告シ該部員ヲ欺罔シテ被控訴人ノ所有ニ査定セシメ以テ控訴人等ノ財產權ヲ侵害シタル旨

主張シ被控訴人ハ控訴人等主張ノ不法行爲ノ事實ヲ否認スルトコロナルノミナラス假ニ控訴人主張ノ如シトスルモ本訴請求權ハ民法第七百二十四條ノ規定ニ依リ三年ノ時効ニ依リ消滅シタル旨抗爭スルヲ以テ先ツ控訴人等ノ本訴請求權ノ存否ニ付案スルニ原審證人王玉年同王殿有並ニ當審證人王道一、姜信年、王榮年、于長春、于長禮ノ各證言並ニ右證人王玉年、王殿有ノ各證言ニ徵シ其成立ヲ認ムルニ足ル甲第一號證乃至第三號證右證人王道一ノ證言ニ依リ成立ヲ認ムルニ足ル甲第四號證其ノ他控訴人援用提出ノ證據ヲ綜合考覈スレハ本件土地ハ元々控訴人等ノ所有ナリシコトヲ推認スルニ足ルノミナラス被控訴人ニ於テ關東廳臨時土地調查部ニ對シ本件土地カ自己ノ所有ナル旨ノ申告ヲ爲シ且恩賜單ナル文書ヲ提出シタル事實ヲ認ムルニ難カラスト雖モ該恩賜單カ控訴人主張ノ如ク偽造ナル事實ハ未タ到底之ヲ確認シ難ク而モ本件査定カ該恩賜單提出アリシコトノミニ據ルモノナリヤ否ヤ換言スレハ被控訴人ノ不法ナル申告等ニ基因スルモノナルヤ輒ク之ヲ認メ難ク假ニ本件査定カ控訴人主張ノ如ク被控訴人ノ不法行爲ニ基因スルモノナリトスルモ成立ニ爭ナキ乙第一證ニ依レハ控訴人等カ本件損害及加害者ヲ覺知シタルハ既ニ大正十一年六月十六日以前ナルコトヲ認ムルニ十分ニシテ控訴人等ノ本訴提起カ大正十五年二月八日ナルコトハ本件訴狀ニ依リ明白ナリ而シテ當時ノ關東州裁判事務取扱ニ依レハ民事ニ關シテハ既ニ民法及民法施行法等ニ依リ可ク僅ニ例外トシテ恰モ本件ニ於ケルカ如ク支那人ノ外ニ關係者ナキ土地ニ關スル權利ニ付キテハ當分ノ內從前ノ慣例ニ依ル旨規定セラレアリシトコロ該特別規定ハ大正十一年勅令第七十八號ヲ以テ削除セラレ同年十月一日ヨリ之カ施行ヲ見ルニ至リタルヲ以テ本件係爭權利關係ニ付キテハ右勅令施行ノ日ヨリ至ク民法及民法施行法ニ依リ其請求權ノ存否ヲ決スヘク而シテ之ヲ民法施行法及民法第七百二十四

條ノ規定ニ照セハ前示特別規定ノ實施期間中ニ於ケル時効進行ノ有無ヲ審究スル迄モナク時効中斷ニ付何等認ムヘキ證據ナキ本件ハ前示勅令實施ノ日ナル大正十一年十月一日ヨリ起算シ控訴人等カ本件訴求以前既ニ三年ノ消滅時効ニ依リ本訴請求權ノ消滅ヲ來タシタルモノト論斷セサルヲ得ス

控訴代理人ハ此點ニ關シ乙第一號證成立當時ニ於テハ支那人ノ外ニ關係者ナキ民事ニ關スル事項ハ從前ノ慣例ニ依ルヘキ時代ニシテ而モ支那ニハ時効ニ關スル慣例ナキヲ以テ時効ノ問題ハ民法施行法ノ規定ニ依リ決スヘク民法施行法ニ依レハ未タ時効ハ完成セサル旨主張スレトモ民法施行法第三十條乃至第三十三條ノ規定ノ解釋上本件ハ前示勅令第百七十八號實施ノ日ヨリ時効ノ起算ヲ爲スヘキコト明白ナルヲ以テ該抗辯ハ採用スルニ由ナク次ニ又控訴人ハ被控訴人主張ノ頃本件損害ヲ覺知シタリトスルモノハ控訴人王仁本ノミニシテ控訴人王殿榮ハ之ヲ知ラサリシモノナル旨主張シ之カ證據ト爲ス右乙第一號證タル控訴人主張ノ本件加害ノ事實ヲ内容トスル土地調査部員宛訴狀ニ據レハ同號證ノ署名人ハ控訴人王仁本一人ノミナルコトヲ認メ得ヘシト雖モ同號證ノ記載内容竝ニ當審證人于長禮、于長春ノ證言ニ依リ明白ナル如ク被控訴人カ土地調査部ニ對シ恩賜單ナル文書ヲ差出シ其當時被控訴人控訴人間ニ紛争アリシ事實其他控訴人兩人カ住所ヲ同シクスルコト當法院ニ顯著ナル等諸般ノ事情ヲ綜合考覈スレハ控訴人王殿榮モ亦同シク當時本件加害ノ事實ヲ覺知シ居リタルモノト認ムルヲ相當トスルヲ以テ控訴代理人ノ右主張モ亦認容スルコト能ハス
然ラハ控訴人等ノ本訴請求ハ他ノ爭點ヲ判斷スル迄モナク失當ニシテ本件控訴ハ其ノ理由ナキヲ以テ民事訴訟法第四百二十四條第七十七條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

判 示 事 項

- 一、 不動産ノ賣買ト老契ノ交付
- 二、 旗民不交產律ノ適用ナキ旗地
- 三、 契尾ノ有無ト賣買ノ效力

判 決 要 旨

- 一、 清國ニ於ケル慣例上土地家屋ノ賣買ニハ必スシモ老契ヲ買主ニ交付スヘキモノニアラス從テ老契ノ交付ナキ一事ヲ以テシテハ賣買アリシコトヲ否定スルニ足ラサルモノトス
- 二、 紅冊地ニアラサル菜園、家屋、敷地、場園ノ如キハ不交產律ヨリ除外セラレ其賣買ノ自由ナリシコト明ナリ
- 三、 清國ニ於テ契尾ノ制度ハ既ニ成立シタル賣買行爲ニ關シ作成シタル證書ニ對シ其成立ヲ認證スル一ノ形式的手續ニ過キスシテ基本タル賣買行爲成立ニ必要ナル條件ニアラサルヲ以テ契尾ノ有無ハ法律行爲ノ效力ニ影響ナシ(旅、高明、四二、(控)四一、典地返還請求事件)

判 決

控 訴 人 王 玉 才

主 文 被控訴人 金 永 貴

原判決ヲ廢棄ス
被控訴人ノ請求ハ之ヲ棄却ス
訴訟費用ハ第一、二審共被控訴人ノ負擔トス

事 實

控訴代理人ハ前掲主文ノ如キ判決ヲ求ムル旨被控訴代理人ハ本件控訴棄却相成度旨各申立ヲ爲シ其事實トシテ供述セル要旨ハ被控訴代理人ニ於テ金州東門外所在ノ菜園一日即チ東至買主地西至道、南至買主地、北至崖ノ土地及同所々在ノ草房一棟五間即チ東至夥山墻西至道南至道北至賣主地ハ元來被控訴人家ノ所有ナリシ處同治四年中被控訴人ノ亡父金曰生ヨリ控訴人ノ亡祖父王福仁ニ對シ典價八百吊ニテ入典シ置キタルモノニシテ金曰生ハ其儘回贖ヲ爲サスシテ死亡シ被控訴人亦踵テ遼陽地方ニ出稼シタル爲メ其儘ニ放置セシカ光緒三十四年二月肩書地ニ歸來シタルヲ以テ控訴人ニ對シ右典價ヲ提供シテ其返還ヲ請求シタルモ之レニ應セサルニ依リ本訴請求ニ及ヒタル次第ナリ而シテ控訴人ハ右係争物件ハ其亡祖父王福仁ニ於テ被控訴人ノ亡父金曰生ヨリ買得シタルモノナリト抗辯スルモ斯カル事實ナク元來被控訴人家ハ漢民即チ民人ニシテ被控訴人家ハ旗人ナルカ故ニ清國ニ於ケル旗民不交產律ナル制度ノ下ニ是等兩族間ニ土地家屋ノ賣買ノ行ハルヘキモノニアラス假リニ右不交產律ニシテ當時嚴正ニ行ハレサリシトスルモ土地家屋ノ賣買ニハ當該官憲ヨリ契

章ト稱スル公證ヲ受クルヲ普通ノ慣例トスルニ拘ラス控訴人方ニ於テ其手續ヲ履踐セサリシヲ以テ觀レハ眞實賣買ノ行ハレタルモノニアラスコト明カナリトイヒ控訴代理人ニ於テハ本件係争ノ土地及家屋ハ同治九年被控訴人ノ亡祖父王福仁ニ於テ被控訴人ノ亡父金曰生ヨリ市錢參千五百貳拾吊ニテ買得シタルモノニシテ爾來被控訴人家ニ歸屬シタルモノナレハ本訴請求ニ應スルコト能ハス而シテ控訴人家ハ民人被控訴人家ハ旗人ナルコトハ争ナキモ清國ニ於ケル旗民不交產律ナル制度ハ嚴正ニ行ハレタルモノニアラス又本訴物件ノ賣買ニ付テハ右制度ハ何等ノ關係ナキモノナリトイフニアリ立證トシテ被控訴代理人ハ甲一號乃至三號證ヲ提出シ證人王喜福、金不寶、潘忠成ノ各證言鑑定人金榮貴ノ鑑定並原審ニ於ケル控訴本人ノ供述ヲ利益ニ援用シ乙一號證ヲ否認シ同證中計開ニ表示セルモノハ係争物件ト合致スルコトヲ認メ控訴代理人ハ乙一號證ヲ提出シ證人王喜福、黃致富、金培保、潘忠成ノ各證言ヲ援用シ旗民不交產律ノ性質及効力ニ關シ鑑定ノ申出ヲ爲シタリ

理 由

本件主要ノ争點ハ係争物件ハ控訴人家ニ於テ被控訴人家ヨリ典得シタルモノナリヤ將タ買得シタルモノナリヤ否ヤニアリトス仍テ之ヲ案スルニ原審證人王喜福ハ本件係争物件ハ控訴人ノ亡祖父王福仁カ同治年間被控訴人ノ父金曰生ヨリ買受ケタルモノナルコトヲ王福仁ヨリ聞及ヒタル旨當審證人王致富ハ金州東門外所在ノ菜園ニケ所ト家屋トハ祖父黃雲鳳ヨリ聞ク所ニ依レハ王福仁カ其所有者タル金曰生ヨリ買受ケタルモノニシテ祖父モ其中見人ノ一人トシテ賣契ニ署名シタリトハコトナリ右賣買ニ關スル話ヲ聞クニ至リタルハ祖父カ同菜園ノ中北方ノ分一箇所ヲ王福仁ヨリ二百吊ニテ典得

シ居リタルコトアリシ關係ニ因ルモノナル旨同金不賣ハ本訴ノ土地ハ元金姓ノ所有ナリシヲ同治年間ニ王福仁カ買受ケタルモノナルコトハ村内ノ噂ニシテ露治時代ニ於テモ其噂ヲ聞キ居リタリ金家ハ邊外ニ赴キ昨年始メテ歸來シ本件ノ爭ヲ生シタル次第ニテ其以前ハ同地ニ付紛争ノ生シタルコトヲ聞カサル旨同潘忠成ハ本訴ノ土地ハ金州東門外ニアル菜園ニシテ目下王玉才ニ於テ耕作シ居レリ該地ハ元金家ノ所有ナリシモ王家ニ於テ買得シタルモノニシテ當時祖父潘延俊モ中見人トシテ賣契ニ署名シタリシコトヲ祖母ヨリ聞キ居リタリ又右賣契ノ事實ハ金家屯ノ故老ヨリモ聞キタルコトアリ而シテ本訴ノ土地ニ付テハ從來嘗テ紛争ノ生シタルコトナキ旨各證言シ右各證人ノ供述ハ王喜福ヲ除ク外何レモ直接賣買ニ干與シ又ハ賣買當時者ヨリ聞取シタルモノニアラスト雖モ多少ノ根據ヲ有シ強チ排斥スヘキモノニアラサルノミナラス乙一號證ハ鑑定人劉心田、金榮貴ノ鑑定ニ依リ旗人人間ニ授受セラレタル賣契トシテ其形式上毫モ間然スル所ナキヲ認メ得ルニ依リ一應真正ニ成立シタルモノト推定スルニ足り又本訴物件ニ關シ控訴人家ニ於テ同治年間ヨリ數十年ノ久シキ何等ノ支障ナク平穩ニ占有使用シ來リタルコトニ付テハ被控訴人ニ於テモ爭ナキ所ニシテ前掲各證人ノ證言ニ依リ之ヲ認メ得ヘク若シ果シテ被控訴人主張ノ如ク人典ノ事實ナリトセハ假令被控訴人家ニ於テ遼陽地方ニ移住シ居リタリトスルモ典得者タル控訴人家ニ對シ其回贖若クハ拔價等何等カノ申出テヲ爲ササルヘカラサル筋合ナルニ其之レナカリシヲ以テ觀レハ被控訴人ハ本訴物件ニ關シ其所有權ヲ行使スルノ意思ナカリシコトヲ推定シ得ヘキヲ以テ是等ノ事情ト前掲各證人ノ證言ト乙一號證トヲ彼此綜合シテ考覈スルトキハ本訴ノ物件ハ控訴人主張ノ如ク同治九年中賣買ニ因リ控訴人家ニ歸屬シタルモノナルコトヲ斷定シ得ヘシ被控訴人ノ提出シタル甲一、二號證ハ假リニ本訴物件ニ關スル賣

契ナリトスルモ清國ニ於ケル慣例上土地家屋ノ賣買ニハ必スシモ老契ヲ買主ニ交付スヘキモノニアラサルコト鑑定人劉心田、金榮貴ノ鑑定ニ依リ明カナルヲ以テ右甲一、二號證老契ノ被控訴人ノ手中ニ現存スルノ一事ヲ以テシテハ未タ前判斷ヲ否定スルニ足ラサルモノトス其他中三號證ハ當審ニ於テ始メテ現ハレタルモノニ係リ其帳簿自體ニ於テ真正ナルモノト認メ難キヲ以テ之レヲ採用セス被控訴人ハ清國ニ於ケル旗民不交產律ヲ援用シ本訴物件(菜園草房)ハ本件當事者タル旗民兩族間ニ賣買セラルヘキモノニアラスト抗爭スレトモ鑑定人劉心田、金榮貴ノ鑑定ニ依リ紅冊地ニアラサル菜園、家屋、敷地、場園ノ如キハ不交產律ヨリ除外セラレ其賣買ノ自由ナリシコト明カナルニ依リ右抗辯ハ理由ナク又乙一號證ニ契尾ナキコトニ付云爲スル所アルモ清國ニ於テ契尾ノ制度ハ既ニ成立シタル賣買行爲ニ關シ作成シタル證書ニ對シ其成立ヲ認證スル一ノ形式的手續ニ過キスシテ基本タル賣買行爲成立ニ必要ナル條件ニアラサルヲ以テ契尾ノ有無ハ法律行爲ノ効力ニ何等ノ影響ナク隨テ此點ニ關スル抗辯モ亦理由ナシト謂ハサルヘカラス

以上説明ノ如ク本訴物件ハ控訴人家ニ於テ買得シタルモノト認ムヘキヲ以テ被控訴人ノ本訴請求ハ失當タルヲ免レサルモノトス仍テ訴訟費用ニ付關東州裁判事務取扱令第一條民事訴訟法第七十八條第七十二條ヲ適用シ主文ノ如ク判決ス

判 示 事 項

一、親族隣保ノ署名ナキ土地賣契

二、轉典ト回贖

一、土地ノ賣契ニハ親族隣保ノ署名ヲ要スルコト清國ニ於ケル慣例ナルニ拘ラス賣契ニ其之ナキ事實ヨリ推考スルトキハ其賣契ハ真正ニ成立シタルモノニアラサルコトヲ斷定シ得ヘシ

二、清國殊ニ當地方ノ慣例上土地ノ所有者カ轉典ニ依ル現占有者ヨリ土地ヲ回贖セントスルニ當リテハ現占有者ニ對シ典價ヲ支拂フコトヲ要ス(旅、高、明、四三、(控)二〇、土地返還請求事件)

判決

控訴人	蘇文楊
被控訴人	劉信芝
外	一名

主文

控訴人ノ被控訴人蔣德喜ニ對スル控訴ハ之ヲ棄却ス原判決中被控訴人劉信芝ニ關スル部分ヲ左ノ如ク變更ス

被控訴人劉信芝ハ控訴人ヨリ市錢二千七百八十吊ヲ受取り旅順管内水師營會水師營西北溝南北壠地一段計地五日東河南溝南至格北至大道ノ土地ノ内三日地東河南溝南至格北至大道ヲ控訴人ニ引渡スヘシ

訴訟費用中被控訴人蔣德喜ニ關スル控訴費用ハ控訴人ノ負擔トシ同劉信芝ニ關スル部分ハ第一、二審共被控訴人劉信芝ノ負擔トス

事實

控訴代理人ハ原判決中被控訴人劉信芝同蔣德喜ニ對スル部分ヲ取消シ更ニ被控訴人劉信芝ハ控訴人ヨリ市錢二千七百八十吊ヲ受取り旅順管内水師營會水師營西北溝南北壠地一段計地五日東河南溝南至格北至大道ノ土地ノ内被控訴人劉信芝ハ三日地東河南溝南至格北至大道ヲ控訴人ニ引渡スヘシ訴訟費用中被控訴人ニ對スル部分ハ第一、二審ヲ通シ被控訴人ノ負擔トストノ判決ヲ求メ被控訴人ハ何レモ本件控訴棄却相成度旨申立テタリ當事者双方事實ニ付供述セル要旨ハ何レモ原判決ノ事實ニ摘示セル所ト同一ナルヲ以テ茲ニ之ヲ引用ス

立證トシテ控訴代理人ハ甲第一號乃至三號證ヲ提出シ原審ニ於ケル相手方劉寬榮並證人劉德俊、王者樑、金純渤、劉恭茂ノ各供述、鑑定人李義田、李榮封ノ鑑定ノ結果ヲ援用シ更ニ人證及鑑定ノ申出ヲナシ丙一號證ヲ否認シタル外丙號各證ノ成立ヲ是認シ被控訴人劉信芝代理人ハ丙一號乃至四號證ヲ提出シ原審ニ於ケル相被告劉寬榮並前掲各證人ノ供述及鑑定ノ結果ヲ援用シ更ニ鑑定ノ申出ヲナシ甲一、二號證ニ對シ不知ヲ以テ答ヘ甲三號證ノ成立ヲ認メ該證ヲ利益ニ援用シタリ

理由

本件ニ於テハ係爭地所カ元妻姓ノ所ニシテ同家ヨリ被控訴人劉信芝家ニ出典中控訴人ニ於テ之ヲ妻姓ヨリ買得シタルモノナルコトハ當事者間ニ爭ナキ事實ナルヲ以テ主要ノ爭點ハ係爭地所ハ被控訴人劉信芝代理人主張ノ如ク光緒二十六年十月十一日被控訴人劉信芝先代劉寬有ニ於テ更ニ控訴人ヨリ買受ケタルモノナリヤ否ヤニアリトス仍テ之ヲ案スルニ丙

一號證賣契ハ控訴人ノ否認スル所ナルヲ以テ之ヲ成立ニ爭ナキ丙第二號丙第四號兩證及原審ニ於ケル控訴本人ノ手記シタル筆跡ニ對照スルニ多少相似ノ點ナキニアラサルモ大體ニ於テハ其筆意ヲ異ニシ全ク同一人ノ手ニ成リタルモノト認ムルコト能ハス原審證人劉恭茂ハ丙第一號證中證人名下ノ花押ハ證人ノ自署シタルモノニシテ當時證人ハ蘇文揚、劉寬有、金純渤等ト共ニ劉寬榮方ニ招カレ賣買ノ事ヲ承知シ居レル旨同金純渤ハ丙一號證ハ如何ナル證書ナルヤ知ラサレトモ光緒二十六年十月中劉寬榮方屋外ニ於テ粉ヲ碾キ居リシ際蘇文揚ト劉寬有、劉寬榮ノ三名カ土地賣買ノ話ヲナシ居リシカ同人等ハ自分ニ對シ證書ニ名前ヲ記載スヘキ旨申シタルニ依リ自分モ之ヲ承諾シタルモノナル旨各證言スルヲ以テ觀レハ或ハ控訴人ト被控訴人劉信芝間ニ光緒二十六年十月中係争地所ノ賣買アリテ丙一號證モ同時ニ成立シタルモノノ如キ感ナキニアラサルモ該證人ノ供述ハ前後撞着到底措信スルニ由ナキヲ以テ是ニ依リ前記賣買ノ事實ヲ肯定セシムルニ足ラサルノミナラス當審證人裴世來、韓寬環ノ係争地ヲ蘇文揚ヨリ劉家ニ賣渡シタルコトヲ聞カストノ證言ト土地ノ賣買ニハ親族隣保ノ署名ヲ要スルコト清國ニ於ケル慣例ナルニ拘ハラス丙一號證賣契ニ其之ナキ事實トニヨリ推考スルトキハ反テ前示認定ノ如ク丙一號証ハ眞正ニ成立シタルモノニアラサルコトヲ斷定シ得ヘシ既ニ丙一號證ハ其成立ニ於テ眞正ナラストシ他ニ右賣買ノ事實ニ關シ證據ノ見ルヘキモノナキ以上ハ係争地ノ所有權者ハ控訴人ニシテ被控訴人劉信芝ノ係争地ヲ買得シタリトノ抗辯並被控訴人蔣德喜ノ劉信芝ヨリ典得シタル二日地ハ同人ノ所有ナリトノ抗辯ハ何レモ理由ナキモノト謂ハサルヘカラス前示認定ニ反スル各鑑定人ノ鑑定ハ之ヲ採用セス仍テ進ンテ本訴回贈請求ノ當否ニ付案スルニ被控訴人劉信芝代理人ハ控訴人主張ノ典價ヲ認メスト雖モ證人裴世來寬環ノ證言ニ依リ典價ハ控訴人主張ノ

金額ナルコトヲ認メ得ヘキニ依リ被控訴人劉信芝ハ控訴人ヨリ右典價ヲ提供スルニ於テハ典地全部返還スルノ義務アルコト明カニシテ控訴人カ本訴ニ於テ右典價以上ノ金額ヲ支拂ヒ典地三日地ニ付返還請求ヲナスハ相當ナリトス次ニ控訴人ノ被控訴人蔣德喜ニ對スル請求ニ付テハ該請求地所カ控訴人ノ所有ナルコトハ既ニ前説明ノ如ク明カナルモ清國殊ニ當地方ノ慣例上土地ノ所有者カ轉典ニ依ル現占有者ヨリ土地ヲ回贈セントスルニ當リテハ現占有者ニ對シ典價ヲ支拂フコトヲ要スルモノナルニ本件ニ於テハ控訴人ハ被控訴人蔣德喜ヨリ係争地ヲ無償ニテ回收セントスルモノナルヲ以テ該請求ハ右慣例ニ反シ認容スルコト得サルモノトス

以上説明ノ如キナルヲ以テ關東州裁判事務取扱令第一條民事訴訟法第七十七條ヲ適用シ主文ノ如ク判決ス

判 示 事 項

家長ト家産ノ所有權

判 決 要 旨

清國殊ニ當地方ノ如ク家族制度ノ特質ヲ存シ家長ノ權利比較的廣大ナル地方ニ在リテハ一家ノ財産ハ其主宰者タル家長ノ所有ニ屬スヘキモノト推定スルノ外ナキヲ以テ其家ニ存スル財産ハ反證ナキ限りハ總テ家長ノ所有ナリト認定セサルヘカラサルモノトス(旅、高、明、四三(控)四、強制執行異議事件)

判 決

控訴人 冷元吉
被控訴人 關玉隣

主 文

本件控訴ハ之ヲ棄却ス
控訴費用ハ控訴人ノ負擔トス

事 實

控訴代理人ハ原判決ヲ變更シ更ニ被控訴人ハ控訴人ニ對シ債權者被控訴人債務者冷長發間ノ明治四十二年民第四七號貸金請求事件ニ關スル執行力アル正本ニ基キ明治四十二年六月八日控訴人ノ住所ニ於テ爲シタル牛四頭豚五頭雞一頭鷄六羽大櫃子五個ノ差押ヲ解除スヘシ訴訟費用ハ第一、二審共被控訴人ノ負擔トストノ判決ヲ求ムル旨被控訴代理人ハ本件控訴棄却相成度各一定ノ申立ヲナシタリ

當事者双方事實上供述ノ要旨ハ控訴代理人ニ於テ訴外冷長發ハ控訴人家ノ戸主即チ主宰者タリシ事實ナシ控訴人ハ齡五十餘歳ニシテ未タ隱居スル如キ老年ニアラス元來差押債權ハ控訴人カ邊外ニ行キ居リタル留守中冷長發カ賭博ニ負ケ生シタルモノナル旨附加シ被控訴代理人ニ於テ第一、本件債權額ハ元來支那銀二百六十六圓六十錢及之ニ對スル利息五十六圓五十五錢ニシテ光緒三十二年三月冷長發ニ對シ貸付ケタルモノナルトコロ同人ハ一家ノ主宰者(家長)ナレトモ土地買入等ノ爲メ諸所ニ多額ノ負債ヲ生シタル爲同三十四年十一月頃家出ヲナシ一時其蹤跡ヲ晦シ居ル次第ナレハ差押財產

ハ依然同人ノ所有ニシテ控訴人ハ其不在中唯之レカ管理者タルニ過キス第二、假リニ控訴人カ同家ノ主宰者(家長)ニシテ冷長發ハ其家族ナリトスルモ清國ノ慣例ニ依レハ一家ノ全財產ハ其家族タルモノカ其家ノ爲メニ負擔シタル債務ニ付テハ債權者ノ共同擔保タルヘキモノナレハ冷長發ノ負擔シタル右債務ニ付履行ヲ求ムル爲本件ノ差押ヲ爲シタルハ正當ナリトイフノ外何レモ原判決ノ事實ノ摘示ト同一ナルヲ以テ茲ニ之ヲ引用ス

立證トシテ控訴代理人ハ原審證人李恒云、于家祥ノ各證言及鑑定人劉心田ノ鑑定ノ結果ヲ援用シ更ニ證人戚長榮、薛升ノ喚問ヲ求メ乙一號證ハ知ラスト答ヘ尙之ヲ利益ニ援用シ被控訴代理人ハ乙一號證ヲ提出シ原審證人孫人維、王緒有、趙元和ノ各證言、鑑定人劉心田ノ鑑定ノ結果ヲ援用シ更ニ證人吳克寬、趙永恩ノ喚問ヲ求メ證人戚長榮、薛升ノ證言ヲ利益ニ援用シタリ

理 由

案スルニ原審證人孫人維ハ冷長發カ冷春發ナルモノヨリ土地ヲ買受クル際賣契ニ立字人トナリタルコトアリ當時冷長發ハ同人家ノ戸主トイフ地位ニアリテ家事萬端ヲ處理シ居リシカ買受代金ニ不足ヲ生シタリトノ事ニテ金策ノ話アリタリ其後證人ハ同人カ關玉隣ヨリ金ヲ借リタル證文ヲ認メ遺リシカ其時冷元吉ハ邊外ニ行キ不在ナリシ關玉隣カ差押ヘタル品物ハ現今ハ知ラサルモ最初ハ冷長發ノモノナリシト信スル旨同趙元和ハ光緒三十年以後冷長發ハ一家ノ主宰者ナリシカ光緒三十四年十一月頃負債ノタメ家出ヲナシ目下不在ナリ同人ハ光緒三十年頃冷春發ヨリ土地十四天地外房子ヲ買受ケタリ尙同人カ關玉隣ヨリ金ヲ借受ケタルコトハ知り居ル旨同王緒有ハ右趙元和ト同趣旨ノ證言ヲナス外冷元吉方ニテ

ハ冷長發ノ管理シ居リタル財産ヲ父元吉カ其家ニ住シテ管理シ居ルトイフニ過キス即長發カ逃亡シタル故已ムヲ得ス元吉カ家長トナリ居ル姿ナル旨當審證人趙永恩ハ冷長發カ土地家屋ヲ買受クル爲必要ナリトノコトニ關玉隣ヨリ金ヲ借入ル、際證人モ關係シタリ金錢ノ授受ハ實際光緒三十年ナリシモ證書(乙第一號證)ハ三十二年ニ作リタリ同人ハ家長ナリシモ二年前ニ家出シテ今ハ自宅ニ居ラス其原因ハ借金ノ爲メナリトノ事ヲ聞及ヘリ同人ハ當年四十二年ニシテ其娘ハ昨年他ニ嫁セル旨同吳克寬ハ冷長發カ關玉隣ヨリ借受ケタル金子ヲ返濟セサル爲メ關ヨリ依頼ヲ受ケ大連ニテ冷長發ニ催促ヲナシタルコトアリ當時同人ハ此所ニハ所持金ナキ故父冷元吉ニ話シ吳ル、様言ヒタルヲ以テ元吉ニ其旨話シタルニ同人ハ兎モ角長發ヨリ取立テ吳レト言ヒタリ右元吉カ父ニ話シ吳レト言ヒタルハ同人ノ得タル金ハ總テ父ニ送り居ルヲ以テ夫レニテ拂ヒ吳ルレハ可ナリトノ意思ナラント思フ控訴人家ノ家事ニ付テハ總ヘテ長發カ其衝ニ當リ居リタル旨各證言スルヲ以テ是レニヨリ控訴人ノ長男タル冷長發ハ光緒三十年頃ヨリ同三十四年ニ至ル迄控訴人家ノ主宰者(家長)トシテ一家ヲ統轄シ不動產賣買又ハ他ヨリ借財ヲナス如キ重要ナル法律行爲ニ關シテモ獨斷ニテ之ヲ決行シ得タル事實ヲ認ムルコトヲ得ヘシ凡ソ清國殊ニ當地方ノ如ク家族制度ノ特質ヲ存シ家長ノ權利比較的廣大ナル地方ニアリテハ一家ノ財產ハ其主宰者タル家長ノ所有ニ屬スヘキモノト推定スルノ外ナキヲ以テ前示ノ如ク冷長發カ控訴人家ノ家長ナリト認メタル以上ハ反證ナキ限りハ控訴人家ニ存スル財產ハ亦總テ冷長發ノ所有ナリト認定セサルヘカラサルモノトス光緒三十四年冷長發ノ家出後ハ控訴人ニ於テ家事ヲ處理シ居リ一見家長ノ如キ觀ナキニアラサルモ右家出ノ原因ハ負債ノタメ各債權者ノ督促ヲ避クルニ在リテ而カモ控訴人ハ冷長發ノ所在ヲ詳知シ互ニ交通シ居リタル事實ハ前掲各證人ノ

證言ヲ參酌シ認ムルニ足ルヲ以テ控訴人ハ冷長發ノ不在中同人ニ代リ一時家事ヲ處理スルニ過キスシテ家長ノ地位ハ依然冷長發ニ存スルモノト斷定セサルヘカラス控訴代理人ノ援用スル各證據ハ右認定ヲ覆スニ足ラス果シテ然ラハ被控訴人カ冷長發ニ對スル貸金ニ關シタル本件差押ハ冷長發ノ所有財產ニ付行ハレ何等失當ノ處置ニアラサルヲ以テ之ニ對スル本訴ノ異議ハ理由ナキモノトス仍テ被控訴代理人ノ其他ノ抗辯ニ付審究セス關東州裁判事務取扱令第一條民事訴訟法第七十七條ヲ適用シ本文ノ如ク判決ス

判 示 事 項

- 一、日支人間ノ訴訟ト裁判管轄
- 二、支那裁判所ニ於ケル確定判決ノ効力
- 三、奉天高等審判廳判決寫

判 決 要 旨

- 一、日清通商條約第二十一條第一項及第二項ノ趣旨ヨリ見ルトキハ裁判管轄ニ關シテハ被告主義ヲ採リタルモノニシテ其被告ノ屬スル國ノ管轄ニ專屬スヘキモノト認ムルヲ相當トス。
- 二、支那裁判所ニ於テ既ニ確定判決アリタル以上ハ支那國法ノ許ス方法ニ基キ再審其他ノ途ヲ講スルハ格別一日支那裁

判所ニ於テ債權ノ存在ヲ認メ其給付ヲ命スル確定判決アリタル同一事物ニ關シ更ニ再ヒ帝國領事館裁判ニ於テ其債權ノ有無ヲ爭フカ如キハ日清通商航海條約ノ精神ニ照シ許スヘカラサルモノト認ム
三、奉天高等審判廳判決寫(遼、領、昭、三、(民)一三、債權不存在確認請求事件)

判決

原告 孫源江
被告 株式會社南滿銀行
外一名

主文

原告ノ訴ハ之ヲ却下ス
訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

事實

原告訴訟代理人ハ一定ノ申立トシテ振出人孫源河裏書人孫源江宛名人株式會社南滿銀行振出地支拂地共大連市大正十二年四月一日振出滿期日同年九月三十日金額小洋八百元ノ約束手形債權ハ時効ニ依リ消滅セルコトヲ確認ス訴訟費用ハ被告ノ負擔トストノ判決ヲ求メ請求ノ原因タル事實關係トシテ陳述シタル要領ハ原告孫源河ハ大正十二年四月一日振出地支拂地共大連市滿期日同年九月三十日金額小洋八百元ノ約束手形一通ヲ被告宛振出シ原告孫源江ハ該手形ニ裏書ヲ爲シ

タリ然ルニ被告ハ原告兩名ヲ相手取民國十六年八月十六日(昭和二年)該手形金ノ請求訴訟ヲ奉天瀋陽地方審判廳ニ提起シ第一審ハ原告南滿銀行敗訴シ第二第三審ハ同銀行ノ勝訴ト爲リタリ其結果在奉天日本總領事館ハ支那交涉署ノ照會ニ基キ原告孫源江カ奉天附屬地ニ於テ所有セル動産ニ對シ之カ差押執行ヲ爲シタリ然レトモ元來本件手形債權ハ商法ノ消滅時効ニ依リ振出人並ニ裏書人ニ對シ消滅シタルモノニシテ而モ該時効ハ原告等ニ於テ支那審判廳法廷ニ於テ援用シタルモノナリ然ルニ支那審判廳ハ第二審ニ於テ南滿銀行カ提出シタル原告孫源河ニ對スル內容證明郵便ニ依ル催告書ヲ援用シ時効中斷アリタルモノト認定セリ然レトモ右內容證明ニ基ク催告ハ手形振出人タル孫源河ニ對シ發送セラレタルモノナルヲ以テ裏書人タル孫源江ニ對シテハ何等ノ效力ナシ尙又振出人孫源河ニ於テモ右內容證明郵便ニ依ル催告書ヲ受領シタル事實ナシ假ニ受領シタリトスルモ南滿銀行ハ右催告後六ヶ月内ニ民法第五百十三條ノ手續ヲ爲サ、リシヲ以テ時効中斷ノ效力ナシト述ヘ且本件ノ準據法ハ行爲地法タル日本法律ニ據ルヘク原告ハ本件手形債權ノ不存在ヲ確認スル上ニ於テ法律上ノ利益ヲ有スルニ付本訴ニ及ヒタリト云フニ在リ

被告復代理人ハ原告ノ訴却下ヲ求メ抗辯ノ事由トシテ支那審判廳ニ於テ裁判アリタル事件ニ對スル不服ハ支那裁判所ニ於テ爲スヘク日本裁判所ニ提起スヘキ筋合ニ非ス故ニ被告ハ無訴權ノ抗辯ヲ提起シ本案ノ辯論ヲ拒ム旨陳述シタリ當館ハ本件辯論ヲ被告ノ妨訴抗辯ノ點ニ制限シタリ

理由

本訴ハ曩キニ本訴被告タル日本法人(南滿銀行)ヨリ原告タル支那人ニ對シ支那側裁判所ヘ民事訴訟ヲ提起シ第一審ニ

於テ南滿銀行敗訴シ上訴ノ結果第二、三審共南滿銀行ノ勝訴ニ歸シ判決確定シタルニ依リ南滿銀行ハ右確定判決ニ基キ支那側裁判所ニ強制執行ノ申請ヲ爲シタル處該支那人カ我鐵道附屬地居住者タル關係上支那裁判所トシテハ直接執行々爲ヲナスコト能ハサル爲之ヲ支那側交涉署ニ移牒シ該交涉署ハ在奉、帝國總領事ニ右附屬地居住支那人財產ノ差押賣却方ヲ囑託セリ依テ總領事ハ從來ノ習慣ニ基キ外務省巡查ヲシテ該支那人ノ財產ニ對シ差押ヲ爲サシメタルニ右支那人ハ曩キニ支那裁判所ニ於テ確立判決アリタル前示同一債務ニ對シ前示同一日本法人ヲ被告トシテ更ニ當館ニ債權不存在確認ノ訴訟ヲ提起シタルモノナル事實ハ當事者間ニ爭ナシ仍テ先本訴ノ適否ニ付職權ヲ以テ案スルニ日清通商航海條約第二十一條第一項ニ依レハ清國官吏又ハ臣民カ清國ニ在ル日本國臣民ニ對シ又ハ其財產ニ關シ民事訴訟ヲ起ストキハ日本國官吏ニ於テ之ヲ審理判決スト規定セラレ同第二項ハ清國臣民ニ對シ又ハ其財產ニ關シ民事訴訟ヲ起ストキハ日本起ス民事訴訟ハ總テ清國官吏ニ於テ之ヲ審理判決スヘキコトヲ規定セリ右條約ノ趣旨ヨリ見ルトキハ裁判管轄ニ關シテハ被告主義ヲ採リタルモノニシテ其被告ノ屬スル國ノ管轄ニ專屬スヘキモノト認ムルヲ相當トス然ラハ其日支就レノ裁判所ニセヨ一日訴訟カ適法ニ繫屬シ且審理判決アリタル以上ハ之ニ對スル不服ハ右裁判國ノ法令ニ於テ許サレタル方法ニ據ルノ外ナキモノト解スルヲ妥當トス之ヲ本件ニ見ルニ支那裁判所ニ於テ既ニ確定判決アリタル以上ハ支那國法ノ許ス方法ニ基キ再審其他ノ途ヲ講スルハ格別一旦支那裁判所ニ於テ債權ノ存在ヲ認メ其給付ヲ命スル確定判決アリタル同一事物ニ關シ更ニ再ヒ帝國領事裁判ニ於テ其債權ノ有無ヲ爭フカ如キハ日清通商航海條約ノ精神ニ照シ許スヘカラサルモノト認ム然ラハ原告ノ訴ハ既ニ此ノ點ニ於テ不適法トシテ却下スヘキモノナルヲ以テ被告復代理人ノ妨訴抗辯ニ對ス

ル説明ヲ省略シ訴訟費用ニ關シ民事訴訟法第七十二條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

甲第四號證

奉天高等審判廳民事第三審判決十七年上字第一四七

判決

上訴人 孫 源 河
被上訴人 南 滿 銀 行

右兩造因請求償還債款涉訟一案上訴人不服瀋陽地方審判廳於中華民國十六年十二月二十九日所爲第二審判決提起上訴本廳判決如左

主 文

原判決關於按月一分行息之部分廢棄

上訴人所欠小銀元八百元之遲延利息應自民國十二年十月一日起至執行終了之日止按年利六厘計算

上訴人其餘之上訴駁斥

第三審訴訟費用上訴人負擔五分之四被上訴人負擔五分之一

理 由

本件上訴人曾於民國十二年四月一日借用被上訴人小銀圓八百圓立有約束手形約明支拂日爲期同年九月三十日屆期未經上

訴人償還此為不爭之事實所應審究者即該項貨款有無因時効而消滅及被上訴人曾否允許處分抵押品是已核閱訴訟卷宗關於時効問題雖自民國十二年十月一日起算至民國十五年九月三十日止已滿三年行使權利之時効然既經被上訴人提出大正十四年十一月五日之償還請求書蓋有郵戳為證據以主張中斷時効而上訴人並無相當之反證提出徒以空言爭執固難謂合即就處分抵押品而論縱謂以股票作押屬實然據上訴人在原審供稱「他來信勸我才要處分以後來信不來信也不管他了」云云是當時被上訴人尚未認諸處分股票故來函相勸如果上訴人必欲其處分股票亦應覆函磋商得相當之結果乃竟不待被上訴人之明白認諾即對於該股票之曾否處分其原立之手形應如何抽回一概置置不問亦屬咎有應得猶復以曾經函請處分股票之空言為抗辯論據原審詳予闡明斥為不當因將原制廢棄改判上訴人償還被上訴人小銀元八百元並無不合惟查票據法案第十八條第一項規定發票人得就匯票金額記載支付利息之旨未記載利率者按年利六厘計算等語該被上訴人起訴之初即主張按月三分計息固屬不當而原審未查照票據法案之規定判給相當之利率亦有未合上訴論旨關於遲延利息部分之主張難謂無理

據上論結本件上訴一部有理由一部無理由依民事訴訟條例第五百四十六條第一項第一款第五百四十九條第五百七十七條及第九十八條特為判決如主文

甲第三號證

奉天瀋陽地方審判廳民事判決上字第二六七號

判決

上訴人 南滿銀行

被上訴人 孫源河

右兩造因請求償還債務涉訟一案上訴人不服本廳簡易庭於中華民國十六年九月三十日所為第一審判決提起上訴本廳判決左如

主文

原判決廢棄

被上訴人孫源河應償還上訴人小銀元八百元並自民國十二年十月一日起至執行終了之日止按月一分行息如孫源河不能償還時應由孫源河負代償之責

上訴人其餘之上訴及其在原審之訴均駁斥

訴訟費用第二審由上訴人負擔第一審被上訴人孫源河等負擔

事實

上訴人聲明請予廢棄原判決令被上訴人孫源河償還上訴人小銀元八百元並自民國十二年十月一日起至執行終了之日止按月三分行息之利息如孫源河無力償還時應由孫源河負代償責任並令上訴人負擔兩審訴訟費用其事實上之陳述除依例引用第一審判決外其上訴意旨略稱被上訴人欠上訴人手形上之債務在大正十年（即民國十二年）九月三十日即已到期迭經被上訴人訂要均置之不理至民國十四年并由鞍山本行用掛號信向被上訴人孫源河函索一次其存稿上有鞍山郵局之戳記可窺是上訴人對予手形上之權利并未有絲毫懈怠詎原審不加調查竟認上訴人從民國十二年九月三十日起迄今已滿三年未行使手形上之權

利認為因時效而消滅將上訴人之請求駁斥實難甘服等語至上訴人所稱借款時係用本行股票抵押並到期後曾函請本行處分股票均未有其仍以約束手形一紙及發信存稿為證明方法

被上訴人孫源江傳未到案孫源河聲明請予駁斥上訴其事實之陳述除依例引用第一審判決外其餘辯意旨略稱被上訴人欠上訴人銀行借款出有約束手形固係事實推到期之後曾由孫源江函請該行處分一百元股票之抵押品以為抵償自不應再負何種責任且按照日本商法此項手形上之權別已逾三年未經行使應認為因時效應行中斷然被上訴人並未收到此項信件況該上訴人對於被上訴人之兄孫源江函請處分股票尚有覆函勸告從緩處分徵足被上訴人之借款實有抵押品借此項函件一時未能尋獲應請調查該行發信簿及收信簿即可證明蓋銀行無抵押品萬難借款等語

理由

本件被上訴人於民國十二年四月間借用上訴人之款曾經出有約束手形已為不爭之事實所應審究者即第一該上訴人於九月三十日到期之後在此三年之內曾否行使手形上權利第二該被上訴人曾否函請上訴人處分抵押品是也關於第一點在該上訴人謂於民國十四年曾向被上訴人函索一次尚有存留之信稿其函稿上並有郵局之截記可憑經本廳查閱無誤是其所主張者已有相當之證明自不容被上訴人空言否認關於第二點該被上訴人雖稱借款時確以股票為抵押並於到期後即函請處分姑無論並無何種證據不能信其主張為真實即果有抵押事然該被上訴人於到期之後亦應將其變賣之價額能否抵還債額詳加請算並收所出之手形抽回作廢俾免發生其他糾葛何故僅以一函令上訴人處分股票其後是否處分有無羸細即置之不問按之情理亦不能信其主張之事實為真正至該上訴人謂銀行無抵押品萬難借款雖屬實情然查該被上訴人係該銀行股東則其借款容有特別通融之處亦

未可知安得以此即推定該被上訴人之借款確以股票為抵押抗辯意旨純係徒託空言殊難採取即其請求調閱銀行之發信簿及收信簿亦不外希圖施延訴訟蓋可預言原審以上訴人未能證明於三年內行使手形上之權利將其請求駁斥現據提出函稿新證據足以證明在此期間內業已行使自應認為時效中斷將原判予以廢棄惟查上訴人有此種新證據並未於第一審提出延至上訴審始行提出是其遲延訴訟實屬咎於自取故本廳酌令負擔第二審訴訟費用以昭平允再查社會上普通利息月利不過一分乃該上訴人違向被上訴人請求三分之一之遲延利息亦有未合應予駁斥

據上論結本件上訴除利息部分請求過當應認為無理由外其餘部分均為有理由依民事訴訟條例第五百十七條第五百十八條第九十七條第一百零九條第二項特為判決如主文
不服本判決得於送達後二十日內上訴於奉天高等審判廳

本件證明與原本無異
甲第二號證

瀋陽地方審判廳民事判決簡字第三七六號

判決

原告 南滿銀行
右訴訟代理人 岡部 直未到

池田親爾年四十歲日本人住日本站業商

訴訟輔佐人野口藤三郎 四十六歲 日本人住日本站日
本辯護士
被告人 孫源河年三十六歲金州人住日本站現無事

孫 源 江未到

右兩造因請求償還債款涉訟案本廳判決如左

主 文

原告之訴駁斥

訴訟費用由原告負擔

事 實

據原告代理人池田親爾訴稱被告孫源河於民國十二年四月一日由孫源江擔保承借南滿銀行小銀洋八百元約定九月三十一日為清償期期內無息有被告人發行約束手形可照現在原告向被告催討詎被告一味支吾延不給付祇得訴請判令被告孫源河償還銀小洋八百元並自民國十二年十月一日起算至執行終了之日止給付按月三分之一之遲延利息如被告孫源河無力償還應令被告孫源江負債代償等語並提出約束手形為證被告孫源江傳未到案據孫源河辯稱民向南滿銀行借取小銀洋八百元發行約束手形係以南滿銀行股票一百張價值一千二百五十元金票為抵押品到期後曾將股票紅利抵償八百元之息金嗣後孫源江並有信致南滿銀行會其將股票處分抵償債款原本且查日本商法第四百四十三條約束手形到期後三年間不行使即應失其効力民所發行約束手形係民國十二年九月三十日期滿迄今已逾三年之久當然因時効而消滅請求將原告之訴駁斥等語

理 由

按票據法第十三條第一項對發票人之票據上權利自到期日起算三年間不行使者因時効而消滅本件原告代理人提出約束手形係以民國十二年九月三十日為清償期自到期之日起算迄今已逾三年之久雖據原告代理人辯稱往年曾向被告追索此款然純係空言主張並不能提出何種證據證明於到期後之三年內曾有向被告追索之事實是原告人於到期後三年內並未行使票據上之權利依照上開法條此項約束手形自應失其効力被告主張因時効而消滅不啻謂非正當

據上論結本件原告之訴為無理由應予駁斥訴訟費用依民事訴訟條例第九十七條由原告人負擔特為判決如主文

中華民國十六年九月三十日

當事人如不服本判決得於送達判詞後二十日內向本廳聲明上訴併記

鑑 定 事 項

- 一、出典後ノ房ノ崩壞ト出典敷地ノミノ返還請求
- 二、典得家屋ノ崩壞ト新築家屋ニ對スル出典者ノ權利
- 三、轉典得後ノ房ノ崩壞ニ因ル家屋ノ築造ト土地受戻ノ請求

鑑 定 要 旨

- 一、出典シタル房カ崩壊シ敷地ノミノ返還請求ニハ典價ノ支拂ヲ要セス(一)
- 二、典得者カ典得後家屋ノ崩壊ニ因リ新築セル家屋前ト同等ナル場合ハ出典者ハ其儘受戻スコトヲ得ルモ若シク優レタルモノナル場合ニハ差額ヲ支拂ヒテ受戻スコトヲ得(二)
- 三、轉典得後房ノ崩壊ニ因ル轉典得者ノ築造家屋ハ轉典得者カ情ヲ知レルトキハ原業主ニ對シ房ヲ取除キ房地ノ返還ヲ爲サ、ルヘカラサルモ、情ヲ知ラサルトキハ房ニ對スル相當代價ノ支拂ナケレハ受戻要求ニ應セサルヲ得(三)
(旅、高、明、四五、(控)二六)

鑑定人劉心田訊問調書

- 一、出典シタル房カ崩壊シ敷地ノミノ返還ヲ求ムルトキハ出典者ハ典價ヲ支拂フヲ要セストノ慣例ナリ
- 二、典得者カ典得後家屋崩壊シタル爲メ更ニ建築セシ場合其家屋カ以前ノモノト同様ナレハ出典者ハ其儘受戻シ得ルモ若シ以前ノモノヨリ非常ニ立派ナルニ於テハ評價ヲ爲シ多額ヲ支拂ヘハ受戻シ得ルモノニシテ典得者ハ其家屋ノ引渡ヲ爲サ、ルヲ得サルナリ
- 三、房ヲ典得者ヨリ轉典シタル後房カ崩壊シ轉典得者カ家屋ヲ建築セシ場合轉典得者カ情ヲ知ツテ爲セルトキハ直ニ原業主ヨリノ房地受戻要求ニ應諾シ房ヲ取除キ返還セサルヘカラサルモ若シ轉典得者カ情ヲ知ラスシテ爲セシトキハ房ニ對スル相當代價ノ支拂ナケレハ原業主ヨリノ受戻要求ニ應スヘキモノニアラス

鑑定事項

- 一、押當ノ意義
- 二、押當ニハ期限ヲ附スヘキヤ
- 三、押當ノ期限ノ效力
- 四、押當ニハ押契ヲ作成スヘキモノナリヤ
- 五、老契ノ所持ト不動産買得ノ推定

證言要旨

- 一、押當トハ抵當ノ義ナリ、目的物ノ引渡ヲ爲ササル點ニ於テノミ典ト異ル(一)
- 二、押當ニ期限ヲ定ムルト否トハ當事者ノ隨意ナリ(二)
- 三、(一) 期限内ニ返金ヲ爲スコト能ハサルトキハ擔保物ヲ引渡ササルヘカラス(三)
- (二) 證書ニ期限ノ記載ナキ場合ニモ大抵口約ニテ期限ヲ定メアルヲ以テ返濟不能ノ場合ハ漸次延期ヲ爲スナルヘシ(三)

- 四、押當ニハ押契ノ作成ヲ通例トス(四)
- 五、押契又ハ賣契ヲ所持セス老契ノミヲ所持シテ他人ノ土地又ハ家屋ヲ占有スル者ハ賣買ニ依リテ取得シタルモノト認ム(五)(金、出、明、四一(民)四、房家引渡請求事件)

鑑定人劉心田訊問調書

- 一、抵當ノ事ニシテ其目的物ニ對スル權利證ヲ債權者ニ引渡スヘキモ目的物ノ引渡ヲナサス故ニ典ト押當ト異ナル點ハ其目的物ヲ引渡スト否トニアルノミナリ
- 二、年限ヲ定ムルト否トハ當事者ノ隨意ナリ然シ概シテ古昔ハ年限ヲ定メサリシモ近年ハ年限ヲ定ムルモノ多キカ如シ
- 三、問 年限ヲ定メタル場合ニ於テ其期限内ニ返金ヲナス事能ハサルトキハ其擔保物ヲ引渡サ、ル可カラサルヤ
- 答 然リ

問 然ラハ年限ノ定メナキ場合ハ如何

- 答 證書ニ年限ノ記載ナキモ大抵口約ニテ期限ヲ定メアルモノナレハ實際返済ヲナス事不能ノトキハ漸次延期ヲナスナランモ此場合ニ於テ或ハ一方擔保物ノ價格カ低減スルニ反シ利子ノ増加ヲ來スヘキヲ以テ双方協議ノ上擔保物ノ引渡ヲナス事アリ若シ協議調ハスシテ訴訟ニナルトキハ官ニ於テ其實況ヲ視察シテ裁判ヲ爲スナリ
- 四、押當ニハ押契ヲ作成スヘキハ通例ナルモ親族間ニハ時トシテ押契ヲ差入レスシテ口頭ニテ土地又ハ家屋ヲ擔保トナスヘキ事ヲ契約スル事アリ

五、右ノ場合ニ於テハ賣買ニ依リテ取得シタルモノト認ムヘシ

鑑定事項

- 一、賣契中ニ一部ヲ典トスル記載ノ意義
- 二、賣契 契 寫

鑑定要旨

- 一、賣契中ニ其幾部分ヲ典トスル記載ヲ爲シタル文書ハ其例少シ但思フニ賣渡人ハ旗人ニシテ買受人ハ民人ナルヘク旗民不交產律ヲ潜ランカ爲メ及納稅ノ關係上典ノ如ク記載セシモノニアラサルカ
- 二、賣契乙第一號證寫(旅、高、明、四四(控)六七、典地返還請求事件)

鑑定人劉心田訊問調書

- 一、乙一號證ノ如ク賣契中ニ其部分ヲ典トスル記載ヲ爲シタル文書ハ其例少ナク若シ幾部分ヲ賣渡シ幾部分ヲ出典スル場合ハ賣契ト典契ト二通ノ文書ニ認ムルヲ相當トス然シ思フニ此乙一號證ノ賣渡人ハ旗人ニシテ買受人カ民人ニハアラサルカト思料ス清國ノ律令トシテ旗人ノ所有地ハ民人ニ賣渡スコトヲ禁シアリ只房國ハ之ヲ賣却スルモ差支ヘナキコト、爲リ居レリ故ニ實際賣渡シタルモノナルモ賣渡シノ事ニセハ律令ニ觸ルルノミナラス其地ニ對スル約稅ノ關係

乙一號證

モアリ旁々典ニシタル如ク記載シタルモノニハアラサルカト思料ス

立杜絕賣契人

劉 鈞 鈺 鍾 鋒

同姓清文等因度日維艱

將伙宗分到祖遺冊地一段四日同衆議明情願以二日作典以二日作房園賣於劉成己名下永遠爲業定賣銀壹佰兩其錢筆下交清並無短欠按四至以內任憑買主修理自便更名過冊不與賣主相干並無私債準折等弊恐後無憑立杜絕賣契存證

計開

坐落真武廟東壹段四日內有二日典契其餘二日作房園

東 格 南 道
西 至 界 石 北 至 本 姓 地

劉 通 廣
劉 長
劉 中 人

中說人

劉 清 一
劉 清 雲
周 玉 林
喬 仲 萬

立字人

劉 萬 銘

杜絕賣契

劉 鈞 鈺 鍾 鋒
同姓清文

光緒九年十一月二十日立

鑑定事項

- 一、典地ノ所有者ハ立典契人トシテ氏名ヲ記載セラレタル者ノ外ニ存セサルヤ
- 二、「有旗風爲證契文一張」ノ意義
- 三、旗民不交產律ノ禁ハ賣買ノミニ關スルヤ
- 四、出典後二十年ヲ經過シタルモノノ回贖ヲ許ササル法規アリヤ
- 五、典得者ノ土地改良ト改良費ノ償還請求權
- 六、「待原主歸籍之時」ノ意義

七、文契ト契文ノ差異

八、流失シタル典得地ノ復舊ト費用償還請求權

九、典名義ノ賣買ト拔價

十、同一土地ニ付キ典ト兌トカ同時ニ成立スルヲ得ルヤ

十一、兌ト回贖

十二、典契寫

十二、兌契寫

鑑定要旨

- 一、賣契文ハ典契ニハ業主ノ氏名ヲ悉ク記載スヘキ慣例ナルモ業主中不在者アルトキハ其者ノ氏名ヲ記載セサルコトアリ(一ノ二、一ノ三、二ノ三、二ノ四及三ノ三)
- 二、『有旗風爲證契文一張』トハ騎縫爲證トノ割印アル契文一張アリトノ義ナリ(一ノ四、二ノ五、二ノ八、三ノ四及四ノ二)

三、(一) 旗民不交産律ノ禁ハ土地賣買ニノミ適用セラレ居タリ(一ノ七)

(二) 旗民不交産律ハ賣買ヲ禁シタルニ止ラス兌モ公然ト行フヲ得サリキ(二ノ六)

四、光緒三十二年頃奉天省ニ斯ル規則カ發布セラレタリ(一ノ八)

五、(一) 典得者カ典得シタル土地ニ改良ヲ加ヘタルトキニ特約ナキ場合ハ會村長カ之ヲ取捌クヘキナリ(一ノ九)

(二) 原則トシテ典物ニ加工スルコトヲ得サルモ數十年ノ典得ニカ、ルモノニアリテハ自然多少ノ加工ヲ免レス

(一ノ十)

(三) 原則トシテ出典者ハ典價ノミヲ以テ回贖シ得ルモ數十年間ノ典得ニカ、ルモノ、改良費ハ償還スヘキナリ

(一ノ十、四ノ十及四ノ十一)

(四) 改良ヲ要スル場合ニハ典得者ハ出典者ニ協議スヘキナリ(二ノ九、二ノ十二及三ノ八)

(五) 協議ヲ爲サスシテ行ヒタル改良ノ費用ハ出典者ニ於テ償還ノ理由ナシ(二ノ十二、四ノ八及四ノ九)

(六) 典名義ノ土地賣買ノ場合ニハ改良ヲ加フルハ自由ナリ(二ノ十二及三ノ十一)

六、『待原主歸籍之時』トハ一時歸リタル場合ヲモ包含ス(二ノ十)

七、(一) 文契トハ證書ヲ云ヒ契文トハ割字ヲ爲シタル證書ノ義ナリ(三ノ四)

(二) 『騎縫爲證』ナル文字ハ契ト云フヲ得ルモ契文ニアラス(三ノ十二)

八、典得地ノ流失シタルヲ典得者カ復舊スルハ差支ナキモ其費用ヲ請求スルコトヲ得ス(三ノ十)

- 九、事實買賣ナルニ於テハ拔價ヲ爲スコトヲ得ス(三ノ十四)
- 十、同一ノ土地ニ付キ同時ニ典ト兌トカ成立スヘキ道理ナシ(四ノ三)
- 十一、兌ハ旗民不交産ノ制度ヲ避ケンカ爲メ起リタルモノニシテ賣渡ト同様後日贖回スルコトヲ得ス(四ノ七)
- 十二、典契甲第一號證乙第一號證寫
- 十三、兌契乙第二號證寫(旅、地、大、二、(民)八、典地贖回請求事件)

一、鑑定人劉心田訊問調書

- 一、乙第一號證ニ據レハ蘇明章及其孫蘇耀顯ハ双城堡ニ移住スルニ方リ旅費其他ノ費用ヲ要シ同號證記載ノ土地ヲ出典シタルモノト認ムル事ヲ得ヘシ
- 二、又該證ニ依レハ立典契人蘇明章同孫蘇耀顯トアルヲ以テ典地ノ所有者ハ右兩名ノ外無之様思料ス尤モ賣契又ハ典契ニハ業主ノ氏名ヲ悉ク記載スヘキ慣例ナルモ若シ業主中不在者アルトキハ其者ノ氏名ヲ記載セサル事アリ此場合ニ於テモ其賣契又ハ典契ハ有效ノモノナリ
- 三、依テ親子孫カ其業主地ヲ賣買又ハ出典スル場合ニ於テ其子カ不在ナルトキハ其氏名ヲ文契ニ記載セサル事アルヲ以テ乙第一號證ニ依リテハ出典當時蘇明章ノ子カ不在ナリシヤ否ヤ分明ナラサルモ其主權者ハ蘇明章ナルカ故ニ其子ノ氏名ヲ記載セサリシモノナラント思料スルモ其邊ノ事ハ此ノ證書ニ依リテハ分ラス
- 四、乙第一號證中旗風トアルハ騎縫ノ誤字ナリ夫レハ旗風ト騎縫トハ其音相同シキヲ以テ文字ヲ解セサルモノカ時々斯ク記載スルコトアリ而シテ騎縫トハ證書ノ合目ニ記載スル割字ノコトニシテ支那ニ於テハ右ノ場合ニハ騎縫ト記載スル慣例ナリ即チ乙第一號證中有旗風爲證契文一張トハ騎縫爲證トノ割字アル契文一張アリト云フ意味ニテ尙此他ニ契文一張アリト云フ意味ニアラス而シテ其以下ノ文意ハ双方ノ證書カ符合スル時ハ裴姓カ典契ヲ受領シ典地ヲ業主ニ返還スヘシト云フニ在リ

五、甲第一號證ト乙第一號證トノ典契ハ同時ニ作成セラレタルモノナリト思料ス而シテ今兩號證ヲ對照スルトキハ該證ニ割字セル旗風爲證トノ文字カ符合ス即チ該證中有旗風爲證契文一張トハ此ノ旗風爲證トノ割字アル典契ヲ指ス意ナリ

六、問、乙第一號證中契文一張トハ乙第二號證ヲ指スニ外ナラスヤ

答、乙第二號證ハ父子文書ト云フモノニシテ同第一號證ニ所謂契文一張ニアラス

問、乙第一號證ト乙第二號證トハ何カ關係アル證書ナリト思料スルヤ

答、乙第二號證ノ半截カ無之故其關係カ分ラサルモ同號證ノ末尾ニ記載セル小サキ文字ノ立字人ハ乙第一號證ノ立字人ト同人ナリ

問、乙第二號證ニハ四段十一日地ノ事ヲ記載シアリテ乙第一號證ノ土地モ四段十一日地ナルカ乙第二號證ハ該土地ニ付何カ約定シタルモノト思料スルヤ

答、然リ

問、乙第二號證ノ前文ハ乙第一號證ノ前ニ作成セフレタルモノト思料スルヤ

答、然リ

問、乙第二號證末尾ニ記載セル文意如何

答、夫レハ該記事ヲ認ムル際其上半截カナカリシ故後日之ヲ發見シタル時ハ更フニ協議スヘシトノ意ナリ

七、問、乙第二號證ニ依レハ該土地ハ既ニ劉芳明ニ兌與セラレアルニ拘ハラズ乙第一號證ニ依レハ蘇明章カ又該地ヲ出

典シアリ夫レハ旗民不交産ノ禁アリタル關係上斯ク爲シタルモノト認ムルヤ否ヤ

答、旗民不交産ノ禁ハ土地賣買ノ際ニノミ適用セラレ居タルモノニシテ典ト兌トハ殆ント同一ノ意味ナリ

八、光緒三十二年ノ頃奉天省ニ出典後二十年ヲ經過シタルモノハ其回贖ヲ許ササル旨ノ規則カ發布セラレタリ

問、其規則ハ現ニ行ハレ居ルヤ

答、東三省管内ニハ行ハレ居ルモ當地方ニハ行ハレ居ラス

九、問、典得者カ典得後其土地ヲ改良シタル場合ニ於テハ原業主ハ因贖ノ際其費用ヲ償還セサルヘカラサルヤ

答、文契ニ斯ル特約アラハ當然償還セサルヘカラサルモ然ラサル場合ニ於テハ會村長カ之ヲ取捌クヘキナリ

十、問、乙第一號證ハ賣契ト殆ント同一ノ効力ヲ生セシムル典契ナルヤ

答、然リ斯ル意味ニ見ルコトヲ得ヘシ

問、然ラハ該典得地ニ對スル改良費ハ回贖ノ際之ヲ償還セサルヘカラサルヤ

答、多少償還スヘキナリ

問、夫レハ文契ニ特約ナキモ尙之カ償還ヲ要スルヤ

答、年限カ短カケレハ償還スルニ及ハサルモ數十年前ノモノハ殆ント賣買ト同シキモノユエ毫モ賠償ヲナサシテ回贖スルハ不道理ナリ

問、利用ノ爲メ改良スレハ隨ツテ夫レ丈收獲モ増加スヘキ譯ナレハ夫レハ賠償ノ必要ナキニアラスヤ

答、典ノ場合ニ於テハ典得者ハ其典物ニ對シ加工スル事ヲ得サルハ普通ノ狀態ナリ而シ數十年前ノ典得ニ係ハルモノニアリテハ自然多少ノ加工ヲ爲スチ免カレサル故此場合ニ於テハ多少賠償ヲナサシム典得者ハ夫レ丈迷惑ヲ蒙ル次第ナルニ付賠償ヲ要求スル事ヲ得ヘキ道理ナリ

問、典價丈提供スレハ回贖スル事ヲ得ヘキ原則ナルヤ

答、然リ

二、鑑定人本榮壽訊問調書

一、乙第一號證ト甲第一號證トハ同時ニ作成セラレタル證書ニシテ其筆蹟モ同一ナリト認ム

二、乙第一號證ニ依レハ蘇明章及蘇耀顯カ双城堡ニ移住スルニ當リ旅費其他ノ費用ヲ要シ該證記載ノ土地ヲ裴姓ニ出典スルニ至リタルモノト認ムル事ヲ得ヘシ

三、乙第一號證ニハ立典契人蘇明章同係蘇耀顯トアルヲ以テ該典地ノ所有者ハ右兩名ニ限り他ノ所有者ナキモノト認ム

ル事ヲ得ヘシ

但支那ノ慣例ニ依レハ例ヘハ數名ノ共有地ヲ出典スル場合ニ於テハ其共有者ノ氏名ヲ典契ニ記載セサルヘカラサルモ當時若シ不在者アル時ハ其不在者ノ氏名ヲ記載セサルコトアリ

四、乙第一號證ニハ蘇明章ノ子ノ氏名記載ナキカ他人ナラハ兎モ角自分ノ實子ナル故若シ其子カ生存シ居ルモノナラハ出典當時假令不在ナリトモ其親ニ於テ之ヲ記入シ置クヘキ筈ナルニ其記載ナキヲ以テ見レハ或ハ其子カ死亡シ居リタルモノナランカ

五、乙第一號證ニ旗風云々トアルモ旗風ハ騎縫ノ誤記ナラン騎縫トハ割字ノ意ナリ該證ニ依レハ此典契以外ニ尙契文一張アルカ如ク見ユルモ其レハ如何ナル證書ナルヤ分ラス尤モ割字ヲ爲シタル證書カアルト云フコトノミナラハ有旗風爲證丈ニテ事足ルヘキニ尙契文一張トアルヲ以テ其意味分明ナラス

問、乙第一號證ノ契文一張トハ乙第二號證ヲ指スニアラスヤ

答、若シ其内容カ同一ナリトセハ或ハ乙第二號證ヲ指スモノナルヤモ知レサルモ乙第一號證ハ父子文契ト云フモノナリ

問、乙第二號證ノ末尾ノ記載等ヨリ考フル時ハ乙第一號證ノ契文一張トハ乙第二號證ヲ指スモノニアラサルカ如何

答、乙第一號證ハ典契ニシテ乙第二號證ハ兌契ナリ七八十年前ノ證書ニハ往々斯ノ如キ意味不明ノ證書アルヲ以テ

證書ノ意味ハ分ラス

六、問、乙第一號證ト乙第二號證トハ何カ關係アル證書ナルヤ

答、旗民不交產律ノ關係上斯ノ如キ證書カ出來タルモノナラント思料ス

問、旗民不交產ハ賣買ノミヲ禁セラレタルニアラサルヤ

答、兌モ公然トハ出來サリシナリ

七、問、乙第一號證ト乙第二號證トハ何レカ前ニ出來タルモノト思料スルヤ

答、乙第二號證ノ方カ前ニ出來タルモノナラン

問、乙第一號證ノ筆蹟ト乙第二號證ノ末尾ノ付記ノ筆蹟トハ同一筆蹟ナルヤ

答、然リ夫レハ同一筆蹟ナリト思料ス

問、乙第一號證ノ土地ト乙第二號證ノ土地トハ同一ナリヤ

答、兩方ノ證書ニ各七段十一日地トアルモ乙第二號證ニハ其坐落カ記載ナキ故同一ノ土地ナリヤ否ヤ判明セス

八、問、乙第一號證ニ契文一張トアルハ甲第一號證ヲ指スニアラスヤ

答、騎縫トハ二ツノ證書ヲ合セタル箇所ニ割字ヲ爲ス場合ニ用ユヘキ語ナルユヘ必ス他ニ一枚ノ證書アルニ相違ナキモ夫レナラハ騎縫爲證ニテ足ルヘキニ尙契文一張トアルヲ以テ其意分明ナラス

七、支那ノ慣例ニ依レハ典得地ニ對シテハ何等施工ヲ爲スコト得サルハ勿論土砂ノ採取ヲモ爲ス事ヲ得サルモノナルモ

古キ典地ニ付テハ往々改良ヲ要スル場合之レナキニシモアラス此場合ニ於テハ典得者ハ出典者ニ協議ヲ爲スヘキナリ但實際斯ノ如キ事例ハ極メテ稀ナル故此場合ノ慣例トシテハ分ラズ

十、之レハ一時歸リタル場合ヲモ包含ス

十一、問、乙第一號證ハ賣買ト同一ノ効力アルモノニアラサルヤ
答、然リ若シ轉典ナラハ轉典契カナケレハナラヌカ轉典契カナキユヘ賣買ト同シキモノト看做スコトヲ得ヘシ

十二、問、出典者カ邊外ニ移住シ且其所在不明ノ場合ニ於テ典得者カ典得地ニ家屋ヲ建築シ又ハ樹木ヲ植付ケ其他必要ナル改良ヲ施サントスル場合ニ於テモ尙出典者ノ承認ヲ得サルヘカラサルヤ

答、出典者カ之レヲ承諾セサルヘシ但シ右様ノ事例ハ極メテ稀ナリ

問、右様ノ場合ニ於テ典得者カ出典者ノ承認ヲ得スシテ斯ル改良ヲ爲スモ敢テ無理ニアラサルヘシ如何

答、自己ノ所有ニ屬スルモノナリト思料シ斯ルコトヲ爲シタル場合ハ無理ニ非ラサルヘシ

問、右様ノ如キ改良費用ハ出典者ニ於テ之レヲ賠償セサルヘカラサルヤ
答、典ノ場合ニ於テハ典得者ハ斯ル改良ヲ爲スコトヲ得サルニ付出典者ハ其費用ヲ賠償スヘキ筈ナキモ若シ此如キ請求アル時ハ訴訟ニ於テ決スルヨリ致方ナカラシ

十三、問、騎縫爲證契文一張トハ證書ノ合セ目ニ騎縫爲證トノ割字ヲ爲シタルモノヲ云ヒ前ニ契文一張アリトノ意味ニアラサルヘシ如何

答、夫レハ分ラズ

三、鑑定人王新三訊問調書

一、甲第一號證ト乙第一號證トハ同時ニ作成セラレタル證書ニシテ且其筆蹟モ同一ナリト認ム

二、乙第一號證ニ依レハ蘇明章及其孫蘇耀顯カ雙城堡ニ移住スルニ當リ旅費其他ノ費用ヲ要シ該證記載ノ土地ヲ妻姓ニ出典シタルモノト認ムルコトヲ得ヘシ

三、該證ニハ立典契人蘇明章同孫蘇耀顯トアルヲ以テ典地ノ所有者ハ右兩名ニ限り他ニ所有者ナキ事ヲ認メ得ヘシ

問、支那ノ慣例ニ依レハ三名共有ノ土地ヲ出典スル場合ニ於テハ典契ニ三名ノ氏名ヲ記載セサルヘカラサルヤ
答、一名ノ名義ニテモ差支ナシ

問、親子孫ノ三名カ土地ヲ出典スル場合ニ於テ典契ニ親ト孫トノ氏名ヲ記載シ子ノ氏名ヲ記載セサル事アリヤ
答、出典當時子カ不在ナル時ハ記載セサルコトアリ

但本件ハ蘇明章ノ子カ死亡シ居リ且同人カ老年ナル故自分カ死亡シテモ其事實ノ明瞭スル様孫ノ名ヲ記載シタルモノナラン

四、旗風トハ割字ノ事ニシテ契文一張トハ該證ノ外ニ尙一通ノ證書カアルト云フ意ナリ依テ乙第一號證ノ文意ヨリ考フル時ハ典契モ契文モ共ニ其割字カ符合セサレハ典地ノ返還ヲ求ムル事ヲ得サルモノト思料ス而シテ契文ト契文トハ其意ヲ異ニシ契文トハ證書ノ事ニシテ契文トハ割字ヲ爲シタル證書ノ事ナリ

五、問、乙第二號證ハ如何ナル證書ナリヤ

答、父子文書ナリ

問、乙第一號證ト乙第二號證トハ何カ關係アル證書ナリヤ

答、乙第一號證ノ立字人ト乙第二號證ノ末尾ニ記載セル立字人ト同人ニシテ且ツ兩證ノ族中人中同一人アルヲ以テ何カ關係アルモノト思料ス

問、乙第一號證ノ土地ト乙第二號證ノ土地ト同一ナリヤ

答、乙第一號證ニハ双城堡云々七段十一日地トアリ乙第二號證ノ初メニ堡ノ字カアリテ七段十一日地トノ記載アルヲ以テ考フレハ同一ノ土地ナリト認ム

問、乙第一號證ト乙第二號證トハ何レカ前ニ出来タルモノト思料スルヤ

答、乙第二號證ノ方カ前ニ出来タルモノト認ム之或ハ旗民不交産律ノ關係上斯ク二様ノ證書カ出来タルモノナラン

六、問、然シ兌ハ不交産律ニハ抵觸セサルニアラスヤ

答、然リ

問、然ラハ斯ク二様ニ爲ス必要ナキニアラスヤ
答、自分ノ考ニテハ最初兌ニ爲シタルモ兌ナル時ハ後日取戻ス事ヲ得サルニ付役所カ干涉シ典ニ爲サシメタルモノナラン

七、問、乙第一號證ニ所謂契文一張トハ乙第二號證ヲ指スニアラスヤ

答、兩證ノ土地ノ段數及畝數カ相符合スル所ヨリ見ル時ハ乙第二號證ヲ指スモノナラン

問、契文一張トハ二枚ノ證書ノ合セ目ニ騎縫爲證ト記載シアルモノヲ云フニ非ラスヤ

答、サスレハ騎縫爲證ニテ足ルヘク契文一張ト云フ意味ハナクナル事トナル可シ

問、乙第一號證中立字人林洪翰ナル文字ト乙第二號證中ノ立字人林洪翰ナル文字ト同筆蹟ナルヤ

答、夫レハ同一筆蹟ナリ

八、支那ノ慣例ニテハ出典者ハ典得地ノ土砂ヲ採取スル事スラ出来サルモノナレハ樹木ヲ植付ケ又ハ家屋ヲ建築シ井戸ヲ掘鑿スル事等ハ絕對ニ出来サルナリ依テ典得者ニ於テ若シ斯ル事ヲ爲サントスル時ハ豫メ出典者ト協議ヲ爲サ、ルヘカラサルモ實際斯カル實例ハ當地方ニハナシ尤モ典ノ場合ニ於テハ出典後幾十年ヲ經過セル場合ニアリテモ典價格タケ提供スレハ之ヲ回贖スル事ヲ得ヘキナリ

九、問、典得地ノ四至ノ境界中未開墾地アル時ハ典得者ニ於テ之ヲ開墾スル事ハ差支ナキヤ

答、夫レハ差支ナシ

問、前項未開墾地ニ造林スル事ハ如何

答、支那ノ慣例ニテハ荒地ヲ出典スル事ヲ得ス又典得スルモノモナシ然シ典得シタリトスレハ該地ニ造林スル事ハ差支ナシ此場合ニ於テハ典得者カ其樹木ヲ伐採シテ還付スヘキ例ナリ

問、若シ其樹木ハ官規ニ依リ伐採スル事ヲ得サルモノナル時ハ如何

答、其場合ハ双方相談スルヨリ致方ナカラン

十、問、典得得カ天災ノ爲メ流失シタル時ハ典得者ニ於テ之ヲ復舊スル事ハ差支ナキヤ

答、夫レハ差支ナシ

問、右ノ場合ニ於テ其復舊費ハ典得者ヨリ出典者ニ對シ請求スル事ヲ得ヘキヤ

答、夫レハ典得者カ耕耘ノ都合上復舊シタルモノナレハ出典者ニ對シ其費用ヲ請求スル事ヲ得ス

十一、本件ハ典ノ名義ニテ其實賣買ノモノナリ此場合ニ於テハ其土地ニ建築物ヲ營造シ又ハ植樹ヲ爲シ其他種々ノ改良ヲ施ス事ハ勝手ナリ

十二、問、騎縫爲證ナル文字ハ契文ニアラスヤ

答、右ハ契ト云フヲ得ヘキモ契文ニアラス

問、乙第二號證ハ契文ナリヤ

答、双方ノ證書ニ合致スヘキモノアレハ夫レハ契文ト云フ事ヲ得ヘキカ乙第二號證モ契文ト云フ事ヲ得ヘシ

問、前ニ乙第二號證ハ父子文書ナリト云ヒシニアラスヤ

答、乙第二號證ハ契文ト云フヲ得ヘキモ此書證ハ何ナリヤト云ハルレハ父子文書ナリ

十三、問、乙第二號證末尾ニ記載セル文意如何

答、當時其上半截カナカリシ故後日夫レカ發見サレテモ偽物ナリトノ事ヲ取極メタルモノナリ

問、乙第一號證ノ土地ト乙第二號證ノ土地ト同一ノ土地ナリト云フハ如何

答、夫レハ其土地ノ段數ト畝數トカ同一ナル故斯ト思料スルナリ

問、乙第二號證ニハ堡ノ字カアリ又乙第一號證ニハ雙城堡トアル故乙第二號證ニモ雙城堡トアリシモノト思料スルモノナルヤ

答、然リ

問、乙第一號證ハ裴姓ニ出典セルモノニシテ乙第二號證ハ劉姓ニ兌與シタルモノナリ然ルニ兩方カ相關係セルモノナリトハ如何

答、夫レハ雙城堡ト土地ノ段數及畝數カ兩者相同シキユヘ斯ク思料スル次第ナリ

十四、事實賣買ナルニ於テハ拔價ヲ爲ス事ヲ得ス

四、鑑定人文候訊問調書

一、甲一號證中「以待原主歸籍之時有旗風爲證契文一張兩下兌合論許交錢與裴姓地歸原業」トアルハ原業主カ邊外ヨリ原籍ニ歸來シタル時割字アル二枚ノ證書ヲ双方ヨリ持出シ符號スルトキハ裴姓ハ典價ヲ受取リテ典地ヲ原業主ニ引渡スト云フ意味ナリ

二、有旗風爲證契文一張トハ割字アル契文一張アリト云フ意味ニテ尙此外ニ契文一張アリト云フ意味ニアラス旗風トハ

割字ノコトニシテ獨リ典契ノミニ限ラス況ク受領證荷送證等ニモ記載スルコトアリ

三、甲第一號證ト乙一號證トヲ對照接合スルニ其割字能ク相符合ス是即該證ニ所謂有旗風爲證契文一張ニ當ルナリ

四、乙二號證ハ兌契ヲ半載シタル其一片ニシテ乙一號證トハ何等關係ナキ文書ナリト認ム唯該證中ノ族人ノ名前ヨリ推

考シテ蘇姓ノ地ヲ劉姓ニ兌與シタルモノナルコトハ知ルヲ得ヘシ

五、乙二號ニハ坐落ノ記載ナキヲ以テ該證記載ノ土地ト乙一號證記載ノ土地ト同一ナリヤ否ヤハ分ラサルモ縱シ同一ノ土地ナリトスルモ乙一號證ト乙二號證トハ同時ニ作成セラルヘキ筈ナシ何トナレハ同一ノ土地ニ付キ同時ニ典ト兌トカ成立スヘキ道理ナケレハナリ

六、乙一號證ト、乙二號證トハ何レカ先キニ作成セラレタルモノナルヤハ分ラス

七、兌ハ旗民不交産ノ制度ヲ避ケンカ爲メ起リタルモノニテ賣渡スト同様後日贖回スルコトヲ得サルノミナラス租稅ノ如キモ兌得者ニ於テ納付スルナリ尤モ兌契ニハ公然契尾ヲ受クルコトハ出來サルナリ

八、土地ノ典得者カ典得後其土地ニ改良費ヲ投シタル場合ニ於テ原主カ之ヲ贖回スル際ニハ典契中ニ改良費賠償ノ特約アレハ賠償ノ責任アルモ然ラサレハ其責任ナシ

九、支那ノ慣習トシテ家屋ヲ建築スルニハ必ス其敷地ヲ買受ケサルヘカラス典地ニ家屋ヲ建築スルハ不法ナルニ付原主ニ於テ典地ヲ贖回セントスル時其建築費用ヲ賠償スル責任ナシ

十、典得者カ典地ニ附屬スル荒蕪地ヲ開墾シタル場合ニ於テモ是又自ラ多クノ收益ヲ得ンカ爲メ勝手ニ費用ヲ投シタル

モノナルニ付贖回ノ際原主ニ於テ開墾費用ヲ賠償スルノ責任ナシ尤モ荒蕪地ヲ耕地ト共ニ典ノ目的ト爲シタル場合ニハ其典得セル年限ノ長キト短キトニヨリ區別アリ典得者カ開墾後僅カニ一二年間耕作シタルニ原主カ贖回スル場合ニハ相當ノ賠償ヲ爲サルヘカラサルモ之ニ反シ開墾後既ニ二三十箇年間耕作ヲ爲シタル場合ニハ典得者ハ既ニ相當ノ收益ヲ爲シ居ルニヨリ別ニ開墾費用ヲ賠償スルノ責任ナシ

十一、濕地又ハ旱地ニ排水疏水ノ途ヲ講シ典地ノ改良ヲ爲シタル場合モ前述荒蕪地ノ場合ニ於ケルト同シク典得者カ多クノ收益ヲ得ンカ爲メ自己ノ勝手ニ費用ヲ投シタルモノナルニヨリ原主カ贖回スル場合ニ其費用ノ賠償ヲ要求スルヲ得ス尤モ改良後耕作ノ年數淺キトキハ評價人ヲ定メ相當ノ改良費ヲ賠償スルヲ以テ適當ナル處置ナリト思料ス

典契甲第一號證寫

立典契人蘇明章同孫蘇耀顯因赴雙城堡盤費不足又兼倉糧無着今將自己祖遺冊地柒段計地拾壹日同族中人等說允情懇典與裴玉名下耕種爲主典價市錢陸仟捌佰正其錢筆下交清以備路費之資自赴雙城堡之後不許族人等交錢歸地以待原主歸籍之時有旗風爲証契一文張兩下兌合議許交錢與裴姓地歸原業恐後無憑立典契爲證

計開四至坐落師營西北冊地柒段拾壹日南北壩地一段 東至 南至溝

又東西壩地一段 東至 南至水溝

又東西壩地一段 西至 南至沙河

又東西壩地一段 西至 南至大道

又南北壩地一段 東至 南至大道

又南北墾地一段四至道
 又南北墾地一段 東水溝南至格
 又南北墾地一段 西至格北至格
 又南北墾地一段 東至格南至格
 又南北墾地一段 西至格北至格

於後爲證
 道光二十七年十月十五日立
 典契乙第壹號

中見人	張廷選
族長	蘇明顏
說合人	劉成剛
族中人	蘇廣廣
立字人	林洪
典契人	蘇明

章同孫蘇翹顯

立典人蘇明章同孫蘇翹顯因赴双城堡盤費不足又兼倉糧無着今將自己祖遺冊地七段計地拾壹日同族中人等說允情恩典與裴玉名下耕種爲主典價市錢陸仟捌佰吊正其錢筆下交清以備路費之資自赴双城堡之後不許族中人等交錢歸地以待原主歸籍之時有族風爲證契文一張下兌合纔許錢交裴姓地歸原業恐後無憑立典契爲證

計開四至坐落水師營西北冊地柒段拾壹日南北墾地一段 東道南至溝 西至沙河
 又東西墾地一段 東道南至水溝 西至河北至沙河
 又東西墾地一段 東至沙河南至大道 西至格北至大道
 又南北墾地一段 東至沙溝南至大道 西至格北至大道
 又南北墾地一段四至道
 又南北墾地一段 東水溝南至格 西至格北至格
 又南北墾地一段 東至格南至格 西至格北至格

中見人	孫廷選
族長	蘇明顏
說合人	劉成剛
族中人	蘇廣
立字人	林洪
典契人	蘇明

章同孫蘇耀顯

道光二十七年十月十五日立
 光緒拾壹年十二月十三日蘇文章拔價市錢壹百拾參吊正

兌契乙第貳號

堡將祖遺冊地柒段參日兌與劉芳明名下耕種爲主
言定贖地之時合族人等以及子孫等人被價取贖若賣
若有爭論強贖不見合同無憑

立字人

徐

高

起

中說人

張

大

斌

同族人

張

廣

德

立字人

張

金

貴

族中人

蘇

廣

學

道光二十七年十月十五日 立

同族中人等說明上半接丟失倘日後來上半接有

鑑定事項

立字人

林

洪

翰

蘇

廣

恩

蘇

廣

珍

一、賣契及典契ト華押

二、祖遺ノ地ノ意義

三、廟產ノ處分

四、廟產ノ所有權及管理權

五、古刹、施捨ノ意義

六、典契寫

鑑定要旨

一、旅順附近ニテハ土地賣契ニハ賣主仲見人等ハ其名下ニ華押ヲ爲ス慣例ナリ、典契ニハ華押ヲ爲ス地方ト爲ササル地
方トアリ(一ノ一)

三、(一) 師祖ノ遺ス處ノ土地トハ先代ノ道士ヨリ傳來シタル廟產ノ義ナリ(一ノ二)

- (一) 廟產出典ノ場合ニ典契ニ祖遺トシ一個人所有ノ如ク記載スル慣習アリ (一ノ三)
- (二) 廟產カ祖先ノ道士ヨリ管理シ來リタルモノナルトキハ道士個人ノ爲メニモ出典スルコトヲ得 (一ノ三)
- (三) 古刹廟ノ任職カ廟產ヲ處分スルニハ事由ヲ道官ニ届出テ許可ヲ得サルヘカラス (二ノ三)
- (四) 廟產ハ出典スルコトヲ得ルモ賣却スルコトヲ得ス (一ノ五)
- (五) 會廟ハ會首カ管理シ道士ニ於テ出典スルコトヲ得ス (一ノ六)
- (六) 施捨廟ノ任職カ其財產ヲ處分セントスル場合ニハ先ツ寄附者ノ同意ヲ得タル上更ニ道官ニ届出テ其許可ヲ得サルヘカラス但施捨廟ニアリテハ財產ノ賣却ハ絶對ニ爲スコトヲ得ス (二ノ四)
- (七) 古刹廟カ後ニ寄附ヲ受クルモ尙古刹廟ナルモ其寄附ニ對スル部分ノ財產處分ニ付テハ施捨廟ノ財產處分ノ例ニ依ルヘシ (二ノ六)
- (八) 清居道ニハ分家ナキヲ以テ廟產ノ分割ナキモ伏居道ニハ子孫ノ分家ニヨリ廟產ノ分割スルコトアリ、分割シタル廟產ハ分得者カ單ニ使用收益管理スルニ止リ其所有權ヲ取得スルモノニアラスシテ依然廟產タリ (一ノ四)
- (九) 道士個人カ取得シタル財產モ廟產ナリ (一ノ八)
- (一〇) 施捨廟ト佔產廟トニヨリ廟產管理權ノ内容ニ差異アルコトナシ (一ノ九)
- (一一) 會廟ハ會首カ管理ス (一ノ六)
- (一二) 古刹トハ往古僧侶ノ開基建立ニカ、ルモノヲ云ヒ施捨トハ衆民ノ寄附ニ依リ建立セラレタルモノヲ云フ (二ノ一)

六、典契寫(旅、高、大、四、(控)二八、典契無効確認請求事件)

一、鑑定人劉心田訊問調書

- 一、旅順附近ニテハ土地ノ賣契ニハ賣主其他仲見人等ハ其名トニ華押ヲ爲ス慣例ナリ而シテ典契ニハ華押ヲ爲ス地方ト爲サ、ル地方トアリテ慣習ヲ異ニセリ金州地方ハ前者ニシテ旅順地方ハ後者ニ屬ス
- 二、御ボノ乙號證ノ師祖ノ遺ス處ノ土地トアルハ先代ノ道士ヨリ傳來シタル廟產トノ意ニシテ同號證ノ廟產トアルハ先代ノ道士カ買入レ又ハ開拓シタル廟產ナリトノ意ニシテ文字コソ異ナレ其意ハ道士カ廟產トシテ管理スルトノ意ナリ
- 三、廟產ヲ道士カ出典スル場合典契ニ單ニ祖遺トシテ一個人所有ノ如ク記載スル慣習アリテ其出典目的カ廟ノ爲メナルト道士個人ノ爲メナルトヲ問ハス典契ニハ祖遺ト記載スル慣習アリ而シテ其廟產カ祖先ノ道士ヨリ管理シ來リタルモノナルトキハ廟ノ爲メニモ道士個人ノ爲メニモ出典シ得ルモノニシテ之レカ實例存ス
- 四、道士ニハ妻帯セス道士ノ弟子カ順次相續スル清居道ト妻帯シテ子孫ノ存スル伏居道トノ二種類アリ故ニ前者ノ清居道ハ分家スルコトナキニヨリ廟產ヲ分割スルコトナキモ後者タル伏居道士ハ子孫ノ多キ場合ニハ分家スルコトアルヲ以テ分家シタルトキハ廟產ヲ分割スルコトアリ而シテ分割シタル廟產ハ分得者カ單ニ使用收益管理スルニ止リ其所有權ヲ得ルモノニアラスシテ廟產タルコトハ分割前ニ異ナルナシ
- 五、廟產ハ出典スルコトヲ得ルモ賣却ハ爲シ得サルモノナリ
- 六、佔產廟ト施捨廟トノ何レノ中ニモ會廟アリ會廟ハ會首カ管理スル故ニ道士ニ於テ自由ニ出典シ得ス又佔產廟タルト

施捨廟タルト會廟タルトヲ問ハス何レモ賣却ハ爲シ得サルモノナリ
七、會長ナル名稱ハ日本施政後ニ附セラレタル稱呼ニシテ其以前ハ會首ト稱ヘ居リシニヨリ會廟ハ會首カ管理シタルモノナリ

八、道士個人カ自己ノ取得シタル財產アリトスルモ道士ノ身分ハ廟ト離ルヘカラサル關係アルモノニシテ道士ノ財產ハ即廟產ニシテ道士個人ノ財產ト廟產トハ區別アル事ナシ

九、施捨タルト佔產廟タルトヲ問ハス廟產ノ管理權ニハ強弱廣狹ノ區別アル事ナシ
二、鑑定人潘雨亭訊問調書

- 一、鑑定人ハ十三才ノ時ヨリ四十二才迄金州ノ城隍廟ニ僧侶ヲ勤メ居リシカ光緒二十二年道士ヨリ道官ト爲リタリ
- 二、支那ノ寺院ニハ古刹(一名佔產廟ト云フ)施捨ノ二様アリ古刹トハ往古僧侶ノ開基建立ニ係ルモノヲ云ヒ施捨トハ衆民ノ寄附ニ依リ建立セラレタルモノヲ云フ
- 三、古刹廟ノ住職カ其財產ヲ處分スル場合ニ於テハ先ツ其事由ヲ道官ニ届出テ其許可ヲ得サルヘカラス又重大ナル事項ニ付テハ尙官衙ノ認可ヲモ得サルヘカラス
- 四、施捨廟ノ住職カ其財產ヲ處分セントスル場合ニアリテハ先ツ寄附者ノ同意ヲ得タル上更ニ道官ニ届出テ其許可ヲ得サルヘカラス尤モ此場合ニ於テハ道官ハ其事實ヲ取調ヘ奉天ノ禮部ヘ届ケ出ツルコトニナリ居レリ但施捨廟ニアリテハ財產ノ賣却ハ絕對ニナス事ヲ得サルモノナリ

- 五、又右ノ場合ニ於テハ寄附者ノ同意ノミニテ足り一般檀徒ノ同意ヲ要セサルモノナリ
- 六、古刹廟ニアリテモ後衆民ノ寄附ヲ受クルコトアリ此場合ニ於テモ尙古刹廟タルヲ失ハサルモ寄附ニ對スル部分ニ付施業ヲ作成スルコトハ施捨廟ニ異ナラス而シテ其寄附ニ對スル部分ノ財產ヲ處分スル時ハ施捨廟ノ財產處分ノ例ニ依ルヘキナリ

典契 寫

立典契人吳字誠因手内困乏將自廟地餘地四段相連約有四畝煩人說允情願典與王安茂名下耕種爲主同衆言明典價値市錢捌拾吊正當日筆下交並無施欠自典自後年限不拘錢到回贖言明官糧市錢四百文恐後無憑立典契存照

計開 四 至

坐落在東北坡地四段 南 東 至 溝
北 西 至 分水嶺 上 三段西至溝
後 略

典契 寫

立典契人吳字誠因困乏使用將自己廟地若有三日煩人說允情願典與王安茂名下耕種爲主同衆言明值市錢陸佰吊正當日筆下付清並無施欠自典自後年限不拘錢到取贖恐後無憑立典契爲證

計開 四 至

坐落大嶺溝西北坡地六段相連 南 北 至 格小西山地六段 南 北 至 格坐落本村西北溝北埃地壹分 東 西 至 溝南溝北至格
東 西 至 溝南溝北至格

光緒卅三年拔價貳佰四拾吊證

中華民國二年拔價壹百貳拾吊正 唯金州城隍廟化費

後略

典契寫

立典契金州城隍廟住持道李圓法自因老君廟住持吳孚^忠侶同侄吳道與將師祖所遺之香煙旗冊地一分同衆言明典價市錢二千一百吊正典與郭正倫^倫名下耕種納課言明以八年爲期過期以後錢到回贖恐後無憑立此爲證 上帶官糧二十畝

計開

坐落在老君廟西空房基一處 東至溝 南至河 西至溝水 北至河 本房牆東 南至山頂 又溝北崖地一分 東至格南溝 西至溝 北至溝 大西古房
身一分 東至溝 南至河 西至溝 北至格 共約地陸日此後修益房間地之際不許折毀

中會人

能 紹 良
王 立 廷
陳 連 第
于 孔 利
劉 王 春
劉 正 德

立字人

于 昌 順
姜 眞 周
陳 連 三

宣統三年十月十六日

立典契存證

證言事項

一、所在不明又ハ邊外ニ在ル者ノ財産ノ管理

二、回贖禁止ノ效力

三、典契寫

證言要旨

- 一、(一) 所有者ノ所在不明ノ場合ニハ一族中ノ最近親者之ヲ管理ス(一ノ一)
- (二) 邊外ニ赴キテ不在ノ場合ニハ族中ノ者原主ニ代リテ其財産ヲ管理シ其權利ヲ行フ(二ノ二)
- (三) 邊外ニ赴キ其後裔不明ノ場合ニハ一族中ノ最近親者其財産ヲ管理ス但出典ハ爲シ得ルモ賣買讓渡ハ之ヲ爲スコトヲ得ス(三)

二、出典ニ當リ一族ノ回贖ヲ禁シタル場合ハ一族ハ回贖スルコトヲ得ス（一ノ二及二ノ一）
三、典契乙第一號寫（旅、地、明、四二、（民）三六、土地所有權確認請求事件）

一、證人趙廷鳳訊問調書

一、一族ノモノナラハ差支ナシ但シ一族中ニテモ最近親ノ者カ管理ヲナスナリ

二、問、出典ノ場合ニ於テ當事者カ特ニ一族ノ者ニテモ回贖ヲナスコト能ハサル旨ヲ約シアル場合ハ如何
答、此場合ニ於テハ一族ノ者タリトモ回贖スルコトヲ得サルナリ

二、證人劉德俊訊問調書

一、問、典契中ニ「不許族中人等交錢歸地以待原主歸籍之時有旗風爲證」トノ特約アル時ハ族中人等ハ絕對ニ之レヲ贖
回スルコトヲ得サルモノナルヤ

答、自分ノ考ニテハ之ヲ贖回シテ他ニ入典スルコトハ差支ナキモノト思料スルモ清國ニハ一定ノ慣習ナキ故右ノ如
ク特約アル場合ニ於テハ該文意ノ如ク解釋シテ差支ナカラシ

二、問、原業主カ邊外ニ赴キ不在ノ場合ニ於テ族中ノ者カ其財產ヲ管理スルハ原主ニ代リテ其權利ヲ行フモノナルヤ否
ヤ

答、然リ原主ニ代リテ權利ヲ行フモノナリ

三、證人劉德俊訊問調書

問、清國ノ慣習ニ於テ假ヘハ甲カ邊外ニ赴キ其後裔不明ナルトキハ一族ノ者ニ於テ其財產ヲ處分スルコトヲ得ルヤ
答、此場合ニ於テハ一族中最モ近親ノ者カ其財產ヲ管理スルコトヲ得ヘキナリ但シ出典ヲナスハ差支ナキモ賣買讓與等
ヲナスコトヲ得ス

乙第一號證寫

立典契人蘇明章同係蘇翹顯因赴双城堡盤費不足又兼倉廩無着今將自己祖遺冊地七段計地拾壹日同族中人等說允情恩典與
裴玉名下耕種爲主典價市錢陸仟捌佰吊正其錢筆下交清以備路費之資自赴双城堡之後不許族中人等交錢歸地以待原主歸籍
之時有風旗爲證契文一張兩下兌合總許交錢與裴姓地歸原業恐後無憑立典契爲證

計開四至坐落水師營西北冊地七段拾壹日南北壠地一段

又東西壠地一段 東至道南 西至水溝 又東西壠地一段 東至沙河 西至道南 又南北壠地一段 東至沙河 西至道南
又東西壠地一段 東至道南 西至水溝 又東西壠地一段 東至沙河 西至道南 又南北壠地一段 東至沙河 西至道南
又南北壠地一段 東至道南 西至水溝 又南北壠地一段 東至沙河 西至道南 又南北壠地一段 東至沙河 西至道南

中見人	張廷選
族長	蘇明顯
說合人	劉成剛
族中人	蘇廣榮 蘇廣珍

族同爲證

道光二十七年十月十五日 立

立學人
典契人

蘇 林 蘇
明 洪 廣
章 同 孫 蘇 恩

二三三八

鑑定事項

一、押(又ハ壓)ノ意義及效力

二、債權者取消請求權

三、欠帖寫

鑑定要旨

- 一、(一) 押又ハ壓トハ金錢ノ借入ニ際シ元利金ヲ返濟セサルトキハ一定ノ不動産ヲ債權者ニ交付シテ使用收益ヲ爲サシムルコトヲ約スル契約ナリ、交付後回贖スルコトヲ得(一ノ一及二ノ一)
- (二) 土地ヲ押主ニ交付シタル後ハ利息ヲ支拂フヲ要セス(一ノ二)
- (三) 押債務者カ押地ヲ他人ニ賣却シタルトキハ押錢ハ押錢ハ押債務者ヨリ返濟スヘク買主ハ其債務ヲ負擔セス(一ノ三及二ノ二)

二、清國ニ於テハ債權者ハ債務者カ債權者ヲ害スルコトヲ知リテ爲シタル法律行爲ノ取消ヲ請求スルコトヲ得ヘキ慣習アリ但受益者カ惡意ノ場合ニ限ル(一ノ四及二ノ三)

三、欠帖甲第一號證寫(旅、地、大、元、民)ハ

- 一、鑑定人李榮春訊問調書
- 一、押(又ハ壓トモ云フ)トハ金錢ノ借入ニ際シ一定ノ不動産ヲ指定シテ他日元利返濟セサル場合ニハ該不動産ヲ銀主ニ交付シテ使用收益セシムル契約ニシテ後日元利ノ返濟ニ依リテ之ヲ回贖シ得ル事典ノ場合ト同一ナリ
- 二、土地ヲ押主ニ交付シタル後ハ利子ノ支拂ヲ要セス
- 三、土地ノ所有者カ押地ヲ他人ニ賣却シタル時ハ其押錢ハ借主ヨリ返濟スヘキモノニシテ買主ハ何等其債務ヲ負擔スヘキモノニアラサル事ハ清國ノ慣習ナリ
- 四、清國ニハ債權者ハ債務者カ其債權者ヲ害スル事ヲ知リテ爲シタル法律行爲ノ取消ヲ請求スルコトヲ得ヘキ慣習アルモ右ハ受益者カ惡意ノ場合ニ限ラレ受益者ニ於テ其行爲カ債權者ヲ害スヘキ事ヲ知ラサル場合ニ於テハ之カ取消ヲ請求スコトヲ得サルモノトス
- 五、御示シノ證書(甲第一號證)ハ普通ノ欠帖ニシテ押契ニアラスト思料ス夫レハ前陳ノ通り押ナラハ之ヲ回贖スル事ヲ得ルモ此證書ニハ永遠爲業不準回贖トアルヲ以テ斯ク思料スル所以ナリ

二、鑑定人文候訊問調書

一、押(又ハ壓トモ云フ)トハ金錢ノ借入ニ際シ一定ノ不動産ヲ指定シテ他日元利金ヲ返濟セサル場合ニハ該不動産ヲ錢主ニ交付シテ使用收益セシメ後日元利金ノ返濟ニ依リテ之ヲ回贖シ得ルコト典ノ場合ト同一ナラシムル契約ナリ

二、押債務者カ押地ヲ他人ニ賣渡シタル時ハ其押錢ハ押債務者ヨリ返濟スヘキモノニシテ買主ハ其債務ヲ負擔スヘキモノニアラサルコトハ清國ノ慣習ナリ

三、債權者ハ債務者カ其債權者ヲ害スル事ヲ知りテ爲シタル法律行爲ノ取消ヲ請求スルコトヲ得ヘキ慣習清國ニ存スルモ右ハ受益者カ其行爲カ債權者ヲ害スルコトヲ知りテ爲シタル場合ニ限ラレテ之ヲ知ラサル時ハ之カ取消ヲ請求スル事ヲ得サルナリ

四、御示シノ證書甲第一號證ハ押契ナリ
甲第一號證

立欠帖人隋廷翰因無錢使用今貸到孫德霖名下小洋銀貳佰肆拾元整以錢筆下交清並無短欠並無利息言明捌月內如數付清倘若至期不到有自己祖遺冊地壹段壹日草正房叁間交與錢主永遠爲業不準回贖以上年典與唐姓參畝半典價小洋玖拾元又欠到唐文富名下小洋銀拾元又欠到大連順記棧小洋肆拾元共合小洋壹佰陸拾元若八月以外地歸錢主該項俱歸錢主付還不如隋廷翰相干恐後無憑有欠帖爲證遂代老契一紙

計開

坐落旅順西鴉鳴咀唐家屯西南地壹段壹日東至大道西至界石南至格北至大道

中說人	胡	江
中見人	吳	林
欠帖人	隋	廷翰親筆

壬子年二月初六日立

鑑定事項

- 一、養子ノ死亡ト孫養子
- 二、養子ノ出典後ノ死亡ト其實父又ハ叔父ノ回贖權

鑑定要旨

(一) 一、養子カ妻子ナクシテ死亡シタルトキト雖モ孫養子ヲ定ムヘク、廢家ニスヘキニ非スシテ其財產ハ飽迄存スヘキナリ

二、養子カ出典後死亡シタルトキハ實父及實父ノ弟モ亦回贖ノ權利アリ但實父ノ回贖權ハ實父ノ弟ノ回贖權ニ優先シ後者カ既ニ回贖シ居ルモ前者ハ更ニ後者ヨリ回贖ヲ請求スルコトヲ得(二)旅、地、大、四、(民)五、土地回贖請求事件)

鑑定人曹庚西訊問證書

一、甲、乙、丙、三人兄弟アリテ長男甲ニ子ナク乙タル次男ノ子カ甲ニ養子トシテ行キタルトキハ養子ニ行キタル(丁)ヨ

リ見レハ丙モ乙タル父モ皆叔父ノ關係ナク又養子丁カ妻子モナク死亡シタルト雖モ之ハ孫養子ヲ定ムヘキモノニシテ廢家ニスヘキモノニアラス其財産ハ何所マテモ存スヘキモノナリ丁カ土地ヲ他ニ出典シ置キタルトキハ乙モ丙モ等シク回贈シ得ル權利アリ丙カ丁ノ死亡ヲ好機トシテ其典地ヲ回贈シタリトスルモ他ニ賣却スル等ノコトナク管理スルノナラハ別ニ致方ナシ

二、尙右ノ場合ニ乙ハ丁ノ實父ナルヲ以テ典地回贈ニ付テハ内ヨリ權利カ強キ譯ナリ故ニ丙カ回贈シ居ルモ乙ハ更ラニ丙ニ對シ回贈ヲ求メ得ルナリ

鑑定事項

- 一、荒地及熟地ノ賣買ト賣契ノ記載
- 二、「隔荒不至ナル」諺ノ意義
- 三、二段地ト一段地及其賣契記載ノ方法
- 四、小作人ノ開墾ト小作料
- 五、小作料ノ支拂ナキニ因ル小作地取戻

- 六、盜墾ト所有者ノ取戻權
- 七、賣契寫

鑑定要旨

- 一、賣契ニ熟地内ノ荒地ヲ除外シアラサルトキハ賣買地ニ荒地ヲ含ミ居ルモノト解スヘキモノナリ(一)
- 二、「隔荒不至」トハ兩地ヲ賣却シタルトキ其中間ノ荒地ヲ賣却セサルノ義ニシテ四至以内ニ荒地ノ存スル場合ヲ云ヘルニアラス(二)
- 三、(一) 馬車ノ通行シ得サル如キ小道ハ支那ニ於テハ道路ト稱ヘサルヲ以テ此小道アルモ二段地トシテ四至ヲ各別ニ記載スル要ナシ(四)
- (二) 賣地ノ中間ニ道路アリ從テ二段地ナルニ拘ラス其二段地ノ四至ヲ各別ニ記載セサル賣契ハ不完全ナリ(九)
- 四、荒地ノ開墾ヲ爲サシメ同時ニ之ヲ小作セシムル場合ニハ開墾後三年間位ノ小作料ヲ徵收セサル慣習ナリ(五)
- 五、小作ニ期限ノ定メナキ場合ニ小作人カ小作料ノ支拂ヲ怠リタルトキハ地主ハ其小作地ヲ取上クルヲ得(六)
- 六、所有者ノ知ラサル間ニ荒地ヲ開墾スルニ盜墾ニシテ所有者ハ其開墾地ヲ取戻スコトヲ得(八)
- 七、賣契乙第一號證、(旅、高、大、三、(控)一八、土地所有權確認及返還並小作料請求事件)

鑑定人劉心田訊問調書

一、熟地ト荒地トノ賣買ヲ爲ストキ賣契ニハ荒地ト熟地ト一賣契ニ記載スルコトアリ又ハ一賣契ニ熟地ト荒地トニ區別セス一括シテ一筆地ト記載スルモ默認スルノ慣習ナルモ若シ荒地カ中間ニアリテ其周圍ニ熟地アルトキ賣契ノ四至境界ノ記載カ荒地ニ取除ケアラサルトキハ賣買地ニ荒地ヲ含ミ居ルモノト見ル可キモノナリ

一、御示ノ賣契(乙第一號證)ニヨルトキハ同證記載ノ四至以内ノ土地ヲ賣買シタル事ハ明瞭ニシテ荒地カ右四至以外ニアレハ格別然ラサレハ荒地ハ賣買セラレタルモノナリ

三、隔荒不至トノ諺ハ甲地ト乙地トノ中間ニ荒地ノ存スル場合ニ甲地ト乙地ト賣却シタルトキ中間ノ荒地ハ賣却セストノ意ニシテ四至以内ニ荒地ノ存スル場合ハ此諺ニ適合セス而シテ賣買地ノ四至分明ナラサルトキ其賣買地ニ荒地カ含マレ居ルトキハ其荒地ノ所在ヲ賣契ニ記載スヘキモノナリ

四、賣買地ノ中間ニ馬車カ通行シ得ル位ノ道路アリテ二段地トナリ居ルトキハ其道路カ官道タルト私道タルトノ間ハ賣契ニハ二段地トシテ其二段地ノ四至ヲ各別ニ記載スヘキモノナルモ馬車ノ通行カ出來サル如キ小道ハ支那ニテハ道路ト稱ヘサルニヨリ此小道アルモ二段地ノ四至ヲ各別ニ記載スルノ要ナク一段地トシテ其四至ヲ記載スレハ可ナルモノナリ

五、荒地ノ開墾ヲ爲サシメ同時ニ之ヲ小作セシムルトキハ開墾後三年間位ノ小作料ヲ徵收セサル慣習ニシテ其小作料ヲ徵收セサルハ其期間ノ收獲ニヨリ開墾費ヲ補償セシムル爲メナルモ小作料免除期間ノ收獲カ開墾費ニ満たサルモ其ハ問題トナラサルモノナリ

六、土地ノ小作年限ヲ定メサル場合ニ於テ小作人カ小作料ノ支拂ヲ怠リタルトキハ地主ハ何時ニテモ其小作地ヲ取上ケ得ルモノナリ

七、御示ノ乙第一號證ニテハ同證記載地中ニ道路アリヤ又ハ荒地アリヤハ不明ナリ

八、荒地所有者ノ知ラサル間ニ他ノ者カ其荒地ヲ開墾スルハ盜墾ナルニヨリ所有者ハ其開墾地ヲ取戻シ得ルモノナリ

九、賣地ノ中間ニ道アリテ二段地トナリ居ルトキ賣契ニ其二段地ノ四至ヲ立字人ノ不注意ニ依リ各別ニ記載セサルコトハ絶無ニハアラサルモ斯ノ如キ賣契ハ不完全ノモノタルヲ免レス

賣契

乙第一號證

立賣契人鄭廷芝十因手內國困乏今將自己祖遺冊地貳段壹日央人說允情願賣與宋顯雲名下耕種永遠爲業同衆言明賣與市錢壹百伍拾吊正其價筆下交清並無短欠亦無私債準折逼勒成較等弊自賣之後任憑買主願契更名過冊不與賣主相干恐後無憑立賣契爲證至於錢糧官費隨地兌納

計開

此地坐落西兆山李家營後東西墾地貳段壹日東至溝南至格四至分明

中見人

穆

義

高十

趙

長

明十

光緒二十九年十月十六日

證言事項

立字人	許	純十
	周	元
	鄭	廷
		桂十
		芝十立賣契爲證

二三四六

墓地ノ賣買又ハ分割

證言要旨

墓地ハ賣買スルコトヲ得ス又分家ノ際ニモ分配スルコトヲ得ス(金、民、大、八、(民)一〇、埋棺取除請求事件)

證人紀鴻飛訊問調書

一、支那ノ慣習ニ依レハ墓地ハ賣買スルヲ得サルノミナラス又分家ノ際ニモ之ヲ分配スルヲ得サルモノナリ

鑑定事項

祖先ノ墓側ノ埋葬

鑑定要旨

祖先ノ墓側ニ他人ヲ埋葬スルコトヲ忌厭スル慣習アリ(金、民、明、四三、(民)三八)

鑑定人劉心田訊問調書

一、自分カ此墓地ニ對スル鑑定人トシテノ意見ハ從來慣習上祖先ノ墓ノ兩脇ニ他人ノ墓アルハ差支ナキモ其後ニ埋葬スルコトハ之ヲ忌厭スル慣習アリ依テ被告等ノ墓ハ原告祖先ノ墓ノ後ニアルヲ以テ原告祖先ノ墓ヲ穢ス意味アルト且又隣接地カ原告ノ所有地ナル等ノ點ヨリ見レハ係爭墓地ハ原告ノ墓地ト思料スルコトヲ得

鑑定事項

一、「會友不交承保佃補」ノ意義

二、保證人ノ利益

三、承保證書寫

鑑定要旨

一、「會友不交承保佃補」トハ講會ニ於ケル會員ノ一人カ無資産ノ爲メ講金ノ辨濟ヲ爲スコト能ハサルトキハ保證人ニ於テ本人ニ代リテ支拂フノ義ナリ(二)

二、關東州内ノ慣習ニ依レハ債務者カ無資産ナルコト明ナル場合ヲ除キ債權者ハ直ニ保證人ニ對シ履行ヲ請求スルコトヲ得ス、先ツ債務者ニ請求ヲ爲シ尙應セサルトキハ強制執行ノ後初メテ保證人ニ辨濟ヲ求ムルコトヲ得

二三四七

三、承保證書甲第一號證寫(旅、高、大、二、(控)五七、保證債務履行請求事件)

鑑定人李榮封訊問調書

一、甲第一號證中會友不交承保備補ノ八字ヲ除キ其前後ノ文字ハ同一筆蹟ナルモ右會友不交云々ノ文字ハ同一筆蹟ニアラスト認ム但此會友不交云々ノ文字カ其前後ニアル文字ト同時ニ記載サレタルモノナリヤ否ヤハ鑑定シ難シ

二、會友不交承保備補トハ講會ニ於ケル會員ノ一人カ無資産ノ爲メ講金ノ辨濟ヲ爲スコト能ハサルトキハ保證人ニ於テ本人ニ代リ支拂フノ意味ニテ本人カ辨濟ノ資力アル場合ニモ尙保證人ニ辨償ノ義務アリト云フ意味ニアラス

三、關東州地方ノ慣習ニヨレハ債權者ハ主タル債務者カ全ク無資産ナルコト明白ナル場合ニハ保證人ニ對シ辨償ヲ要求スルコトヲ得ルモ否ラサル場合ニハ直ニ保證人ニ對シ請求スルコトヲ得ス若シ主タル債務者カ支拂ノ資力アルニ拘ラズ横着ヲ構ヘテ故意ニ支拂ヲ爲サ、ル場合ニハ債權者ハ先ツ主タル債務者ニ對シテ請求ヲ爲シ尙應セサルトキハ訴訟ヲ提起スルノ外ナシ而シテ強制執行ノ結果債權者カ全部ノ辨濟ヲ受クル能ハサリシ場合初メテ保證人ニ對シ辨償ヲ求ムルコトヲ得ルナリ

承保證書

甲第一號證

表 紙 裏 面

中華民國 陰曆 九月念七日 立
陽曆 冬月五日

致 和 祥 考 允 忠

冬月廿七日

頭 會

每人分利洋 卅元

淨共合洋五拾貳元

會友不交承保佃補

承 保 戶

鴻昌
修記

證 言 事 項

現金賣買又ハ掛賣ト代金ノ割引又ハ利息ノ支拂

證 言 要 旨

- 一、芝罘公議會ノ規定トシテ雜貨商間ニ於テハ現金賣買ノ際ニハ一定ノ割引ヲ爲シ掛賣ノ際ニハ一定ノ利息ヲ附ス(一)
- 二、金州ニテハ契約ニテ定マル(二)
- 三、芝罘ヨリ買入レシ場合ニハ送狀ニ利息ノ記載アリ(三)(金、民、明、四四、(民)八二)

證人李鴻祿訊問調書

- 一、芝罘公議會ノ規定トシテ凡テ現金賣買ノモノハ一分二厘ノ割引ヲ爲シ一箇月以上ノ掛賣ノ際ハ一月經過ノ後ノ月ヨリ月一分二厘ノ利子ヲ附スルコト、爲リ居レリ右ハ雜貨商間ニ行ハル、モノナリ
- 二、金州ニ於テハ凡テ話シ合ヒノ上ニ爲シ居レリ
- 三、此地ノ者カ芝罘ヨリ買ツタ場合ニハ其貨物ノ送り狀ニ右利息ノ旨カ記載シアルモノナリ

鑑 定 事 項

- 一、不動産賣買ノ届出
- 二、房契中ニハ土地ヲ含ムヤ

鑑定要旨

一、旗人カ土地若クハ家ヲ買受ケタルトキハ金州ニ於テハ協合衙門ニ届出テ、登録シ、其賣契ニ衙門ノ印ヲ仰ク、民人ノ賣契ニ付テハ金州衙門ニ届出テ賣契ニ其印ヲ仰ク、何レモ三十吊文ヲ納ムルヲ要ス、費用ノ關係上奉天衙門ノ印ヲ受クルコトヲ得（一）

二、房契中ニハ土地ヲ含ムヲ通例トス（二）（金、明、四二、（民）、六六、典地返還請求事件）

鑑定人劉心田訊問調書

一、乙第一號二號三號證ニ付テハ別ニ疑ヒ箇所ナク真正ノモノト認ムル外ナシト述ヘ然シテ土地家屋ニ關スル舊慣ハ先ツ旗人カ土地若クハ家屋ヲ買受ケタル節ハ金州ニ於テハ假令衙門ニ届出テ同衙門ノ帳簿ニ載セ其賣契ニ其衙門ノ印ヲ押シタルモノナリ而シテ其届出テヲ爲シ賣契ニ官ノ押印ヲ仰クニハ三十吊文ヲ納メタルモノナリ民人ノ賣契ニ付テハ金州衙門ニ届出テ旗人ノ賣契ト同様三十吊文ヲ納メテ衙門ノ印ヲ賣契ニ押シテモラヒタルモノナリ

右賣契ニ付キ賣契ニ認印ヲ求ムルハ金州衙門ニ限ラス奉天ノ衙門ニ届出テ奉天衙門ノ認印ヲ求ムルコトモ出來タルモノナリ故ニ此地方ノ者モ奉天衙門ニ於テ認印ヲ受ケタルモノ少ナカラス何故ニ金州ニ於テ濟ムヘキモノヲ奉天迄受ケニ行クト云フニ此金州ニ於テ届出ヲ爲シ衙門ノ認印ヲ受クル時ハ濟シタ後其衙門ノ書記等ニ馳走ヲ爲スヘキ例ニナリ居ルヲ以テ少ナカラス費用モ掛ル故之ヲ奉天衙門ニ於テ求ムルトキハ三十吊文ヲ納ムル外ニ費用ヲ要セサルニ依リ此費用ヲ省ク爲メ奉天ニ行ツテ認印ヲ求ムルモノアリタル次第ナリ

而シテ此認印ノ數ニ付テハ別ニ定マリタルコトナシト雖モ普通年月日ノ場所金高ノ個所次ニ役所名ノ所契印ヲ要スル紙ノ綴合ノ所等ニアルモノナリ而シテ乙二號三號證ニ付シテアル紙ハ見出ノ爲メニ表紙トシテ付シアルモノニシテ之ハ衙門ニ於テ付シタルモノナリ

二、二號證三號證ニ房契トアルハ即チ家屋ノ事ナリ然シテカラ房契中ニ土地ヲ含マシテアル事ハ普通アルコトニテ別ニ疑點トナラス

證言事項

店員ノ債務ト店主ノ責任

證言要旨

店員カ店印ヲ押捺シテ債務ヲ負ヒタルトキハ店主ニ於テ辨濟ノ責ニ任スル慣習ナリ（大、地、明、四三、（民）六三、貸金請求事件）

證人張子明訊問調書

店員カ其店ノ印ヲ押捺シテ金ナト借入レタル場合ニハ主人ニ於テ辨濟スルノ責任カアリマス又例令主人ハ其事實ヲ知ラサル場合テモ尙責任ヲ負ハネハナリマセスコトハ支那ノ一般ノ慣習デアリマシテ決シテ自己ノ意見テハアリマセヌ

- 一、支那人ノ日本人ニ對スル土地出租ノ性質
- 二、商租權者ノ所持スヘキ證據書類
- 三、出租地契及商租契約證ノ性質
- 四、不動産登記制度ト戸管發給ノ制度
- 五、日本人間ニ於ケル商租地權利ノ處分ト書類ノ交付
- 六、商租權利ノ處分ト代償額ノ算定
- 七、認 證 寫
- 八、出租地契寫

鑑定要旨

一、大正十一年ニ支那人ヨリ奉天省ノ土地ヲ日本人ニ出租シタル場合其出租ハ商租ナルヘシ(一)

二、商租權者タル日本人ノ證據書類トシテ所持スヘキモノハ手續ノ異ナルニ從ヒ同一ナラス土地商租契約證書及日本領事館認證ノ奧書アル認證願ヲ必要トスル場合アリ或ハ支那官憲ノ發給シタル出租地契ノミニテ足ル場合アリ或ハ之等總テヲ必要トスル場合アリ(二)

三、(一) 出租地契ハ當事者ノ申請ニヨリ支那官憲ヨリ商租權者タル日本人ニ對シテ發給スル官文書ナリ、此發給ヲ待チテ初メテ商租契約ハ成立スルモノニアラスシテ既ニ當事者間ノ契約成立シテ之ヲ官ニ報告シ官ヨリ租契ノ發給ヲ受クルナリ、租契ノ紛失又ハ滅失シタル場合ハ理論上支那官憲ヨリ再下附ヲ受ケ得ヘキモノト思料ス(三ノ一)

(二) 登記制度アルモ實際ニ之ヲ運用スルニ至ラス租契ノ發給ニ依リテ商租契約ノ成立存在ヲ公認シ該出租地契ヲ以テ權利ノ證據トシテ第三者ニ對抗セシムル意味合ノモノト見ルヘキカ如シ(四)

(三) 商租契約證ハ當事者ノ作成シタル私文書ナリ、其紛失又ハ滅失ノ場合ニハ再交付ハ困難ナルヘシ但日本領事館ノ認證ヲ得タルモノハ謄本ヲ作成スル方法ナキニアラス(三ノ二)

四、不動産登記制度ノ奉天省ニ於テ嚴格ニ勵行セラレサル最有力ノ原因ハ土地所有權ノ取得ニハ戸管等ノ公文書ノ發給ヲ受クルコトヲ強制セラレ且慣習上該書類ヲ以テ第三者ニ對抗スル要件ト爲シ來レルヲ以テ其上更ニ登記ヲ爲スニ付テノ實益ヲ感セサルニ依ルモノノ如シ(四)

五、日本人間ニ於テハ商租地權利ノ處分ハ履行ハレ其際商租權利ヲ證明スル書類ヲ相手方ニ交付スルヲ普通トスルカ如

六、土地ノ單位面積ニ對スル單位價格ヲ協定シ代價額ヲ決定スルモノ多シ(六)

七、認證乙第二號證及乙第三號證寫

八、出租地契乙第一號證寫(大、地、昭、三、(民)五一七、書類引渡請求事件)

鑑定人川村宗嗣鑑定書

一、問、大正十一年中ニ支那人ヨリ奉天省瀋陽縣攬軍屯所在ノ土地ヲ日本人ニ出租シタリ其出租ノ性質如何

答、出租契約ノ內容的性質トシテハ大正四年五月二十五日日支兩國ノ間ニ締結調印セラレタル南滿洲及東部內蒙古

ニ關スル條約(以下滿蒙條約ト略稱ス)第二條ニ根基スル商租ハ見ルヘキモノナラン、蓋シ支那ニ於テハ概括的ニハ日本臣民ニ對シテハ私權ノ享有ヲ認メサルカ故ニ日本臣民カ支那ニ於テ私權ヲ享有スルカ爲メニハ條約ニ根基セサルヘカラス設問當時ニ於テハ設問地域ノ土地ニ關シテハ前述ノ條約ニ基ク商租ナル私權關係一般ニ有效ニ成立シツ、アリタルヲ以テ設問ノ出租關係ハ同條約ニ根基スル商租ト見ルヘキモノト考ヘラル

二、問、右出租ノ際所在ノ縣知事ノ許可奧書アル出租地契、土地商租契約證、認證願(日本領事館宛)ヲ出租支那人ヨリ日本人ニ交附スルヤ

答、前項ニ述ヘタル如ク設問當時滿蒙條約ニ基ク商租ナル私權關係ハ該地方ニ於テ有效ニ成立シツ、アリタルモ其商租契約ニ關スル官憲ノ取扱手續ニ就キテハ日支兩國間ニ細則ノ協定成立スルニ至ラサル爲メ契約當事者ハ各其

意思ニヨリマチマチノ手續方法ヲトリタルカ如ク概ネ左ノ三様ニ分ツヘシ

(A) 商租權利者タルヘキ日本人側ノ條約解釋ニ基ツク條約ヲ掲ケ支那人土地所有者トノ間ニ任意ニ土地契約ヲ爲スモノ

此場合日本人側トシテ其契約ニ對シ日本官憲ノ保護ヲ得ル目的ヲ以テ支那人地主ト連名ニテ其契約證書ニ認證願ヲ添ヘ日本領事館ニ提出シ認證ヲ受クルヲ普通トスルカ如シ

(B) 支那官憲ノ定ムル手續ニヨリ縣知事公署ヨリ租契ノ發給ヲ受クルモノ

出租地契ハ實際上出租支那人ヨリ日本人ニ交付スルモノニアラスシテ縣知事公署カ之ヲ作成シテ商租權者ニ交付スルモノナリナホ次項ヲ參照セラルヘシ

(C) 土地商租契約證ニ依リ日本領事館間ノ認證ヲ受クルト共ニ別ニ支那側官憲ノ定ムル手續ニヨリ租契ノ發給ヲ受クルモノ即(A)ト(B)トヲ兼スルモノ

而シテ右ノ場合ニ於テ商租權者タル日本人側ノ所持スヘキ證據書類トシテハ

(A) ノ場合ハ土地商租契約證書、日本領事館認證ノ奧書アル認證願

(B) ノ場合ハ支那官憲ノ發給シタル出租地契

(C) ノ場合ハ土地商租契約證書、日本領事館認證ノ奧書アル認證願、支那官憲ノ發給シタル出租地契

三、問、其出租地契土地商租契約證ハ如何ナル性質ヲ有スルヤ例ヘハ出租地契、土地商租契約證ハ之ヲ紛失、滅失等ヲ

爲シタル時出租支那人ヨリ再ヒ之レカ作成交附ヲ受ケ得ヘキヤ

答、出租地契ト商租地契トハ事情同シカラス

(一)、出 租 地 契

出租地契ハ前項ニモ説明シタルカ如ク出租支那人カ作成シテ商租權者タル日本人ニ交付スルモノニハアラスシテ商租契約當事者ノ申請ニ依リ支那官憲ヨリ商租權者タル日本人ニ對シテ發給スル官文書ニシテ支那官憲カ之ヲ發給スルハ内務部發布(大正五年中發布月日不明)商租須知ニ準據スルモノナリ該商租須知第六項ニ左ノ如ク規定セリ

「商租地畝地主應於商租時向該管地方官署領取填報租用地畝用紙將商租事項依式填明報由該管地方官署查核後分別發給租契」

右譯文「土地ヲ商租スルニハ地主カ商租ノ時ニ該管地方官署ヨリ土地租用報告用紙ヲ受取り商租事項ヲ型ノ如ク記入届出ツルヲ要ス該管地方官署ハ取調ヘノ上ソレノ租契ヲ發給スルモノトス」而シテ右ニ對シテ内務部下シタル解釋左ノ如シ

「蓋商租事項必須向該管地方官署報明所以必須報明之故以在地主將地租與外人、一經報明官署將來偶有租款滯欠等糾葛可以由官署查明前報辦法送交法庭秉公辦理在官署亦可藉以稽考而在商租人亦得確定其租債權所謂一舉而三善備者也」

右譯文「蓋シ商租事項ハ必ス該管地方官署ニ届出ツルヲ要ス其届出ヲ要スル所以ハ地主ニアリテハ外國人ニ貸與スルニ一度官憲ニ届出テ置ケハ將來貸料滯納等ノ紛争ヲ生シタル場合官署カ其届出アル契約方法ヲ調査シ法廷ニ送附シテ公平ニ處理セシムルコトヲ得ヘク官署ニアリテモ之ニ依リテ考察ニ供スルヲ得ヘク又商租權者モ其賃借權ヲ確定スルコトヲ得ヘシ所謂一舉ニシテ三善ヲ備フルモノナリ」

之ニ依リテ見ルトキハ畢竟支那官憲ノ見解ニ依ルモ當事者間ノ商租契約ハ官廳ノ租契ノ發給ヲ待チテ初メテ成立スルモノニアラスシテ當事者間ノ契約成立シテ之ヲ官ニ報告シ官ヨリ租契ノ發給ヲ受クルハ或點ヨリ見レハ日本人カ或契約ノ成立ニ關シ契約證書ヲ領事館ニ提出シテ認證ヲ受クルト略同一ノ性質ヲ有スルモノト見得ヘキカ如シ

支那官憲ノ發給スル租契カ紛失又ハ滅失ノ場合ニ處スル成文手續規定ヲ見サルモ理論上支那官憲ヨリ再下附ヲ受ケ得ヘキモノト考ヘラル但今日ニ於テハ支那官廳カ租契ノ發給ヲ停止シタルカ故ニ恐ラクハ再下附ノ方法ハ事實上不可能ナルヘク別途ノ證明方法ヲトル外ナカルヘシ因ニ支那縣知事公署カ一件ノ商租關係ニ對シ發給スル租契ハ四枚續ニシテ左ノ如シ

- (1) 租用地契存根(發給縣知事署ノ控)
- (2) 出租地契(商租權者タル日本人ニ發給スルモノ)
- (3) 承租地契(出租者タル支那人地主ニ發給スルモノ)

(4) 租用地畝總查(發給縣知事ヨリ財政廳ニ送附スルモノ)

(二) 商租契約證

當事者間ニ作成シタル私文書タル商租契約證書カ紛失又ハ滅失シタル場合ニ於テ地主カ再作成ヲ肯スレハ問題ナキモ肯セサル場合ニ訴訟ニヨリ之カ強要スルコトハ種々ノ困難アラン
日本領事館ノ認證ヲ得タルモノナラハ謄本ヲ作成シテ領事館ヨリ證明ヲ得ル方法モナキニ非ルヘシ

四、問、支那人ヨリ商租地ニ係ル權利保持ニハ右出租地契ヲ必要トスルニ非スヤ

答、商租地ニ對シ支那官權カ出租地契ヲ發給スル關係ハ土地ノ所有權取得者ニ對シ戸管等ノ公文書ヲ發給スルトモ同相似タル關係アリ從ツテ支那人ノ出租地契ニ關スル觀念モ戸管等ニ對スル觀念ト略同様ナリト見ルヘキモノナラン

即チ設問當時ニアリテモ奉天省ニ於テハ登記制度ノ施行アリタルモ(現行不動産登記條例ハ奉天省ニ於テハ大正十一年九月一日ヨリ施行セラレタルモ其以前ニ奉天省不動産登記規則ナル奉天省單行ノ規則アリテ不動産登記制度ヲ實施シ居タリ)尙嚴格ニ勵行セラレサリシ嫌アリ其最モ有力ナル原因ハ土地ノ所有權ノ取得ニハ前述ノ如ク戸管等ノ公文書ノ發給ヲ受クルコトヲ強制セラレ且慣習上該書類ヲ以テ第三者ニ對抗スル要件トシ來レルヲ以テ其上更ニ登記ヲ爲スニ付キテノ實利ヲ感セサルニ依ルモノト爲スヘキカ如此此觀念ハ今日ニ於テモナホ一般ニ改メラル、ニ至ラサルモノト認メラル即奉天省一般地方ノ支那人ノ觀念トシテハ登記制度ハ尊重スルニ至ラス行政

官廳ノ發給スル戸管等ヲ重シシカ所持ヲ以テ第三者對抗要件ト考フル實情ナルカ如シ
商租土地ニ關シテモ奉天省ニ於テ現行不動産登記條例發布實施以前ニ於テ商租土地登記規則ヲ制定シタルコトアリシモ實際ニ之ヲ運用スルニ至ラサリシモノノ如ク瀋陽縣知事公署ヨリ租地契ヲ發給シタルモノニ對シテモ登記ノ手續キヲトリタルモノナキカ如シ從テ租地契ノ發給ヲ受ケタル商租地ニ關シテハ出租地契ノ所持ヲ以テ商租權

ヲ第三者ニ對抗スル最モ有力ナル方法ト爲スコト日支人間一般ノ觀念ナリト見ルヘキカ如シ
殊ニ前記商租須知解釋ニモ土地ノ商租ヲ地方官廳ニ届出テ租契ノ發給ヲ受クルコトハ商租權者ノ方面ヨリ見レハ該商租權ヲ確定セシムル所以ナル旨ヲ云ヘリ之ニ依リテ見ルモ支那側地方官廳カ商租契約ニ於テ租契ヲ發スルハ實際上ニ於テ該租契ヲ以テ商租契約ノ成立存在ヲ公證シ出租地契ノ發給ヲ受ケタル商租權者ノ權利ヲ確認シ該出租地契ヲ以テ權利ノ證憑トシテ第三者ニ對抗セシムル意味合ノモノナリト見ルヘキモノ、如シ

五、問、日本人間ニ於テ商租地權利ハ事實上處分セラレツ、アリヤ及其處分ニハ右ノ出租地契、商租契約證、認證願ヲ必要トスルヤ

答、日本人間ニ於テ商租地權利ノ處分ハ事實上屢之ヲ見ル其處分ニ際シテハ其處分契約ニ附帶シテ商租權利ヲ證明スル書類ヲ相手ニ渡スヲ普通トスルカ如シ

六、問、日本人間ニ於ケル商租權利ノ處分ノ場合ニ於ケル代償ハ土地ノ面積ニ依リテ算出シ決定スルヤ

答、土地ノ單位面積ニ對スル單位價格ヲ協定シ代償額ヲ決定スルモノ多キカ如キモ事情ニ依リテハ此方法ニ依ララス

概數ヲ以テ代償額ヲ決定スル場合モナキニ非ルカ如シ

鑑定人川村宗嗣訊問調書

乙、第一、二號證ハ御命令ノ(C)ニ該當スル書面ナリト思料ス
其理由トシテ

- 一、乙第一號證及同第二號證ニ各記載セル土地ノ面積同一ナリ
 - 一、本件土地ハ前項(C)ニ依ル手續ノ當然附帶スル性質ノ土地ナリ
- 但シ乙一號證ハ同二號證トノ境界ノ記載明瞭ヲ缺キ兩者ノ四至一致セサルモ此點ハ日本領事館ト支那官憲トニ於テ各別ニ手續了シタルモノナルカ故ニ實際上一致セサルヲ當然ト云フヘキモノナリ

認 證

乙第二號證寫

住所 遼陽縣西路五鄉攪軍屯

出租人 願

發

住所 奉天新市街江島町四番地

出租人 小野寺得二

右當事者間ニ於テ別紙契約書ノ通り土地商租契約締結致候間御認證被成下度此段奉願候也

大正十年十二月七日

右

出租人 願 發

承租人 小野寺得二

在奉天日本總領事館

總領事 赤塚正助殿

第百九十號

右認證ス

大正十年十二月八日

在 奉 天

總領事 赤塚正助

土地商租契約證

今般中華民國人願發ハ自己所有熱地貳拾畝九分ヲ日本國人小野寺得二ニ對シ以下ニ定ムル條項ニ基キ商租シタルニ付キ
左記條項ヲ締結ス

第一條 商租地ノ所有境界及面積

所在 瀋陽縣西路五鄉攪軍屯東北

二三六四

面積 二十畝九步

境界 東至商地南楊姓地
西至道北全顧姓地

第二條 商租期間 契約ノ日ヨリ向二十五ヶ年間

第三條 第一條商租地ノ商租價格ハ一畝小洋票一百八十五元ト定メ本契約相互調印日本領事館ノ認證濟ミノ上承租人ハ出租人ニ支拂フモノトス

第四條 地租稅 本契約前商租地ニ對スル商租期間地租稅金ハ承租人ニ於テ完納セリ

第五條 本商租地ハ承租人ヲシテ隨意ニ經營セシメ若シ轉租スルトキハ原商租契約ヲ遵守スルコト本商租地滿期ノ際ハ中日商租條細則ニ準シ續租スルコト出租人ハ之ニ異議ナキモノトス

第六條 承租人ニ於テ商租内ニ於ケル收益ノ爲メ物品ノ製造ヲ爲スモ出租人ハ異議ナキモノトス

第七條 出租人ニシテ本契約前ノ地租其他不納ノモノハ出租人ニ於テ負擔スルモノトス

第八條 商租地附近ノ道路或ハ通行ノ妨害ヲナセルトキ承租人ニ於テ如何ナル損害ヲ受クルトモ出租人ハ一切關係ナキモノトス

第九條 本商租契約後商租地四鄰ノ土地作物ヲ侵害シ之ニ損害ヲ及ホス等ノ事アルトキハ承租人ニ於テ之カ處理或ハ賠償ヲ爲シ出租人ハ一切關係ナキモノトス

第十條 出租人ハ商租地ヲ入質抵當或ハ賣却等ノ行爲ヲナスヲ得ス

第十一條 承租人ニ於テ收益ノ目的ヲ達セサル場合ト雖モ出租人ニ對シテ商租料ノ減額等ハ決シテ請求セサルモノトス

第十二條 本契約ハ日本文ヲ以テ主文トス

右契約ヲ證スル爲メ本契約書ヲ作成シ各署名捺印ノ上各壹通ヲ保存スルモノトス

大正十年十二月七日

中華民國十年十二月七日

承租人	小野寺得二
出租人	顧發
保證人	邱玉林

立土地商租契人中華民國瀋陽縣籍顧發今有自置熟地坐落縣西路五鄉攪軍屯東北地貳拾畝九步商租日本人小野寺得二將互立商租契約條件列後

第壹條 由出租人願發租與承租人小野寺得二之租地

坐落四至面積如左

坐落瀋陽縣西路五鄉攪軍屯東北

東至商地南楊姓地
西至道北全顧姓地

二三六五

第貳條 將商租期間 約定之日起貳拾五箇年

第參條 第壹條所註商租地之租價定為每畝奉天小洋票壹百捌拾五元整言明此價中國官憲許可日本領事館存案當時雙方畫押蓋章畢申承租人交附與出租人

第四條 本契約設立之前本商租期間之各項賦捐稅各承租經營費為承租人照章一並完納

第五條 本商租地為商租人隨便經營如轉租時須遵守原租條約本商租地至期滿之日承租人如欲接續租用須遵中日商租條約辦理相合出租人而不得有異議

第六條 承租人在 此商租地內以圖收益而製造物品等事出租人並不相涉

第七條 在立此契約以先若有缺納課賦捐稅等項全歸為出租人

第八條 商租地附近之道路 有防害通行無論承租人受如何損失不與出租人相涉

第九條 商租係 有損害及侵 四隣土地 情事由承保人處理或賠償不與出租人相涉

第十條 不准出租人不得以此商租地 押賣等情

第十壹條 承租人雖以此地不為利益不準要求 減租價

第十貳條 本契約以中文日文合璧為正相互畫押蓋章各執壹來以為存證

以上各節仍双方合意訂立並無返悔恐之無 立此為證

大正十年十二月七日

中華民國十年十二月七日 立

出租人	顧	發
承租人	小野	寺得二
中保人	邱	玉林

認 證

乙第三號證寫

商租權利讓渡證

一、讓渡スヘキ商租地ノ表示

1、出租人楊才珠ヨリ出租シタル奉天日本總領事館大正十年十二月八日付第百九十三號認證書類記載ノ土地及之ニ關スル權利一切

2、出租人楊鳳秀ヨリ商租シタル同總領事館大正十年十二月八日付第百八十九號認證書類記載ノ土地及之ニ關スル權利一切

3、出租人顧發ヨリ商租シタル同總領事館大正十年十二月八日付第百九十號認證書類記載ノ土地及之ニ關スル權利一切

4、出租人邱巨財ヨリ商租シタル同總領事館大正十年十二月八日付第百八十六號認證書類ニ記載シタル土地及之ニ關

スル權利一切

5、出租人邱玉林ヨリ出租シタル同總領事館大正十年十二月八日付第百二十九號認證書類ニ記載シタル土地及之ニ關スル權利一切

6、出租人顧惠ヨリ商租シタル同總領事館大正十年十二月八日付第百九十一號認證書類ニ記載シタル土地及之ニ關スル權利一切

7、出租人顧恩毓ヨリ商租シタル同總領事館大正十年十二月八日付第百八十七號書類ニ記載シタル土地及之ニ關スル權利一切

8、出租人楊鳳億ヨリ商租シタル同總領事館大正十年十二月八日付認證書類ニ記載シタル土地及之ニ關スル權利一切

二、右商租權讓渡ノ代金三萬八千圓也
前記ノ通り讓渡候處確實也依テ前記商租權利ニ關スル認證書類一切ヲ貴殿ニ引渡シ致スヘク候
大正十年十二月二十八日

奉天江島町四番地

小野寺得二

東亞證券商品信託株式會社

專務取締役 中山貞雄殿

第二百〇一號

右認證ス

大正十年十二月二十八日

在 奉 天

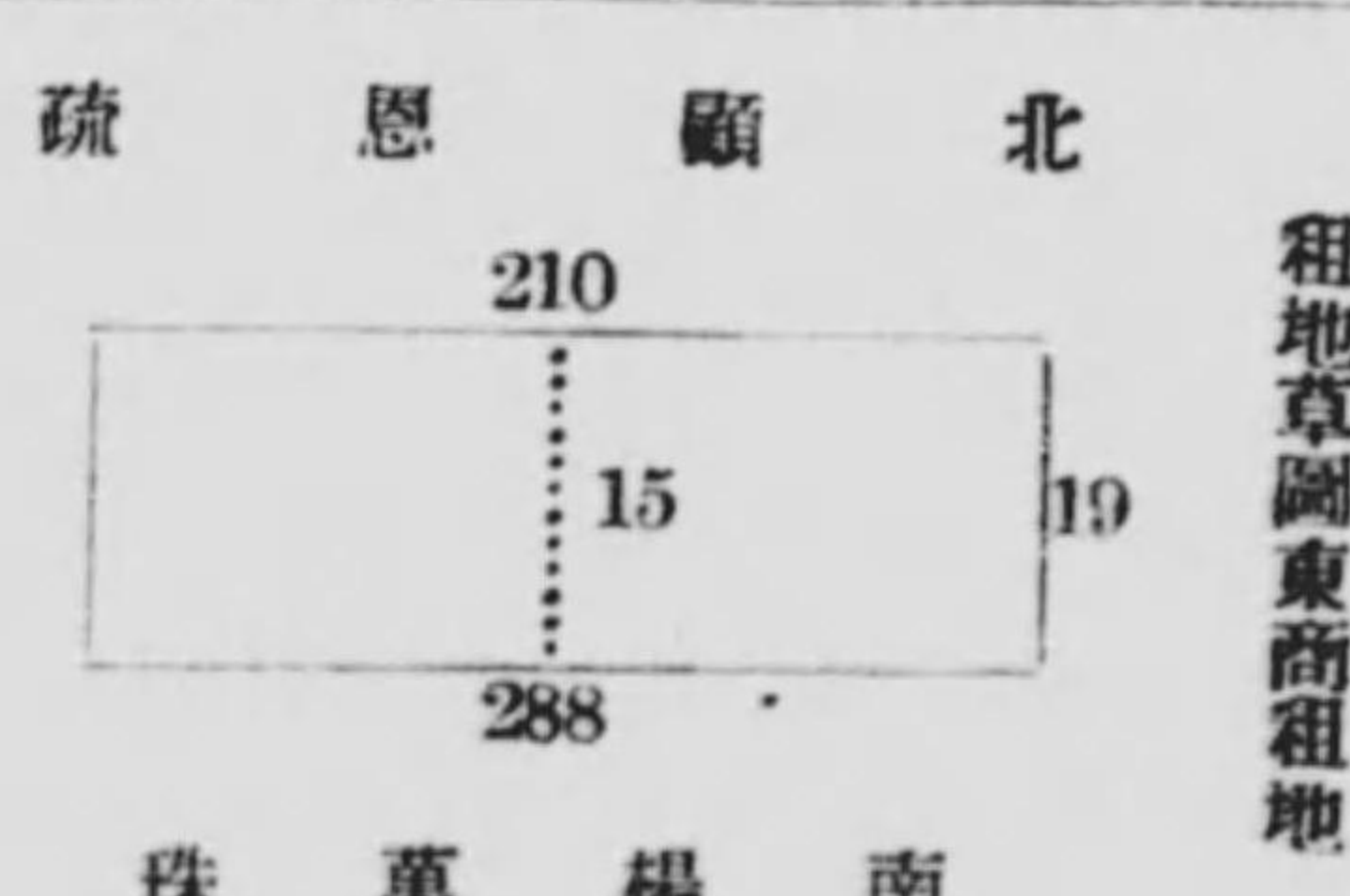
總領事 赤塚 正 助

商租地畝雙方遵守事項

- 一、承租人租用地畝如將地供他項目的之用轉出契約範圍者聽憑地主觸除契約將地收回
- 二、承租人除依地方習慣當然負擔之各項課稅外所有地主應納關於土地之一切課捐由地主按商租年限一次交齊
- 三、承租人承認不得將承租地畝轉租與他人如有此項情事聽憑地主約收地
- 四、地主與承租人承認雙方所有借貸關係不以所租之地畝為保證
- 五、承租人在承認地上所自行建造之房屋退租時如有處分雙方應另訂合同報官存案
- 六、租地並租地上之房屋雙方應另立租房契約為據

契 地 租 出

立出租契據人願發今願將坐落藩陽縣三區覽軍屯册地壹段租與小野寺得二名下為建築之用查明該地積積貳拾玖分〇釐應中議定租價照約交付並填明本契左列事項		地主計開		姓名		年 齡		籍 貫		住 址	
承 租 人		小野寺得二		三 十		日本京橋區		現住奉天江島町四番地		租地章圖東商租地	
租地西至車至商租地西至道南至楊萬珠地北至顧恩誠地		租期自民國拾年拾貳月玖日起至民國參拾五年拾貳月玖日止為限滿		押租金數無		租價若干共奉小洋參千七百六拾貳圓正		交租日期一期交清		納租者國課畝捐由地主按商租年期一次交齊	
地上附屬物無		其他記		應事		價公平估價合併證明		民國拾年拾貳月玖日		縣知事 趙景祺	
右契業經核准特此證明		民國拾年拾貳月玖日		地 主		承 租 人		地 中 證 人		縣 知 事	
顧恩誠		小野寺得二		顧恩誠		顧恩誠		顧恩誠		顧恩誠	
珠萬楊南		珠萬楊南		珠萬楊南		珠萬楊南		珠萬楊南		珠萬楊南	



也 寫 角 長 寸 號 一三七〇 每張收費大銀元五角

鑑定事項

一、子ハ父ノ名ヲ冒ササル慣習

二、命 名 者

鑑定要旨

- 一、(一) 支那ノ慣習トシテ父ノ名文字ヲ取リテ子ニ命名スルコトナシ (一ノ一及三ノ一)
- (二) 支那ノ慣習トシテ父ノ名文字中ノ頭文字ヲ子ノ名ノ頭文字ニ用ユルコトナシ (二ノ一)
- 二、支那ノ慣習トシテ命名ノ際ハ自家若クハ親戚中ノ知識アル者カ名文字ヲ選擇シテ命名ス(二ノ六)(旅、高、大、七(控)二八、房地所有權確認及引渡請求事件)
- 一、鑑定人王新三訊問調書
- 一、支那ニ於ケル從來ノ慣習トシテ父ノ名文字ヲ其子カ執リテ命名スルコトナシ
- 二、縱令ハ父ノ名カ于亨春又ハ于恒春ト謂フ場合ニ於テ其子ニ于春江ト云フ名ヲ附スルカ如キコトナシ
- 三、若シ此慣習ニ反シ父ノ名文字ヲ執リ子ノ名ニ命名シタル時ハ一般支那人ヨリ嫌惡セラレ
- 四、其理由ハ父子同一父子ヲ用フル時ハ支那ノ慣習ニ反シ施イテ一見父子ノ區分其血統上系統關係ヲ不明確ナラシムルカ爲メナリ

二、證人姜永寅訊問調書

- 一、支那ニ於ケル慣習トシテ父ノ名文字中ノ頭文字ヲ子ノ名ノ頭文字ニ取リテ附スルコトナシ
- 二、父ノ名文字中ノ頭文字ト同一文字ヲ頭文字トシテ命名シ得ルモノハ父ト同一傍系親等ノ者ノミナリ
- 三、支那ニ於ケル慣習トシテ子カ父ノ名文字ヲ取リテ命名スル場合アレトモ此場合ハ父ノ名文字中ノ頭文字ハ用ヒス夫レ以外ノ文字ヲ用フル慣例ナリ
- 四、父カ于亨春ト云フ場合ニ於テ其子カ父ノ名文字中ノ頭文字即チ亨ノ字ヲ除キ春ノ字ヲ取リテ于春江ト命名スルカ如キ事實ハ支那從來ノ慣習トシテ有リ得ヘキコトナリ
- 五、證人居村ニ於テ父ノ名文字ヲ取リテ子ノ命名ヲ爲シタルコトハ現在ハナシ
- 六、支那ノ慣習トシテ命名ヲ爲ス節ハ自家若クハ親戚中ノ智識アル者カ名文字ヲ選擇シテ之ヲ附ケ自家又ハ親戚ニ名文字ヲ選ヒ得ル者ナク殊ニ塞外等ニアリテ名文字ヲ選フニ付キ智識ヲ有スルモノナキ場合ニ於テハ上述ノ慣例ニ反シ勝手ニ命名スル場合ナキニシモアラス

三、證人劉福祥訊問調書

- 一、支那ニ於ケル慣習トシテ父ノ名文字中ノ文字ヲ取リテ其子ニ名附ケルコトハ絶體ニ有リマセヌ例セハ于亨春ニ子供アリトセハ其子ニ自己ノ名文字中ノ春ノ字ヲ附シ于春江ト附ケルカ如キ事實ハ從來ノ舊慣上ヨリ觀テ斷シテナキコトデアリマス

鑑定事項

- 一、共有物分割前ノ賣買
- 二、共有者ノ死亡絶嗣ト其持分ノ歸屬
- 三、分得財産ノ處分
- 四、典得者ト開墾費償還請求權
- 五、家長ノ家産處分權

鑑定要旨

- 一、(一) 共有地ヲ共有者間ニ賣買スル場合ニモ先ツ之ヲ分割シタル上賣買スヘキ慣習ナリ(一ノ一)
- (二) 共有者ハ共有物分割前自己ノ持分ヲ他人ニ賣渡スコトヲ得サル慣習ニシテ斯ル賣買ハ無効ナリ(二ノ一、三ノ一、二ノ二及三ノ二)
- (三) 共有者ノ分家前共有者ノ一人タル家長ハ共同生活費ノ爲メ共有物ヲ有效ニ處分シ得ル慣習ナリ(二ノ三及三ノ三)

- 二、共有者ノ死亡絶嗣ノ場合ニモ其持分ハ他ノ共有者ニ歸屬スルコトナシ(一ノ二)
- 三、(一) 分得者ハ分得地ヲ賣却スルニ當リ父母ノ同意ヲ要セス(一ノ三)
- (二) 分得財産ハ同居ノ父母ト雖モ之ヲ處分スルコトヲ得ス(一ノ四)
- 四、典得者カ典地内ノ荒蕪地ヲ開墾シタル場合ニハ出典者カ其費用ヲ支拂フニアラサレハ典得者ハ回贖ノ請求ヲ拒ムコトヲ得ヘキ慣習アリ(一ノ五及二ノ四)
- 五、家長ノ家産處分權ニ付テハ一ノ(三)ニ同シ(金、民、大、四、(民)三三)

一、鑑定人江藤先訊問調書

- 一、共有地ヲ共有者間ニ賣買スル場合ニ於テモ先ツ之ヲ分割シタル上賣買スヘキ慣習ナルモ稀ニハ分割ヲ爲サシテ賣買ヲ爲スモノアリ
- 二、共有者ノ一人カ嗣子ナクシテ死亡シタル時ト雖モソノ持分ハ他ノ共有者ニ歸屬スヘキモノニアラス依テ他ノ共有者カ分家ヲ爲ス場合ニ於テハ死亡者ニ分與スヘキ財産ヲモ抽出保留シ其過房子ヲ定ムヘキナリ
- 三、分得者カ分得地ヲ賣却セントスル場合ニ於テ父母アルトキハ其家ニ同居スルト否トニ拘ハラズ一應其父母ニ協商スルヲ普通ノ例ト爲スモ協商セスシテ賣買シタリトテ其效力ニ何等消長ナキモノトス
- 四、分得財産ハ分得者ノ所有ニ屬スヘキモノナルヲ以テ假令同居ノ父母タリトモ其財産ヲ處分スルヲ得サルモノナリ
- 五、典得者カ典得地ノ四至境界以内ニ存スル荒蕪地ヲ開墾シタル場合ニ於テハ出典者カ右開墾費用ヲ支拂フニアラサレ

ハ典得者ニ於テ回贖ノ請求ヲ拒ムコトヲ得ヘキ慣習ナリトノ事ハ自分カ之ヲ聞知セルノミニテ實際ノ例ニ與リタルコトナシ

二、鑑定人江藤先訊問調書

- 一、各共有者ハ共有物ノ全部ニ付キ相均シキ持分ヲ有スルモノニシテ各共有者ハ共有物ノ分割ヲ爲シタル上之ヲ他ニ賣渡スハ格別分割ヲ爲サシテ自己ノ持分ヲ他ニ賣渡スコトヲ得サル慣習ナリ
- 二、依テ例ヘハ甲カ或ル土地ヲ乙ニ出典シ其後甲ノ直系卑屬ナル丙丁戊ノ三人ノ内丁カ該土地ヲ典得者タル乙ニ賣却シタリトスルモ該賣買ハ無効ナリトス
- 三、但各共有者カ未タ分家ヲ爲サル場合ニ於テ共有者ノ一人タル家長カ共同生活費ニ充ツル必要上共有者ノ同意ヲ得スシテ共有物ヲ處分スルモ其ハ之ヲ有効ト爲スヘキ慣習ナリ
- 四、當地方ニ於テハ典得者カ典得地ノ四至境界以内ニ存スル荒蕪地ヲ開墾シタル場合ニ於テハ出典者カ右開墾費用ヲ支拂フニアラサレハ典得者ニ於テ回贖ノ請求ヲ拒ムコトヲ得ヘキ慣習ナリ

三、鑑定人劉心田訊問調書

- 一、各共有者ハ共有物ノ全部ニ付相均シキ持分ヲ有スルモノニシテ各共有者ハ共有物ノ分割ヲ爲シタル上ニアラサレハ之ヲ他人ニ賣渡スコトヲ得サル慣例ナリ
- 二、依テ例ヘハ甲カ或ル土地ヲ乙ニ出典シ其後甲ノ直系卑屬ナル丙丁戊(該土地ヲ丙丁戊ノ共有トス)ノ内丁

カ該土地ヲ典得者タル乙ニ賣却シタルモ該賣買ハ無効ナリ。
三、各共有者カ未タ分家ヲ爲サル場合ニ於テ共有者ノ一人タル家長カ共有物ヲ處分シタル場合ニ限り之ヲ有効ト爲スヘキナリ但此場合ニ於テモ出來得ル限り他ノ共有者ニ協議ヲ爲ス事ヲ要ス

鑑定事項

- 一、廟へノ寄附
- 二、廟へノ寄附アリシコトノ表示
- 三、寄附金額ト寄附者ノ資産
- 四、住持ノ寄附金處分權

鑑定要旨

- 一、(一) 病氣平癒ノ謝恩トシテ廟ニ金員ヲ寄附スルコトアリ(一ノ二及五ノ三)
- (二) 債權者カ廟力ヲ藉リテ貸金等ノ取立ヲ爲シタル場合ニ多額ノ金員ヲ寄附スルモノアリ(五ノ三)
- 二、(一) 土地家屋ヲ寄附スル場合ニ於テハ寄附者ハ捨單ヲ廟ニ差入ル、慣習ナリ、此場合ニ廟ハ碑ヲ建ツルヲ例トス

(一ノ四及二ノ一)

- (二) 寺廟ヨリハ寄贈者ニ書類ヲ交付スルコトナシ(三ノ一四ノ一及五ノ二)
- (三) 石碑ヲ建立シタル場合ハ捨單ヲ作成セス(三ノ一)
- (四) 金錢ノ寄贈ノ場合ニハ石碑ヲ建立シ土地家屋ノ場合ニハ捨單ヲ差入ル、ヲ例トス(四ノ一及四ノ三)
- (五) 寺廟ノ記録ニハ寄贈ノ事實ヲ記載スルコトナシ(四ノ二)
- (六) 金員ノ寄附ニハ何等ノ書付ヲ作成セス即金額大ナル場合ハ碑ヲ建立シ小額ノ場合ハ小札ニ記載シテ揭示ス(五ノ一)
- (七) 土地家屋ノ寄附ニハ捨單ヲ差入ル、モ時ニ老契ヲ交付シ捨單ヲ差入レサル場合アリ(五ノ二)
- (八) 形式上金錢ヲ寄附シタルモノ、如ク取扱ヒ其金ニテ土地ヲ買ヒテ寄附スルモノ多シ(五ノ七)
- 三、特別ノ事情ナクシテ三千七百吊ノ寄附ヲナシタル者ハ約四十萬吊ノ財産ヲ有スル者ナルヘシ(五ノ六)
- 四、住持ハ寄附金ヲ自由ニ處分スルコトヲ得ス(五ノ八)(金、大、四、(民)二八)

一、鑑定人性遠訊問調書

- 一、今ヨリ百餘年許以前ニ於テ銀三千七百吊ヲ廟ニ寄附シタル事ハ普通ノ事柄ナルヤ之ヲ知ラス
- 二、病氣平癒ノ謝恩トシテ廟ニ金員ヲ寄附スル事ハ往々アル事ナリ
- 三、今ヨリ百餘年許以前石古寺ニ病氣平癒ノ謝恩トシテ八千吊許ノ金員ヲ寄附シタルモノアリトノ事ヲ祖師ヨリ聞及居

レリ其時ハ其金ニテ土地ヲ買ヒ求メ其他何事モナサ、リシ趣ナリ

四、土地家屋ヲ寄附スル場合ニ於テハ寄附者ハ捨單ヲ廟ニ差入ル、慣習ナリ此場合ニ於テハ廟カ碑ヲ立ツル例トス

五、被告カ原告ノ廟ニ對シ銀三千七百吊ヲ寄附シタルコトヲ聞知シタル事ナシ

六、例ヘハ今ヨリ百年許前銀三千七百吊ヲ廟ニ寄附シタル事アリトスルモ捨單トカ碑トカアラハ格別然ラサレハ今ヨリ

百年モ以前ノ事柄カ後世ニ傳ハル事カ稀ナラン

七、石古寺ニ寄附シタモノハ韓某張某ナリト聞及ヒ居ルモ其後人カ何所ニ居住セルヤ之ヲ知ラス

二、證人心修訊問調書

一、今ヨリ百餘年前寺廟ニ對シ三千餘吊ノ寄附ヲ爲シタルモノニ對シテモ捨單ヲ作成シアルカ若シクハ石碑ヲ建立シアルヘシ

三、證人心修訊問調書

一、支那ノ慣習上寺廟ニ對シ金品ヲ寄贈スル場合ニ於テハ普通捨單ヲ作成シ寄附者ヨリ寺廟ニ差入ル、事トナリ居レリ

此場合ニ於テ寺廟ヨリ寄附者ニ對シテハ何等書類ヲ交付セス又金品ヲ寄贈シタル場合ニ於テ石碑ヲ建設スル事アルモ

此場合ニ於テハ捨單ヲ作成セス

四、證人交煉訊問調書

一、支那ノ慣習ニ依レハ寺廟ニ對シ金錢ヲ寄贈シタル場合ニ於テハ石碑ヲ建立シテ其事實ヲ永久ニ存スルヲ例トシ土地

家屋ヲ寄贈スル場合ニ於テハ寄附者ヨリ廟ニ對シ捨單ヲ差入ル、例トス而シテ右何レノ場合ニ於テモ寄附者受ケタル寺廟ヨリ寄附者ニ對シ領單ヲ交付スルコトナシ

二、寺廟ノ記録ニハ寄附ノ事實ヲ記載スル事ナシ

三、金錢ヲ寄贈スル場合ニ捨單ヲ作成スル事ナシ

五、鑑定人劉心田訊問調書

一、當地方ノ慣習上廟ニ金員ヲ寄附スル場合ニ於テハ寄附者ハ何等書付ヲ作成セス又廟ニ於テモ別ニ受領證等ヲ交付スル事ナク金額ノ多キモノニ對シテハ碑ヲ建設シテ其人ノ德ヲ表彰シ又其金額ノ少キモノニ對シテハ小サキ札ニ其旨ヲ記載シ之ヲ揭示シ置ク事アルモ右ハ何レモ廟ノ隨意ニシテ必ス之ヲ爲サ、ルヘカラサルニアラス

二、土地家屋ヲ寄附スル場合ニ於テハ普通寄附者ヨリ捨單ヲ廟ニ差入ル、例ナルモ中ニハ老契ヲ交付シテ捨單ヲ差入レサルモノアリ此場合廟ヨリ寄附者ニ對シテハ何等書付ヲ交付セサルハ前同様ナリ

三、今ヨリ百年許以前ニ於テ銀三千七百吊ヲ廟ニ寄附スル等ノ事ハ普通ノ事柄ナリヤ否ヤ分ラサルモ債權者カ廟力ヲ藉リテ貸金等ノ取立ヲ爲シタル場合ニ於テ多額ノ金員ヲ寄附スルモノアリ又病氣平癒ノ謝恩トシテ廟ニ金員ヲ寄附スルコトモ往々アル事ナリ

四、被告カ原告ノ廟ニ對シ銀三千七百吊ヲ寄附シタル事實ヲ聞知シタルコトナシ

五、今ヨリ百年許前銀三千七百吊ヲ廟ニ寄附シタル事アリトスルモ今ヨリ百年許モ以前ノ事柄カ現世ニ聞ヘ居ル事ハ殆

ントナキコト、思フ

- 六、故ナク三千七百吊モ廟ニ寄附シタリトセハ約四十萬吊許ノ財産ヲ有スルモノナラン若シ事情アリテ寄附シタルモノトスルモ餘程ノ財産家ナラン
- 七、金錢ヲ寄附スル場合ニ於テハ形式上金錢ヲ寄附シタルモノ、如ク取扱ヒ置キ其實其金ニテ土地ヲ買求メテ寄附スルモノ多キ様ナリ
- 八、住持ハ寄附ヲ受ケタル金錢ヲ勝手ニ處分スルヲ得サルモノナリ

鑑定事項

- 一、冊地ノ意義
- 二、「牧廠牛道俱係夥用」ノ意義
- 三、賣契寫

鑑定要旨

- 一、冊地トハ耕作地ノ義ナリ(一)
- 二、「牧廠牛道俱係夥用」トハ衆人ノ共用スル牧場ノ義ナリ(二)

三、賣契甲第一號證寫(金、明、四四、(民)一三)

鑑定人劉心田訊問調書

- 一、甲第一號證中冊地ト稱スルハ耕作地ヲ指シテ云フモノナリ
- 二、該證書中「牧廠牛道俱係夥用」ト云フ意味ハ衆人ノ共用ニスル牧場ノ義ニシテ即チ耕作地以外ノ地ハ牧場ニテ衆人ノ使用ニ係ル旨ノ記載ナリ

甲第一號證

立杜絕賣契人畢善良因正用不足今將自己祖遺冊地貳段捌日央人說充情愿出賣與邵信名下永遠爲業同衆言明賣價市錢捌仟捌佰吊整當日筆下交足並無拖欠自賣之後凡四至以內土上下荒墾水溝毫無除留牧廠牛道俱係夥用族中人等各無爭差未曾包奪他人寸土至於稅契過撥一任買主自便不與賣主相干錢糧隨地完納此係兩願永無返悔恐後無憑立杜絕賣契爲證

計開

坐落金州城南吳家屯庄南東西地一段四日三畝係南邊東至道南至嶺西至道北至界石又川道子地二段三日三畝東至道南至界石西至道北至界石四至分明

中說人	何永平
王	王永春
畢	畢盛順
族中人	畢慶壽

宣統元年十一月二十四日 立杜絕

中見人

立字人
賣契人

畢	趙	王	吳	吳	王	王	蔡	蔡	蕭	張	吳	趙	畢	畢	畢	畢
善	永	永	永	永	希	希	永	德	德	廣	廷	永	文	世	善	慶
良	德	豐	年	昕	智	義	發	隆	祥	發	蘊	正	章	昌	止	餘
+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+

二三八二

鑑定事項

- 一、貸金ト借帖ノ作成
- 二、兄弟ノ土地買入ト名義人
- 三、土地ノ分得ト賣契ノ交付
- 四、分家ト典得地ノ處分
- 五、兄弟何レカ家長トナルヤ
- 六、典得地分配後ノ回贖請求ノ相手方

鑑定要旨

- 一、貸金ニ付テハ借帖ヲ作成スルコトヲ通常トス(一、二及八)
- 二、兄弟カ他人ヨリ土地ヲ買フ場合ニハ其賣契ニハ長男ノ名ノミ記載スルヲ例トス(四)
- 三、分得シタル部分カ賣契記載ノ土地全部ナルトキハ賣契ヲ之ニ交付スルモ然ラサルトキハ長男カ之ヲ保存ス(五)
- 四、(一) 分家ニ當リテハ典得地ハ各典地毎ニ纏メテ分配ス(六)

二三八三

- (二) 分書ニハ典得地ヲ記載セス(七)
- (三) 典得地ノ分配ニハ典價ノ割當ヲ定メテ分配ス(十一)
- 五、普通ハ長男カ家長ナルモ次子ノ家長トナル場合アリ必スシモ順序ニ依ラス(九)
- 六、典得地ヲ分配シタルトキハ回贖者ハ典得者ノ主タル者ニ向テ回贖ノ請求ヲ爲スモ又總テノ者ニ向テ請求スルモ差支ナシ(十)(金、大、二、(民)七〇)

鑑定人劉心田訊問調書

- 一、利息附ノ貸金ハ帖簿ニ記入セスシテ借帖ヲ作成スルコトカ通常ノ例ナリ無利息ノモノニテモ纏リタル金額ノモノハ借帖ヲ作ルカ一般ノ例ナリ
- 二、一族間ノ一時的ノ貸借ニ付テハ證書ヲ作成セスシテ貸ス場合ハアリ先ニ貸シタル分ノ返済ヲ受ケサルニ尙纏リタル額ヲ貸ス様ナ事ハナシト思フ
- 三、一族間ニ貸金アル場合ニ其債務者カ他姓ニモ借アリテ土地ヲ出典スル必要アル等ノ場合ニハ他姓ノ分ヲ先ニシ一族間ノ債務ヲ後ニスルモノナリ
- 四、數名ノ兄弟カ他カラ土地ヲ買フ場合ニ其賣契ニハ長男ノ名ノミ記載スルヲ例トス
- 五、分家スルトキニ兄弟ノ一人カ分得シタル部分カ賣契ニアル土地全部ナルトキハ分書ト共ニ賣契ヲ其者ニ交付スルモ全部ナラサルトキハ長男カ保存スルモノナリ

- 六、分家スル時他ヨリ典得シタル土地ハ兄弟カ三人ナラハ先ツ誰ハ王姓ノ土地誰ハ劉姓ノ土地ト云フ様ニカタメテ分配ス時ニ二日地又ハ三日地ヲ三人ニテ分配スルコトアルモ普通分契ニ記載セス
- 七、分書ニハ多クノ場合ニ典得土地ハ記載セス只分割シテ耕作スルコト、ス但二三十年前ハ之ヲ祖遺ノ地ト同様ニ分書ニ載セタルモアリ
- 八、自分ノ知ツテ以來一纏メニ一千三百吊モ貸ス時ハ知人親戚ノ間柄ニテモ證書ヲ作成ス
- 九、長男カ普通家長ナルモ長男カ白痴ナトノ場合ニハ其次子カ家長タルモ必スシモ其ハ順序ニ依ルノ限リニアラス
- 十、出典シタル土地ヲ分家ニ依リ分配シタルトキハ回贖者ハ典得者ノ主タル者ニ向テ請求スルモ又皆ノ者ニ向テ請求スルモ差支ナシ
- 十一、普通典得地ヲ分配スルトキハ凡ソ典價ノ割當ヲ定メテ分配スルモノナレハ争ノ生スルコトナシ
- 十二、但家屋(典得)カ倒壊シタル場合等ニハ争ヲ生スルコトアルモ普通代銀ニ見積リテ分得スルモノナレハ争ヲ生スル場合ハナシト思料ス

鑑定事項

典地ノ回贖ト農作物ノ收取權

鑑定要旨

典地ノ回贖ニ當リ既ニ蒔付ヲ爲シタル場合ハ其農作物ハ典主ニ於テ收取スル權利アリ（金、明、四四、（民）、五四）

鑑定人劉心田訊問調書

一、典地ヲ回贖スル場合ニ己ニ蒔付ヲ爲シタル場合ハ其農作物ハ元ノ典主ニ於テ收取スルコト通常ナリ

鑑定事項

- 一、對契ノ意義
- 二、「立對契人」ノ記載アル文契ノ性質
- 三、讓渡ヲ目的トスル典契ノ形式
- 四、典契租契其他ノ文契ノ形式
- 五、對契ノ寫

鑑定要旨

- 一、（一） 兌契ト對契トハ語音相通スルヲ以テ同一義ニ解シテ用ユル場合アリ（一ノ一）
- （二） 對ノ文字ハ當事者各一通宛所持スル意味ナルヘシ（二ノ四）
- 二、「立對契人」ノ記載アル文契ハ兌契ナリ（一ノ二及一ノ三）

- 三、文契ニ典到ノ文字アルモ錢到回贖ノ文字ノ記入ナキモノハ表面典契ニ藉リ眞實ハ物ヲ讓渡スル文契ナリ（一ノ三）
- 四、地租負擔ニ關スル文言及ヒ錢到回贖等ノ文言ノ記載ハ典契ノ要件ニシテ又租帖ノ文字ナクシテ典到ノ文字アルトキハ租契ト云ヒ難シ、土地讓渡ノ文契ハ兌契ト書シ餘租地ノ權利脫退ノ場合ハ退契ト書ス（二ノ一）
- 五、對契申第一號證寫（旅、高、大、八、（控）、二八、土地家屋引渡請求事件）

一、鑑定人李鳳鳴訊問調書

一、支那ニ於テハ兌契ト對契ト語音相通ス從テ民間淺學者ニ在リテハ兌、對ノ兩文字ヲ同一意義ニ解シ區別セスシテ用イ居ル例アリ

然レ共其眞ノ字義ハ兌ハ讓渡、對ハ相對ノ意義ニ用ユヘキナリ

二、文契ニ立對契人云々ノ文字記載シタル場合ハ其ハ兌契ノ意味ニ於テ作成セラレタル文契ナラムト思料スルモ其前後ノ文言ヲ見ルニアラサレハ如何共明言シ得ス

三、御示シノ文契ハ民國二年ニ作成セラレアルヲ以テ當時ハ既ニ旗民不交產律ハ廢止セラレ旗人民間ノ財產讓渡ハ可能トナリ居リシニ不拘、旗民不交產律ノ因習ヲ襲用シテ表面典契ニ藉リ其眞實ハ所載物件ヲ讓渡シ其證左トシテ成立シタル文契ナリト認定ス其理由ハ御示シノ文契ニハ典到ノ文字アレ共通例典契ニ記載スヘキ錢到回贖ノ文字ノ記入ヲ缺如スレハナリ

要スルニ御示シノ文契中ノ對契ナル文字ハ兌契ノ意味ニ於テ執筆セラレタルモノト信ス

- 四、御示シノ文契中「毎年兌納租粮玖斗正交與業主完外兌紅倉八日半」ナル文言ハ典得者ヨリ小作料九斗ヲ毎年業主權者ニ納入シ業主權者ヲシテ紅倉地八日半ニ對スル紅倉ヲ納メシムルトノ意味ナリ
- 五、御示シノ文契ニ業主權者トシテ表示セラレタルモノカ旗人ナレハ計開ニ表示セラレタル地所ハ凡テ紅倉地ナルヘシ
- 六、御示シノ文契ノ前文ニアル紅倉地八日半ノ地所ト同契計開ニ表示セラレアル地所トハ面積ニ於テ必スシモ相一致スルモノニアラス其理由ハ紅倉地ノ面積ハ旗人衙門ニ於ケル紅倉納人ニ關スル登簿面積ヲ表示シ計開表示ノ面積ハ實在ノ面積ヲ表ハスモノナレハ丈量ノ當時ニ於ケル情況ノ如何ニ依リ時ニ増減アルヲ免レサルヲ以テナリ
- 七、御示シノ文契中値市錢捌千陸百吊トアルハ賣買價格ノ表示ト認ム
- 八、支那ニ於テハ何種ノ文契ニ拘ハラズ縫字ヲ爲シアル場合ハ當事者雙方カ各一通宛所持スルコトヲ示スモノニシテ縫字アル場合ハ文契ノ本文中ニハ事更各一通宛所持スル旨ハ記載セス

二、鑑定人劉心田訊問調書

- 一、御示ノ證書ハ至極不明瞭ナルモノニシテ典契、兌契、租契孰レトモ判斷スルヲ得ス
 普通典契ニ具備スヘキ要件タル地租負擔ニ關スル點及錢到回贖等ノ文言ノ記入ヲ缺如セルヲ以テ典契ナリト斷スル能ハス尙租料ノ文字ヲ記入シアルモ通例租契ニ記載スヘキ租帖ノ文字ナクシテ典到ノ文字アルヲ以テ租契トモ見難ク又土地讓渡ノ場合ノ文契ハ兌契ト書シ餘租地ノ權利脫退ノ場合ハ退契ト書キ居ルヲ以テ之等ニモ該當セス
- 二、御示ノ甲第一號證中典到トアル文字及吳世盛名下ニ房地トアル點ノミ見レハ吳世盛所有ノ土地ヲ典到シタル文契ト

モ見ユレ共前後ノ記載關係ヨリ推認シテ何レノ種類ノ文契トモ判斷爲シ難シ

- 三、御示ノ甲第一號證中値市錢八千六百吊ナル文字ノ值ノ字ハ代價ヲ表ハス意味ナリト信スルモ其表ハス代價ハ書面自體ノ性質不明ナルヲ以テ何ノ代價ノ表示ナルヤ不明ナリ
- 四、尙其書面中ニ記載アル對ノ文字ハ當事者各一通宛所持ストノ意味ナラント思料ス從テ對ノ文字アルカ爲メニ其書面カ權利脫退ノ意味ヲ包含スルモノトハ認メ難シ

甲第一號證

立對契人王^云財^詳因無地耕種央人說允情懇典到吳世盛名下房地壹分同衆言明値市錢捌仟陸佰吊正筆下付清並施欠每年兌納租粮玖斗正交與業主完外兌紅倉八日半恐後無憑立對契存證

計開

坐落大土城子後街土平房六間門窗俱全前後園貳處西園壹處東牆根南全河外有小樹嵐一處
 共地拾玖段參拾四日

中說人

- 李 桂 林+
- 王 文 誥+
- 王 考 詳+
- 王 英 詳+
- 王 守 詳+

民國二年七月二十五日立

立字人	王 于 王	双 祥 +
對契人	王 于 王	凌 云 +
		財云 祥 +

一三九〇

鑑定事項

一、壠及一弓ノ意義

鑑定要旨

一、壠トハ支那尺一尺七寸ヲ普通トシ一弓トハ五尺ヲ云フ（一及二）（金、明、四二、（民）、一〇一、土地境界確認妨害排除請求事件）

鑑定人張福答訊問調書

一、一壠ト稱スルハ支那尺ニテ一尺七寸カ普通ニシテ小サキハ一尺六寸位大キナルハ一尺八寸位ナルモノアリ

二、一弓ト稱スルハ支那尺五尺ヲ稱スルモノナリ

鑑定事項

一、分得地ノ出租名義

二、出典地ノ出租

三、出典地ノ分得ト分書ノ記載

四、分家ノ戸數ト分家單ノ數

五、居村ノ土地ノ分得ト分書ノ記載

六、分書寫

鑑定要旨

- 一、一旦分家シテ二人カ分得シタル土地ヲ更ニ四名ノ名義トシテ出租スルカ如キハ曾テ其例ヲ見ス（一）
- 二、出典地ヲ其儘出租シ或ハ典契ニ書換アレニ拘ラス之ヲ書改メスシテ其儘出租スルカ如キ例ハ更ニ知ラス（二）
- 三、出典地ヲ分得シタルトキハ其分書ニハ必ス出典シアルコト及其典價ヲ記載スヘキモノナリ（三）
- 四、兄弟四人カ二人宛二戸ニ分家スルトキハ分家單四通ヲ作成シ各人ニ交付スヘキモノナリ（三）
- 五、分得地カ居村ノ土地ナルトキハ居村ノ土地ナルコトヲ分書ニ記載スルヲ通例トス（四）
- 六、分書甲第一號證寫（旅、高、大、二、（控）、二七）

一、土地賣買ヲ目的トスル典契ノ形式

二、賣契 寫

三、典契 寫

鑑定要旨

- 一、旗人ハ民人ニ土地ヲ賣却スルコトヲ禁セラレアリタルモ典ノ名義ヲ以テ事實賣買ヲ爲シタルコトアリ斯ル典契ニハ回贖スルコトヲ得ル文言ナキヲ例トス(一)
- 二、賣契乙第一號及第二號證寫
- 三、典契乙第三號證寫(金、明、四四、(民)、九〇)

鑑定人劉心田訊問調書

一、從來旗人ハ民人ニ土地ヲ賣却スルコトヲ禁セラレアリタルモ典ノ名義ヲ以テ事實賣買ヲ爲シタルコトアリ其場合ニハ三國ハ賣ルコトヲ得タルヲ以テ國ト云フ名稱ニテ賣リタルモノナリ故ニ典契ト賣契ト二通ヲ作成シ其賣價ハ各證ニ分配シタルモノナリ夫レテ典契ニハ回贖スルコトヲ得ル文言ナキヲ例トス又賣契ニアル國ト云フ土地ハ典契ノ内ニ包含サレ居ルモノナリ

含サレ居ルモノナリ

二、乙一號二號賣契ハ矢張り前陳ノ通り旗人ヨリ民人ニ土地ヲ賣リタル賣契ナルモ乙第三號證典契ニ依レハ回贖スルコトヲ得ル文言アルヲ以テ賣契上ノ國地ト爲シタルモノハ典契ニ包含シアルヲ以テ賣買ノ土地ハ回贖スルコトヲ得サルモ典契ノ土地ト實際ヲ引合セ賣契上以外ノ土地アレハ其以外ノ分ハ回贖スルコトヲ得ルモノナリ又賣契ノ土地ト典契上ノ土地カ同一數ニシテ實際餘分ノ土地ナキトキハ矢張り回贖スルコトヲ得サルモノナリ

乙第一號證

立杜絕賣契人滿洲廂紅旗手善佐領下兵祿祥布英阿同族侄魏朝玉魏朝實因糊口無資今有祖遺族中夥產空宅基一處央族中及親隣人等說允情愿絕賣與劉德範劉德廣名下修理居住永遠爲業同衆言明賣價銀肆拾伍兩正其價筆下交清並無短欠自賣之後凡土上下四至以內磚瓦石塊以及大小樹株毫無除留任其買主遵例稅契自便不如賣主相干恐後無憑立杜絕賣契爲證

計開

坐落兩金社九甲正藍界內劉家屯房後空宅基一處後園一處糞廠一處場園一處南北一百拾柒弓東西寬陸拾肆弓東至道西至格南至墻根北至遼河南埃菜園一處東至格西至格南至格北至道

族中人

魏

朝

法瑞治興網

吉爾章阿+